



0042667-000

特203-644

国民学校令及關係諸達法規集

兵庫縣教育会・編纂

兵庫縣教育会

昭和16

AHD

國民學校令及關係諸達法規集

法財人團 兵庫縣教育會編纂



國民學校令及關係諸達法規集

凡例

- 一、本書ハ加除自在現行教育法規ノ姉妹編ナリ
- 一、本書ハ國民學校令（昭和十六年二月廿八日）ヨリ昭和十六年五月八日ニ至ル法令、訓令、諸通牒等ヲ収録ス
- 一、本書ハ國民學校令發布ニ伴ヒ關係諸達法規ノ改正セラレタルモノヲ輯録ス
- 一、本書ハ中等學校、師範學校、青年學校、國民學校、幼稚園ノ教職員及教育學事關係者ノ實務ニ便スル爲特ニ輯録刊行ス

以上



國民學校令及關係諸達法規集

目次

○教育審議會官制公布ノ上諭	一
○國民學校令(新)	六
○國民學校令施行規則(新定)	一〇
○小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整理ニ關スル件(新定)	一三
○中學校令(改正)	一七
○高等女學校令(改正)	二〇
○實業學校令(改正)	二二
○師範學校令(改正)	二四
○高等學校令(改正)	二六
○青年學校令(改正)	二八
○幼稚園令(改正)	三〇
○私立學校令(改正)	三二
○義務教育費國庫負擔法(改正)	三三
○國民學校教育費國庫補助法(改正)	三五
○現役國民學校職員俸給費國庫負擔法(改正)	三七
○現役小學校職員俸給費國庫負擔法施行規程(改正)	三九
○市町村立小學校職員ノ俸給及旅費ノ負擔ニ關スル件(改正)	四一
○公立學校職員分限令(改正)	四三
○公立學校職員俸給令(改正)	四五
○公立學校職員待遇官等令(改正)	四七
○國民學校及青年學校教科用圖書刷發行之關スル規程(改正)	四九
○國民學校及青年學校教科用圖書刷發行之關スル規程ニ依リ	五一
○新ニ刷發行ヲ許可スル國民學校教科用圖書中ノ定價	五三
○少年救護法(改正)	五五
○國民學校職員ヲ對家トスル教育關係雜誌等ニ關スル件(新定)	五七
○國民學校校名ニ關スル件(新定)	五九
○國民學校教員檢定委員會官制	六一
○國民學校令施行ニ關スル臨時規程	六三
○高等師範學校規程(改正)	六五
○師範學校規程(改正)	六七

- 工業學校規程 (改正) 三三
- 農業學校規程 (改正) 三三
- 商業學校規程 (改正) 三三
- 船舶學校規程 (改正) 三三
- 水産學校規程 (改正) 三三
- 職業學校規程 (改正) 三三
- 私立學校令施行規則 (改正) 三三
- 公立私立盲學校及聾啞學校規程 (改正) 三三
- 實業學校卒業程度檢定規程 (改正) 三三
- 青年學校教員資格規程 (改正) 三三
- 國民學校制度ノ實施ニ伴フ教育基金令等ノ規定ノ整理等ニ關スル件 (新設) 三三
- 教科用圖書檢定規則 (改正) 三三
- 國民學校及青年學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程第一條第二項ニ依ル發行會社ノ供給區域 (改正) 三三
- 國民學校及青年學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程 (改正) 三三
- 教員檢定ニ關スル規定第五條第九號ニ依ル認定ニ關スル規則 (改正) 三三
- 少年教護法施行令 (改正) 三三
- 教育基金令 (改正) 三三
- 國民學校教育費國庫補助法第三條ノ國民學校訓導ノ數算出ニ關スル件 (改正) 三三
- 北海道廳視學官地方視學官北海道廳視學及府縣視學ノ任用ニ關スル件 (改正) 三三
- 國民學校職員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件 (改正) 三三
- 義務教育費國庫負擔法施行令 (改正) 三三
- 義務教育費國庫負擔法施行規則 (改正) 三三
- 義務教育費國庫負擔法施行規程 (改正) 三三
- 國民學校職員住宅費補助ニ關スル規程 (改正) 三三
- 國民學校職員疾病療治料給與ニ關スル規程 (改正) 三三
- 現役國民學校教員俸給費國庫負擔法第一條ノ教員ニ關スル件 (縣新設) 三三
- 學校身體檢査規程 (改正) 三三
- 道府縣學校身體檢査集計表調製方法 (改正) 三三
- 學校職員身體檢査規程 (改正) 三三
- 國民學校令施行規則實施ニ關スル件 (縣學務部長) 三三
- 國民學校令施行規則實施ニ關スル件 (縣學務部長) 三三
- 實業專門學校卒業程度檢定規程 三三
- 國民學校令施行規則第五十三條ノ規定ニ依ル學級又ハ學校ノ編制ニ關スル規程 三三

以上

教育審議會官制公布ノ上諭

朕文物ノ進運及中外ノ情勢ニ鑑ミ國本ノ無窮ニ培ヘンカ爲内閣ニ委員會ヲ設置シ教育ノ内容及制度ヲ審議シ其ノ刷新振興ヲ圖ラシムノ必要ヲ認メ教育審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年十二月十日

内閣總理大臣公爵 近衛 文麿

●國民學校令

(昭和十六年二月二十八日)
勅令第四百四十八號

朕惟密顧問ノ諮詢ヲ經テ小學校令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國民學校令

第一章 目的

第一條 國民學校ハ皇國ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的
鍊成ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二章 課程及編制

第二條 國民學校ニ初等科及高等科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ初等科
又ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第三條 初等科ノ修業年限ハ六年トシ高等科ノ修業年限ハ二年トス

第四條 國民學校ノ教科ハ初等科及高等科ヲ通シ國民科、理科、體操
科及藝術科トシ高等科ニ在リテハ實業科ヲ加フ

國民科ハ之ヲ分テ修身、國語、國史及地理ノ科目トス
理科ハ之ヲ分テ算數及理科ノ科目トス

體操科ハ之ヲ分テ體操及武道ノ科目トス但シ女兒ニ付テハ武道ヲ缺
クコトヲ得

藝術科ハ之ヲ分テ音楽、習字、圖畫及工作ノ科目トシ初等科ノ女兒
ニ付テハ裁縫ノ科目ヲ、高等科ノ女兒ニ付テハ家事及裁縫ノ科目ヲ加

フ實業科ハ之ヲ分テ農業、工業、商業又ハ水産ノ科目トス
前五項ニ稱グル科目ノ外高等科ノ於テハ外國語其ノ他必要ナル科目ヲ
設クルコトヲ得

第五條 國民學校ニハ高等科ヲ修了シタル者ノ爲ニ特修科ヲ置クコトヲ
得其ノ修業年限ハ一年トス

特修科ヲ設置シ又ハ廢止セントスルトキハ市町村、市町村學校組合又
ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

特修科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 國民學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタル
ベシ但シ郷土ニ關スル圖書、歌詞、樂譜等ニ關シ文部大臣ニ於テ別段
ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 國民學校ノ教則及編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三章 就 學

第八條 保護者(兒童ニ對シ親權ヲ行フ者、親權ヲ行フ者ナキトキハ後
見人ノ又ハ後見人ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ以下同ジ)ハ兒童ノ滿六歲ニ

達シタル日ノ翌日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヨリ滿十四歲ニ達シタ
ル日ノ屬スル學年ノ終迄之ヲ國民學校ニ就學セシムルノ義務ヲ負フ

第九條 前條ノ規定ニ依リ就學セシメラルベキ兒童(學齡兒童ト稱ス以
下同ジ)ノ瘋癲白痴又ハ不具發疾ノ爲之ヲ就學セシムルコト能ハズト
認ムルトキハ市町村ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前條ニ規定スル保護者

ノ義務ヲ免除スルコトヲ得
學齡兒童ノ病弱又ハ發育不完全其ノ他已ムラ得ザル事由ニ因リ就學時

期ニ於テ之ヲ就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村ハ其ノ
就學ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨地方長官ニ報告
スベシ

第十條 第二十八條ノ規定ニ依リ國民學校設置ノ義務ヲ免セラレタル區
域内ノ學齡兒童ノ保護者ハ第八條ニ規定スル保護者ノ義務ヲ免除セラ
レタルモノトス

第十一條 學齡兒童國民學校以外ノ學校ニ於テ國民學校ノ課程ト同等以
上ト認ムル課程ヲ修ムルトキハ第八條ニ規定スル保護者ノ義務ノ履行
ニ關シテハ其ノ期間國民學校ニ就學スルモノト看做ス

前項ノ課程ノ認定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 學齡兒童ヲ使用スル者ハ其ノ使用ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨
グルコトヲ得ズ

第十三條 國民學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ慮アル兒童又ハ品行不良
ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認ムル兒童ノ國民學校ニ出席スルヲ
停止スルコトヲ得

第四章 職 員

第十四條 兒童ニシテ其ノ年齡就學ノ始期ニ達セザルモノハ之ヲ國民學
校ニ入學セシムルコトヲ得ズ

第十五條 國民學校ニハ學校長及訓導ヲ置クベシ

國民學校ニハ教頭兼訓導及准訓導ヲ置クコトヲ得

第十六條 學校長及教頭ハ其ノ學校ノ訓導ノ中ヨリ之ヲ補ス

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
教頭ハ學校長ヲ輔佐シ校務ヲ掌ル

第十七條 訓導及看護訓導ハ判任官ノ待遇トス但シ學校長又ハ教頭タル
訓導ハ委任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

訓導ハ學校長ノ命ヲ承ケ兒童ノ教育ヲ掌ル

看護訓導ハ學校長ノ命ヲ承ケ兒童ノ看護ヲ掌ル

准訓導ハ學校長ノ命ヲ承ケ訓導ノ職務ヲ助ク

第十八條 訓導及准訓導ハ國民學校教員免許狀ヲ有スル者タルベシ

看護訓導ハ女子ニシテ國民學校看護訓導免許狀ヲ有スルモノタルベシ

教員免許狀ハ師範學校ヲ卒業シ又ハ訓導若ハ准訓導ノ檢定ニ合格シタ
ル者ニ地方長官之ヲ授與ス

看護訓導免許狀ハ看護訓導ノ檢定ニ合格シタル者ニ地方長官之ヲ授與
ス

前二項ノ檢定ヲ施行スル爲道府縣ニ國民學校教員檢定委員會ヲ置ク

國民學校教員檢定委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

教員免許狀及看護訓導免許狀其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ
定ム

第十九條 特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ國民學校教員免許狀ヲ有セ
ザル者ヲシテ准訓導ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十條 國民學校職員ハ教育上必要アリト認ムルトキハ兒童ニ懲戒ヲ
加フルコトヲ得但シ懲罰ヲ加フルコトヲ得ズ

第二十一條 國民學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルト
キハ教員免許狀其ノ効力ヲ失フ
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

教員免許狀ヲ有スル者不正ノ行爲其ノ他教員タルベキ體面ヲ汚辱スルノ行爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣又ハ地方長官ニ於テ其ノ教員免許狀ヲ褫奪ス

前二項ノ規定ハ國民學校養護訓導免許狀ヲ有スル者ニ之ヲ準用ス

第二十二條 地方長官ニ於テ行ヒタル國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ノ褫奪ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二十三條 准訓導及第十九條ノ規定ニ依リ准訓導ノ職務ヲ行フ者ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第五章 設置

第二十四條 市町村ハ其ノ區域内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ必要ナル國民學校ヲ設置スベシ

第二十五條 地方長官ハ町村ガ左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ國民學校設置ノ旨其ノ町村ト他ノ市町村トノ學校組合ヲ設クベシ

一 町村ノ實力ニ於テ學齡兒童ノ負擔ニ堪ヘザルトキ

二 町村ニ於テ學齡兒童數ノ一國民學校ヲ構成スルニ足ラズ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一國民學校ヲ構成スルニ足ルベキ數ヲ得ルコト能ハザルトキ

地方長官ハ市町村ノ一部ニシテ前項第二號ノ事情アルモノガ其ノ市町村ノ國民學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラズト認ムルトキ亦前項ノ例ニ依ルベシ

前二項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケントスルトキハ組合規約ヲ定メ關係市町村ノ意見ヲ聞クベシ

ルコトヲ得

地方長官ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニ付第二十五條第二項又ハ第二十七條第二項ノ事情アルモ同項及第三十四條ノ規定ニ依ルコトヲ得ズト認ムルトキハ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シ國民學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

第二十九條 國民學校ノ校數及位置ハ地方長官ニ於テ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムベシ

第六章

第三十條 國民學校ニ於テ、校舍、校地、校具及體操場ヲ備フベシ

第三十一條 校舍、校地、校具及體操場ハ國民學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ非常災害ノ場合又ハ教育、兵事、産業、衛生、慈善等ノ爲特別ノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 國民學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル規則ニ基キ地方長官之ヲ定ム

第七章 經費負擔及授業料

第三十三條 國民學校ノ經費ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ負擔トス兒童教育事務委託ニ關スル經費ニ付亦同シ

第三十四條 地方長官ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ北海道地方長官又ハ府縣ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フベシ

一 町村ニ付第二十五條第一項第一號ノ事情アルモ同項ノ規定ニ依ルコトヲ得ザルトキ

三
合規約ヲ變更シ組合市町村ノ數ヲ增減シ又ハ組合ヲ解散スルトキ亦同シ

第二十六條 地方長官ハ一市町村ガ國民學校ヲ設置スルニ比シ著シク優等ナル國民學校ヲ設置シ得ベシト認ムルトキハ國民學校設置ノ旨市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 地方長官ハ町村ニ付第二十五條第一項第二號ノ事情アリト認ムルトキハ國民學校ノ設置ニ代ヘ其ノ町村ヲシテ學齡兒童ノ全部又ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ委託セシムルコトヲ得

地方長官ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニシテ第二十五條第一項第二號ノ事情アルモノガ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ國民學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラズト認ムルトキ亦前項ノ例ニ依ルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ兒童教育事務ヲ委託シ又ハ一市町村ニ委託ヲ止メシメントスルトキハ關係市町村、市町村學校組合及町村學校組合ノ意見ヲ聞クベシ

第二十八條 地方長官ハ町村ニ付第二十五條第一項第一號ノ事情アルモ同項及第三十四條ノ規定ニ依ルコトヲ得ズト認ムルトキハ其ノ町村ヲシテ國民學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

地方長官ハ町村ニ付第二十五條第一項第二號ノ事情アルモ同項、第二十七條第一項及第三十四條ノ規定ニ依ルコトヲ得ズト認ムルトキハ其ノ町村ヲシテ其ノ全部又ハ一部ニ關シ國民學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

二 町村學校組合ノ實力ガ國民學校ノ經費ノ負擔ニ堪ヘザルトキ又ハ市町村學校組合若ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ實力ガ其ノ學校組合費ノ負擔ニ堪ヘザルトキ

三 町村又ハ町村學校組合ノ實力ガ兒童教育事務委託ニ關スル經費ノ負擔ニ堪ヘザルトキ

地方長官前項ノ規定ニ依リ認定ヲ爲サントスルトキハ北海道參事會又ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クベシ

第三十五條 訓導、養護訓導及准訓導ノ檢定並ニ國民學校教員免許狀及國民學校養護訓導免許狀ニ關スル規程ハ北海道地方長官、府縣長官ノ規則ニ依リ之ヲ定ム

第三十六條 國民學校ニ於テハ授業料ヲ徴收スルコトヲ得ズ但シ特修料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ國民學校ニ於テ授業料ヲ徴收スルコトヲ得

授業料ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ收入トス

第八章 管理及監督

第三十七條 市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國民學校ニ關スル教育事務ヲ管理シ國民學校ヲ管理ス

第三十八條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ國民學校ニ關スル教育事務ノ爲市制第八十三條若ハ町村制第六十九條ノ規定又ハ其ノ準用規定ニ依リ事務委員ヲ置クベシ此ノ場合ニ於テハ市町村會、市町

村學校組合會又ハ町村學校組合會ノ議決ニ依ルコトヲ要セズ

學務委員ニハ國民學校職員ヲ加フベシ

委員中國民學校職員ヨリ出ヅル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者

又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第三十九條 學務委員ノ職務其ノ他ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十條 國民學校職員ノ執行スル國ノ國民學校ニ關スル教育事務ハ地

方長官之ヲ監督ス

第九條 雜 則

第四十一條 町村組合ニシテ其ノ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同

處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合

會ハ之ヲ町村會ト看做ス

第四十二條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テハ本令中町村、町村組合、

町村吏員、町村組合吏員、町村會及町村組合會ニ關スル規定ハ其ノ地

域ニ於ケル此等ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第三十八條第一項中町村制第六十九條トアルハ前項ノ地域ニ於テハ北

海道一級町村制第一條又ハ北海道二級町村制第七十二條トス

第一項ノ地域ニ於テ本令ニ依リ雜キ事項ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル

所ニ依ル

第四十三條 市町村ハ其ノ負擔ヲ以テ國民學校ニ類スル各種學校ヲ設置

スルコトヲ得

市町村又ハ町村ハ其ノ協議ニ依リ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ

設ケ國民學校ニ類スル各種學校ヲ設置スルコトヲ得

第四十四條 前條ノ國民學校ニ類スル各種學校ノ設置及廢止ハ地方長官

ノ認可ヲ受クベシ

國民學校ニ類スル各種學校ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十五條 國民學校ニ非ザル學校ハ國民學校ト稱スルコトヲ得ズ但シ

官立又ハ道府縣立ノ學校ニ於テ國民學校ノ課程ニ相當スル課程ヲ履修

セシムル部分ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十六年四

月一日以前ニ出生シタル兒童ヲ就學セシムベキ期間ニ付テハ第八條ノ

規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

第四十七條 市町村立小學校長及教員名稱及待遇、市制町村制ヲ施行セ

ザル地方ノ小學教育規程及明治二十七年勅令第十一號ハ之ヲ廢止ス

第四十八條 本令施行ノ際現ニ存スル市町村立ノ尋常小學校、高等小

學校及尋常高等小學校ハ夫々本令ニ依リ初等科ノミヲ置テ國民學校、高

等科ノミヲ置テ國民學校並ニ初等科及高等科ヲ置テ國民學校トス

第四十九條 本令施行ノ際現ニ存スル市町村立ノ高等小學校及尋常高等

小學校高等科ノ第三學年ハ本令ニ依リ特修科トス

第五十條 尋常小學校ヲ卒業シタル者、高等小學校第一學年ヲ修了シタ

ル者及修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シ又ハ修業年限三箇年ノ高

等小學校第二學年ヲ修了シタル者ハ夫々之ヲ國民學校初等科ヲ修了シ

タル者、國民學校高等科第一學年ヲ修了シタル者及國民學校高等科ヲ

修了シタル者ト看做ス

第五十一條 本令施行ノ際現ニ存スル小學校令第十四條第二項ノ規定又

ハ其ノ準用規定ニ依リ設ケタル市町村學校組合及町村學校組合ハ之ヲ

定ニ該當スル者ヲ除ク)別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ休職ノ體國民

學校訓導ニ同條給ヲ以テ任セラレタルモノトシ當該休職ニ付テハ仍從

前ノ例ニ依ル

第五十六條 本令施行ノ際現ニ小學校令第四十八條第一項ノ規定ニ依リ

減俸中ノ者又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ業務停止中ノ者ノ當該減俸又

ハ業務停止ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前小學校令第四十八條ノ規定ニ依リ懲戒又ハ業務停止ノ處分

ヲ爲スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十七條 小學校令第五十條ノ規定ニ依リ免職若ハ業務停止又ハ免許

狀取消ノ處分ニ對スル訴願ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十八條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テ本令施行ノ際現ニ學務委員

ノ職ニ在ル者ハ之ヲ本令ニ依リ學務委員ト看做ス

●國民學校令施行規則

(昭和十六年三月十四日) 文部省令第四號

小學校令施行規則ヲ左ノ通改正ス

國民學校令施行規則

第一章 政則及編制

第一節 總 則

第一條 國民學校ニ於テハ國民學校令第一條ノ旨趣ニ基キ前記事項ニ關

意シテ兒童ヲ教育スベシ

- 一 教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ヲ奉體シテ教育ノ全般ニ互リ皇國ノ道ヲ修練セシメ特ニ國體ニ對スル信念ヲ深カラシムベシ
- 二 國民生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ獲得セシメ情操ヲ醇化シ健全ナル心身ノ育成ニカムベシ
- 三 我々國文化ノ特質ヲ明ナラシムルト共ニ東亞及世界ノ大勢ニ付テ知ラシメ皇國ノ地位ト使命トノ自覺ニ導キ大國民タルノ資質ヲ啓培スルニカムベシ
- 四 心身ヲ一體トシテ教育シ教授、訓練、養護ノ分離ヲ避ケベシ
- 五 各教科並ニ科目ハ其ノ特色ヲ發揮セシムルト共ニ相互ノ關聯ヲ緊密ナラシメ之ヲ國民鍊成ノ一途ニ歸セシムベシ
- 六 儀式、學校行事等ヲ重シ之ヲ教科ト併セ一體トシテ教育ノ實ヲ舉グルニカムベシ
- 七 家庭及社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ兒童ノ教育ヲ全カラシムルニカムベシ
- 八 教育ヲ國民ノ生活ニ即シテ具體的實際的ナラシムベシ
- 九 高等科ニ於テハ尙將來ノ職業生活ニ對シ適切ナル指導ヲ行フベシ
- 十 兒童心身ノ發達ニ留意シ男女ノ特性、個性、環境等ヲ考慮シテ適切ナル教育ヲ施スベシ
- 十 兒童ノ興味ヲ喚起シ自修ノ習慣ヲ養フニカムベシ

第二節 教科及科目

第二條 國民科ハ我々國ノ道徳、言語、歴史、國土國勢等ニ付テ習得セシメ特ニ國體ノ精華ヲ明ニシテ國民精神ヲ涵養シ皇國ノ使命ヲ自覺セ

國民科ニ於テハ讀ミ方綴リ方書キ方話シ方ヲ課スベシ

讀ミ方ニ於テハ正シク讀ム力ヲ養フト共ニ言語ノ練習ニ留意シ且正確ニ書寫スルコトヲ指導シ以テ讀解力ト發表力トヲ陶冶スベシ

讀ミ方ハ兒童ノ生活ニ即スル言語ヨリ始メ日常ノ言語ヲ基礎トスル口語文ニ進ミ更ニ平易ナル文語文ニ及ブベク兒童生活ノ表現ニ出發シテ國民生活ノ諸相ニ展開セシムルト共ニ國語ノ規準トナリ創造力ヲ養フニ足ルモノタルベシ高等科ニ於テハ著名ナル作品ヲ加フベシ

綴リ方ニ於テハ兒童ノ生活ヲ中心トシテ事物現象ノ見方考へ方ニ付適正ナル指導ヲ爲シ平明ニ表現スルノ能ヲ得シムルト共ニ創造力ヲ養フベシ

書キ方ニ於テハ文字ヲ明確端正ニ書ク力ヲ養フベシ

話シ方ニ於テハ兒童ノ自由ナル發表ヨリ始メ次第ニ之ヲ醇正ナラシメ併セテ聽キ方ノ練習ヲ爲スベシ

話シ方ハ主トシテ讀ミ方綴リ方等ニ於テ之ヲ指導シ尙各教科諸行事等ニ現ルル事項ヲ話題トシテ練習セシメ實際的效果ヲ擧グルニカムベシ

發音ヲ正シ抑揚ニ留意シ進ミテハ文章ニ即シテ適宜語法ノ初歩ヲ授ケ醇正ナル國語ノ使用ニ習熟セシムベシ

他ノ教科及兒童ノ日常生活ニ於テモ醇正ナル國語ヲ使用セシムルコトニ留意スベシ

我々國語ノ特質ヲ知ラシメ國語ヲ尊重愛護スルノ念ニ培ヒ其ノ醇化ニカムルノ精神ヲ養フベシ

第五條 國民科國史ハ我々國ノ歴史ニ付テ其ノ大要ヲ會得セシメ皇國ノ歴史的使命ヲ自覺セシムルモノトス

シムルヲ以テ要旨トス

- 皇國ニ生レタル喜ヲ感ゼシメ敬神、奉公ノ眞義ヲ獲得セシムベシ
 - 我々國ノ歴史、國土ガ優秀ナル國民性ヲ育成シタル所以ヲ知ラシムルト共ニ我々國文化ノ特質ヲ明ニシテ其ノ創造發展ニカムルノ精神ヲ養フベシ
 - 他教科ト相俟テテ政治、經濟、國防、海洋等ニ關スル事項ノ教授ニ留意スベシ
- 第三條 國民科修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ニ基キテ國民道徳ノ實踐ヲ指導シ兒童ノ德性ヲ養ヒ皇國ノ道徳的使命ヲ自覺セシムルモノトス
- 初等科ニ於テハ近易ナル實踐ノ指導ヨリ始メ道徳的情操ヲ涵養シ具體的事實ニ即シテ國民道徳ノ大要ヲ會得セシムベシ
- 高等科ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層之ガ徹底ヲ期シ特ニ職分ヲ通ジテ公ニ奉ズルノ覺悟ヲ鞏固ナラシムベシ
- 女兒ニ對シテハ特ニ婦道ノ涵養ニ留意スベシ
- 祭祀ノ意義ヲ明ニシ敬神ノ念ヲ涵養スルニカムベシ
- 我々國ノ政治、經濟及國防ガ國體ニ淵源スル所以ヲ會得セシメ立憲政治ノ精神、産業ト經濟トノ國家ノ意義及國防ノ本義ヲ明ニシテ憲法、奉公ノ精神ヲ涵養スベシ
- 禮法ノ實踐ヲ指導シ禮ノ精神ヲ會得セシムルト共ニ公衆道徳ニ付テ適切ナル指導ヲ爲シ品位ノ向上ニカムベシ
- 藝ヲ重シ善良ナル習慣ヲ養フニカムベシ
- 第四條 國民科國語ハ日常ノ國語ヲ習得セシメ其ノ理解力ト發表力トヲ養ヒ國民ノ思考感動ヲ通ジテ國民精神ヲ涵養スルモノトス

初等科ニ於テハ皇國ノ宏遠、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ鴻業、忠良賢哲ノ事蹟、學國奉公ノ史實等ニ即シテ皇國發展ノ跡ヲ知ラシムベシ

高等科ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メ國運ノ隆昌、文化ノ發展ガ皇國ノ精神ノ顯現ナル所以ヲ會得セシムルト共ニ諸外國トノ歴史ノ關係ヲ明ナラシムベシ

國史ノ時代の標相ニ留意シテ一貫セレ皇國ノ精神ヲ具體的ニ感得把握セシムベシ

郷土ニ關係深キ史實ハ國史トノ關聯ニ留意シテ授クベシ

年表、時代表、地圖、標本、繪畫、映畫等ヲ利用シテ具體的直觀的ニ習得セシムベシ

第六條 國民科地理ハ我々國土國勢及諸外國ノ情勢ニ付テ其ノ大要ヲ會得セシメ國土愛護ノ精神ヲ養ヒ東亞及世界ニ於ケル皇國ノ使命ヲ自覺セシムルモノトス

初等科ニ於テハ郷土ノ觀察ヨリ始メ我々國土及東亞ヲ中心トスル地理ノ大要ヲ授ケ我々國土ヲ正シク認識セシムベシ

高等科ニ於テハ世界地理及我々國勢ノ大要ヲ授クベシ

自然ト生活トノ關係ヲ具體的ニ考察セシメ特ニ我々國民生活ノ特質ヲ明ナラシムベシ

郷土ノ觀察ハ國史、理數科等ト相俟テテ統一アル指導ヲ爲スベシ

簡易ナル見取圖、模型ノ製作等適當ナル地理的作業ヲ課スベシ

地圖、模型、圖表、標本、寫眞、繪畫、映畫等ヲ利用シテ具體的直觀的ニ習得セシムベシ

讀圖力ノ養成ニカメ遠足、旅行其ノ他適當ナル機會ニ之ガ實地指導ヲ

讀圖力ノ養成ニカメ遠足、旅行其ノ他適當ナル機會ニ之ガ實地指導ヲ

第七條

理科ハ通常ノ事物現象ヲ正確ニ考察シ處理スルノ能ヲ得シメ之ヲ生活上ノ實踐ニ導キ合理創造ノ精神ヲ涵養シ國運ノ發展ニ貢獻スルノ素地ニ培フヲ以テ要旨トス

科學ノ進步ガ國家ノ興隆ニ貢獻スル所以ヲ理會セシムルト共ニ皇國ノ使命ニ鑑ミ文化創造ノ任務ヲ自覺セシムベシ

數理及自然ノ理法ヲ自發的持久的ニ推究スル態度ヲ養フベシ
分析的論理的ニ考察スル力ヲ養フト共ニ全體直覺的ニ把握スル態度ヲ重ンズベシ

觀察實驗ヲ重ンジ實測、調査、作圖、工作等ノ作業ニ依リテ理會ヲ確實ナラシメ發見工夫ノ態度ヲ養フニカムベシ

國防ガ科學ノ進步ニ負フ所大ナル所以ヲ知ラシメ國防ニ關スル常識ヲ養フベシ

第八條

理數科算數ハ數、量、形ニ關シ國民生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ得シメ數理的處理ニ習熟セシメ數理思想ヲ涵養スルモノトス
初等科ニ於テハ數、量、形ニ關スル日常普通ノ知識、處理方法ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ産業、經濟、國防等ニ關シ須要ナル數量ノ事項ヲ授クベシ
計算ハ暗算、筆算、珠算ヲ用フベシ

日常生活ニ於ケル數量相互ノ關係ヲ明ナラシメ數理的考察ノ正確ヲ期スベシ

基礎的知識技能ノ反復練習ヲ重視シ應用自在ナラシムルニカムベシ

特ニ兒童心身ノ發達、男女ノ特性ヲ顧慮シテ適切ナル指導ヲ爲スベシ
衛生看護ニ留意シ身體検査ノ結果ヲ參酌シテ指導ノ適正ヲ期スベシ
強靱ナル體力ト旺盛ナル精神力トガ國力發展ノ根基ニシテ特ニ國防ニ必要ナル所以ヲ自覺セシムベシ

第十一條 體操科體操ハ體操、教練、遊戲競技及衛生ヲ課シ心身ノ健全ナル發達ヲ圖ルト共ニ團體訓練ヲ行ヒ規律ヲ守リ協同ヲ尚ブノ習慣ヲ養フモノトス

初等科ニ於テハ初ハ遊戲及簡易ナル全身運動ニ重キヲ置キ漸次複雑ナル運動ニ進ムト共ニ團體運動ヲ規律的ナラシムベシ
高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ男兒ニ在リテハ特ニ教練ヲ重ンズベシ
教練ニ於テハ特ニ團體訓練ヲ重ンジ規律協同ヲ尙ビ服從ノ精神ヲ涵養スルニカムベシ

遊戲競技ニ於テハ特ニ快活ナル心情、公明ナル態度ヲ養フニカムベシ
衛生ニ於テハ衛生上ノ基礎的訓練ヲ重ンジ漸次其ノ程度ヲ進メ救急看護等ヲ加フベシ
教材ハ一部ノモノニ偏スルコトナク各種目相倚リテ體操ノ目的ヲ達成セシムベシ
兒童ヲシテ運動及衛生ノ必要ヲ理會セシメ進ンデ之ヲ實行スルノ習慣ニ導クベシ

第十二條

體操科武道ハ武道ノ簡易ナル基礎動作ヲ習得セシメ心身ヲ鍊磨シテ武道ノ精神ヲ涵養スルニ資セシムルモノトス
初等科ニ於テハ男兒ニ對シ劍道及柔道ヲ課スベシ
高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メテ之ヲ課スベシ

第九條

理數科理科ハ自然界ノ事物現象及自然ノ理法ト其ノ應用ニ關シ國民生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ得シメ科學的處理ノ方法ヲ會得セシメ科學的精神ヲ涵養スルモノトス

初等科ニ於テハ兒童ノ環境ニ於ケル自然ノ觀察ヨリ始メ日常普通ノ自然物、自然現象、其ノ相互並ニ人生トノ關係、人體生理及自然ノ理法ト其ノ應用ニ關スル事項ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ産業、國防、災害防止、家事ニ關スル事項ヲ授クベシ

自然ニ親シミ自然ヨリ直接ニ學ブノ態度ヲ養フベシ
植物ノ栽培、動物ノ飼育ヲ爲サシメ生物愛育ノ念ニ培フト共ニ繼續的ノ觀察實驗ニ依リテ持久的ニ研究スルノ態度ヲ養フベシ

實地ノ觀察ヲ重視スルト共ニ標本、模型、繪畫、映畫等ヲ利用シ理會ヲ助クベシ

第十條

人體生理ニ關聯シテ日常ノ衛生及國民保健ノ必要ナル所以ヲ知ラシメ體操科ト相俟テ其ノ實踐ニ力メシムベシ
藝能科工作ト相俟テ機械器具ノ取扱ニ慣レシメ科學的技能ノ修練ニ力メシムベシ

自然界ニ於ケル事物現象ノ全體關聯ノ理會ニ力メ進ンデ自然ノ妙趣ト恩惠トヲ感得セシムルニカムベシ

第十條 體操科ハ身體ヲ鍛鍊シ精神ヲ鍊磨シテ潤澤剛健ナル心身ヲ育成シ獻身奉公ノ實踐力ニ培フヲ以テ要旨トス
藝、姿勢其ノ他訓練ノ效果ヲ日常生活ニ具現セシムルニカムベシ

女兒ニ對シテハ薙刀ヲ課スルコトヲ得
心身ヲ一體トシテ訓練シ禮節ヲ尙ビ廉恥ヲ重ンズルノ氣風ヲ涵養スルニカムベシ

第十三條 藝能科ハ國民ニ須要ナル藝術技能ヲ修練セシメ情操ヲ醇化シ國民生活ノ充實ニ資セシムルヲ以テ要旨トス
技巧ニ流レズ精神ヲ訓練スルコトヲ重ンジ眞摯ナル態度ヲ養フベシ
我が國藝術技能ノ特質ヲ知ラシメ工夫創造ノ力ヲ養フニカムベシ
教材ハ成ルベク土地ノ情況ニ應ジ生活ノ實際ニ即シ且國民的情操ノ陶冶ニ資スルモノタルベシ

日常生活ニ於ケル應用ヲ指導シ個性ノ伸長ニ留意スルト共ニ適宜共同作業ヲ課スベシ

第十四條 藝能科音樂ハ歌曲ヲ正シク歌唱シ音樂ヲ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化スルモノトス
初等科ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ課シ適宜輪唱及重音唱歌ヲ加ヘ且音樂ヲ鑑賞セシムベシ又器樂ノ指導ヲ爲スコトヲ得
歌唱ニ即シテ適宜樂典ノ初步ヲ授クベシ
高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メテ之ヲ課スベシ
歌詞及樂譜ハ國民的ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシメ徳性ノ涵養ニ資スルモノタルベシ
兒童ノ音樂的資質ヲ啓發シテ高雅ナル趣味ヲ涵養シ國民音樂創造ノ素地ヲシムベシ
發音及聽音ノ練習ヲ重ンジ自然ノ發聲ニ依ル正シキ發音ヲ爲サシメ且

音ノ高低、強弱、音色、律動、和音等ニ對シ鋭敏ナル聴覺ノ育成ニ力ムベシ

祭日祝日等ニ於ケル唱歌ニ付テハ周到ナル指導ヲ爲シ敬虔ノ念ヲ養ヒ愛國ノ精神ヲ昂揚スルニ力ムベシ

學校行事及團體の行動トノ關聯ニ留意スベシ

第十五條 藝能科習字ハ文字書寫ノ技能ヲ修練セシメ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化スルモノトス

初等科ニ於テハ「カナ」、楷書及行書ノ書法ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ更ニ草書ヲ加フベシ

國民科國語トノ關聯ニ留意シ生活ノ實際ニ適切ナルモノヲ選ブベシ

第十六條 藝能科圖畫ハ形象ヲ看取シ表現シ且作品ヲ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化シ創造力ヲ涵養スルモノトス

初等科ニ於テハ思想畫及寫生畫ヲ主トシ適宜臨畫、圖案及用器畫ヲ併セ課スベシ

高等科ニ於テハ寫生畫、圖案及用器畫ヲ主トシ臨畫及思想畫ヲ加ヘ適宜繪畫其ノ他ノ美術ヲ鑑賞セシムベシ

教材ハ生活ノ實際ニ即シ國民的情操ノ陶冶ニ資スルモノタルベシ

我が國ノ傳統の技法ヲ尊重スルト共ニ東西ノ様式ノ別ニ拘泥スルコトナク廣ク之ヲ指導ノ上ニ活用シテ兒童ノ性能ヲ伸長スルニ力ムベシ

形體色彩ニ關スル基礎的知識ヲ授クベシ

第十七條 藝能科工作ハ物品ノ製作ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ機械ノ取扱ニ關スル常識ヲ養ヒ工夫考案ノ力ニ培フモノトス

初等科ニ於テハ紙、綿、布、粘土、セメント、竹、木、金屬等ノ材料ニ依

ル工作ヲ課スベシ

高等科ニ於テハ木工、金工、セメント工、手藝(女兒)ヲ課スベシ

前項ノ外必要ニ應ジ其ノ他ノ工作、圖案及製圖ヲ課スルコトヲ得

機械器具ノ操作、分解、組立、修理等ニ付テ指導スベシ

實業科工業ヲ課スル場合ニハ適宜之ト併セ課スルコトヲ得

材料、工具等ニ關スル知識ノ大要ヲ授ク材料ノ利用節約、工具ノ整理保存等ニ付テ指導スベシ

材料技法ノ進歩ニ注意シ之ヲ指導ノ上ニ活用シテ兒童ノ性能ヲ伸長スルニ力ムベシ

適宜共同製作ヲ課スベシ

第十八條 藝能科裁縫ハ普通ノ衣類ノ裁縫ニ習熟セシメ衣類ニ關スル常識ヲ養ヒ婦徳ノ涵養ニ資スルモノトス

初等科ニ於テハ運針、簡易ナル衣類ノ裁方、縫ヒ方及繕ヒ方ヲ課スベシ高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メテ之ヲ課シ且材料ノ選擇、整理、保存其ノ他衣類ニ關スル常識ヲ養フベシ

家事ト相俟テ家ヲ齊ヘテ國ニ報ズルノ精神ヲ涵養スベシ

日常所用ノ材料ヲ用ヒ土地ノ情況ニ適切ナル指導ヲ爲シ利用節約ノ習慣、工夫考案ノ力ヲ養フニ力ムベシ

裁ヲ重ンジ姿勢態度ニ留意シ用具ノ適切ナル使用並ニ整理ニ付テ訓練スベシ

第十九條 藝能科家事ハ我が國家庭生活ニ於ケル女子ノ任務ヲ知ラシメ實務ヲ習得セシメ婦徳ノ涵養ニ資スルモノトス

祭事、敬老、育兒、食物、住居、衛生、看護、家計等ニ付家庭生活上

農業及林業ノ一般ニ付地方ノ實情ヲ考慮シテ適切ナル事項ヲ授クベシ

實習ニ依リ心身ヲ鍛鍊シ國土自然ニ對スル報恩感謝ノ念ヲ養フベシ

農山村ノ經濟生活ヲ理解セシメ其ノ振興ニ關シ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十條 實業科工業ハ工業ノ大要ヲ理解セシメ其ノ一部ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ其ノ實踐ヲ指導シ工夫考案ノ力ヲ養フモノトス

地方ノ實情、男女ノ別等ニ應ジテ適當ナル種類ノ工業ヲ選ビ必要ナル事項ヲ授クベシ

基礎的の技能ノ習得ニ力メシムルト共ニ正確綿密ニ處理スルノ態度ヲ養フコトニ留意スベシ

實習ヲ重ンジ力メテ實地ノ見學ヲ爲サシメ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十三條 實業科商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ配給ノ意義ヲ明ニシ信義ヲ重ンジルノ精神ヲ養フモノトス

商業ノ一般ニ付實際ニ適切ナル基本事項ヲ授クベシ

見學ヲ重ンジ地方ノ實情ニ應ジテ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十四條 實業科水産ハ水産ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ敢爲進取ノ氣象ヲ養ヒ海事思想ノ涵養ニ力ムルモノトス

水産ノ一般ニ付地方ノ實情ヲ考慮シテ適切ナル事項ヲ授クベシ

實習ヲ重ンジ心身ノ鍛鍊ニ力ムベシ

漁村ノ經濟生活ヲ理解セシメ其ノ振興ニ關シ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十五條 國民學校令第四條第七項ノ規定ニ依リ科目ヲ設ケントスルトキハ管理者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ止メントスルトキ亦同ジ

日常須知ノ事項ヲ授クベシ

裁縫ト相俟テ家ヲ齊ヘテ國ニ報ズルノ精神ヲ涵養スベシ

國民科トノ關聯ニ留意シ禮法ヲ重ンジ我が國家庭生活ニ於ケル醇風美俗ノ維持發揚ニ力メシムベシ

理科トノ關聯ニ留意シ家事ヲ科學的ニ處理スルノ態度ヲ養ヒ家庭生活上ノ充實改善ニ付テ指導スベシ

裁ヲ重ンジ勤勞ノ習慣ヲ養ヒ利用節約、清潔整頓等ニ付テ訓練スベシ

第二十二條 實業科ハ産業ノ一般ヲ理解セシメ農業、工業、商業又ハ水産ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シムルト共ニ勤勞ノ習慣ヲ養ヒ産業ノ國家的使命ヲ自覺セシメ國運ノ發展ニ貢獻スルノ素地ニ培フヲ以テ要旨トス

地方ノ實情ニ應ジテ農業、工業、商業、水産ノ一科目又ハ數科目ヲ設クベシ尙一科目ニ他ノ科目ノ教材ヲ併セ課スルコトヲ得

職業指導ニ關シ必要ナル事項ヲ授クベシ

必要ニ應ジテ簡易ナル外國語ヲ課スルコトヲ得

我が國産業ノ情勢及特質ヲ明ニシ國運ノ發展ガ産業ニ負フ所大ナル所以ヲ知ラシメ産業ヲ通ジテ國ニ報ズルノ信念ヲ養フベシ

産業ト國防トノ關聯ニ留意スベシ

實社會トノ關聯ヲ保テ實習訓練ヲ重ンジズベシ

海外發展ニ關シテ適當ナル指導ヲ爲スベシ

第二十一條 實業科農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ其ノ實踐ヲ指導シ我が國農業ノ歴史の意義ヲ明ニシ農ヲ尙ブノ精神ヲ養フモノトス

第二十六條 兒童身體ノ情況ニ依リ履修スルコト能ハザル教材ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セザルコトヲ得

第二十七條 初等科ノ課程ハ第一號表ニ依ル

第一學年第一學期ノ每週授業總時數ハ十八時迄ト爲スコトヲ得

第五十四條ノ規定ニ依リ二部ニ分テ授業ヲ行フ場合ニ於テハ每週授業時數ハ第一學年及第二學年ニ在リテハ十八時迄、其ノ他ノ學年ニ在リテハ之ヲ二十四時迄ト爲スコトヲ得

前二項ノ場合各教科及科目ノ每週授業時數ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムベシ

第一學年ニ在リテハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ全部又ハ一部ノ教科及科目ニ付綜合授業ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 高等科ノ課程ハ第二號表ニ依ル

第二十九條 土地ノ情況ニ依リ特別ノ必要アル場合ニハ前二條ノ規定ニ拘ラズ各教科及科目ノ每週授業時數ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十條 國民學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラズ全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ授業スルコトヲ得

第三十一條 各教科及科目ノ每週授業時數外ニ於テ每週凡ソ三時ヲ限リ行事、團體訓練等ニ充ツルコトヲ得

實業科農業ヲ課セザル場合ハ前項ノ外每週適當ナル時數ヲ農耕的ノ戶外作業ニ充ツベシ

第三十二條 學校長ハ各學年ノ課程表並ニ各教科及科目ノ授業細目ヲ定ムベシ

第三十三條 國民學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全課程ノ修了ヲ認ムルニハ試験ノ方法ニ依ルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムベシ

第三十四條 學校長ハ初等科、高等科又ハ特修科ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證書ヲ授與スベシ

學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第三十條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第三十五條 兒童ニ使用セシムベキ郷土ニ關スル圖書ハ道府縣ニ於テ編纂シタルモノニシテ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノタルベシ

第三十六條 歌詞樂譜ハ教科用圖書中ニ掲グルモノノ外ハ文部大臣ノ認定シタルモノ若ハ其ノ圖書ニ付檢定シタルモノ又ハ當該學校ニ特ニ關係アルモノニシテ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノタルベシ

第三十七條 前二條ニ規定スルモノヲ除キ文部省ニ於テ著作權ヲ有スル教科用圖書ナキトキハ文部大臣ノ檢定シタル圖書ヲ使用セシムルコトヲ得

第三十八條 教科用圖書同一ノ科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ地方長官之ヲ探定ス

前項ノ規定ニ依リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スル教科用圖書以外ノモノノ中ニ就キ探定セントスル場合ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條 教科用圖書ヲ解釋シタル圖書若ハ之ニ類似シタル圖書ハ之

第二號ヲ缺ク

第五節 職員及兒童

一 職員及兒童「君ガ代」ヲ合唱ス

二 職員及兒童ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三 學校長ハ教育ニ關スル勅諭ヲ奉讀ス

四 學校長ハ教育ニ關スル勅諭ニ基キ聖旨ノ在所ヲ誦告ス

五 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

御影ヲ拜戴セザル學校及特ニ地方長官ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ地方長官ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セザル學校ニ於テハ前項

第二號ヲ缺ク

第五節 編 制

第四十八條 國民學校ノ學級數ハ二十四學級以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第四十九條 特別ノ事情ニ依リ國民學校ニ分教場ヲ設ケントスルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ

タベシ之ヲ止メントスルトキ亦同ジ

分教場ノ學級數ハ六學級以下トシ前條第一項ノ學級數ニ算入セズ

第五十條 一學級ノ兒童數ハ初等科ニ在リテハ六十人以下、高等科ニ在リテハ五十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第五十一條 同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ

ヲ兒童ニ使用セシムルコトヲ得ズ

第四十條 國民學校ニ於テ使用スル映畫ハ文部大臣ノ檢定シタルモノタルベシ

第四十一條 文部大臣ノ指定スル種目ノ放送ハ之ヲ授業ノ上ニ使用スルコトヲ得

第四節 學年及式日

第四十二條 國民學校ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

國民學校ノ學期ハ地方長官之ヲ定ムベシ

第四十三條 毎日ノ授業終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムベシ

第四十四條 國民學校ニ於テ第三十二條ニ規定スル課程表ニ依リ授業ヲ行ハザル日ハ左ノ如シ

一 一月一日及昭和二年勅令第二十五號ニ依リ休日タル祭日祝日

二 日曜日

三 夏季、冬季、學年末、農繁期其ノ他ニ於テ地方長官ノ定ムル日

第四十五條 前條ニ規定スル授業ヲ行ハザル日ハ毎學年百三十日以内トス

特別ノ事情アルトキハ地方長官ニ於テ前項ノ日數ヲ增加スルコトヲ得

前條第三號ノ日數ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ得

第四十六條 非常變災其ノ他急迫ノ事情アルトキハ學校長ニ於テ臨時授業ヲ行ハザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ地方長官ニ報告スベシ

第四十七條 紀元節、天皇節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及兒童學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フベシ

依リ該學年ノ學級ヲ別ツベシ高等科ニ於テ各學年ヲ通ジ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキ亦同ジ
前項ノ規定ハ初等科第一學年及同第二學年ノ兒童ノ學級編制ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五十二條 國民學校ノ學級ノ編制ハ管理者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五十三條 國民學校ニ於テハ身體虛弱、精神薄弱其ノ他心身ニ異常アル兒童ニシテ特別看護ノ必要アリト認ムルモノノ爲ニ特ニ學級又ハ學校ヲ編制スルコトヲ得

前項ノ學級又ハ學校ノ編制ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第五十四條 土地ノ情況ニ依リ初等科ニ於テハ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分テテ授業ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ其ノ期間ヲ定メテ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第五十五條 國民學校ニ於テハ各學級ニ國民學校訓導免許狀ヲ有スル訓導(以下本科訓導ト稱ス)一人ヲ置クベシ但シ初等科ニ於テハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル訓導(以下初等科訓導ト稱ス)ヲ以テ充ツルコトヲ得

高等科ニ於テハ前項ノ職員ノ外教科科目、授業時數、兒童數等ニ應ジ必要ナル員數ノ本科訓導若ハ國民學校專科訓導免許狀ヲ有スル訓導(以下專科訓導ト稱ス)ヲ置クベシ
初等科ニ於テハ適宜專科訓導ヲ置クコトヲ得
土地ノ情況ニ依リ初等科ニ在リテハ二學級毎ニ本科訓導若ハ初等科訓

導一人及國民學校訓導免許狀ヲ有スル訓導若ハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル訓導(以下夫々本科訓導、初等科訓導ト稱ス)一人ヲ置クコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ三學級毎ニ本科訓導若ハ初等科訓導二人ヲ置クコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ前各項ノ規定ニ依ルノ外尙本科訓導又ハ初等科訓導ヲ置キ兒童ノ教育ヲ補助セシムルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ二部ニ分テテ授業ヲ行フ場合ニ於テハ前後二學級毎ニ本科訓導又ハ初等科訓導一人ヲ置クヲ常例トス

第五十六條 六學級以上ノ國民學校ニ於テハ學校長タル訓導ノ掌ル教育ヲ補助スル爲メ訓導一人若ハ准訓導一人ヲ置クコトヲ得

第五十七條 專科訓導ハ一校ヲ限リ他ノ國民學校ノ職員ヲ兼ヌルコトヲ得

第五十八條 全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級國民學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級國民學校トス

第六節 特修科

第五十九條 特修科ハ實業其ノ他土地ノ情況ニ適切ナル事項ヲ授タルト共ニ國民學校ノ教科ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第六十條 特修科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等科ヲ修了シタル者及國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修了シタル者トス

第六十一條 高等科ノ教科ニ關スル規定ハ特修科ニ之ヲ準用ス但シ土地ノ情況ニ依リ各教科及科目ノ每週授業時數ハ學校長ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條 第五十條中高等科ニ關スル規定及第五十五條第二項ノ規定ハ特修科ニ之ヲ準用ス

第六十三條 特修科ノ學級ハ男女ヲ分テテ之ヲ編制スベシ

第二章 設 備

第六十四條 校舍、校地、校具及體操場ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス
校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅固ナランコトヲ要ス
校地ハ道徳上及衛生上害ナク且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選ブベシ
實業科農業ヲ課スル場合ハ實習地ヲ設クハシ

第六十五條 校舍ヲ新築、増築、改築シ又ハ校地、體操場若ハ實習地ヲ増減セントスルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六十六條 土地ノ情況ニ依リ成ルベク職員ノ住宅ヲ設クベシ

第三章 就 學

第六十七條 市町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ市町村内ニ居住スル兒童ニシテ翌年四月ニ於テ其ノ年齡就學ノ始期ニ達スベキモノヲ調査シ第三號表ノ様式ニ依リ十二月末日迄ニ其ノ學齡簿ヲ編製スベシ

第六十八條 市町村長ハ學齡簿編製後三月末日迄ニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スベキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スベシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキハ遲滞ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スベシ
市町村長ハ學齡簿ニ登録ノ兒童ニシテ左ノ各賦ノ一ニ該當スルモノア

ルトキハ遲滞ナク之ヲ抹消スベシ但シ第二號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ抹消スルト同時ニ學齡簿ノ原本ヲ兒童ノ轉住地ノ市町村長ニ送付スベシ

一 兒童死亡シタルトキ
二 兒童市町村外ニ轉住シタルトキ
三 兒童ノ居所一年以上分明ナラザルトキ

前項但書ニ依リ學齡簿ノ原本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ遲滞ナク學齡簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ兒童ノ來住セザル旨通知スベシ
第二項及第三項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スベシ

第六十九條 市町村長ハ兒童ヲシテ國民學校ニ入學セシムベキ期日ヲ一月末日迄ニ其ノ保護者ニ通知スベシ
市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ使用ニ係ル國民學校二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スベキ國民學校ヲ指定スベシ但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル國民學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第七十條 市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ遲滞ナク關係學校長ニ通知スベシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第七十一條 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ其ノ居住スル區域ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ設置セル國民學校以外ノ國民學校ニ又ハ國民學校令第十一條ニ規定スル學校ニ入學セシメントスル

トキハ國民學校ニ在リテハ管理者、其ノ他ノ學校ニ在リテハ學校長ノ承諾書ヲ添ヘ關係市町村長ニ届出ヅベシ

第七十二條 就學スベキ兒童ニシテ國民學校令第九條ニ掲グル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ猶豫ヲ市町村長ニ届出ヅベシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ證明書等其ノ事由ヲ證スルニ足ルベキ書類ヲ添附スベシ

第七十三條 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ其ノ年齢就學ノ始期ニ達スベキ兒童ニ在リテハ一年トシ既ニ其ノ年齢就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一年以下トス

第七十四條 左ニ掲グル學校ノ課程ハ國民學校令第十一條ニ規定スル課程トス

- 一 學習院初等科及中等科、女子學習院初等科及中等科、陸軍幼年學校高等師範學校附屬中學校及附屬國民學校、女子高等師範學校附屬高等女學校及附屬國民學校、師範學校附屬國民學校、高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業者ニ付文部大臣ノ指定シタル學校、盲學校及聾啞學校

二 前號ニ掲グル學校以外ノ學校ニシテ地方長官ニ於テ認定シタルモ

第七十五條 前條第二號ノ認定ヲ受ケントスルトキハ當該學校ノ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

- 一 目的
- 二 名 稱
- 三 位 置

四 學 則

- 五 教科用圖書
- 六 職員組織
- 七 校地、體操場及實習地ノ面積、校舍其ノ他建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面
- 八 經費及維持ノ方法
- 九 其ノ他地方長官ニ於テ必要ト認ムル事項

前項第一號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第七十六條 地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ報告スベシ

- 一 目的
- 二 名 稱
- 三 位 置
- 四 學 則
- 五 管理者又ハ設立者
- 六 認定ノ年月日

第七十七條 地方長官ハ第七十四條第二號ニ依リ認定シタル學校ノ授業

設備其ノ他ノ事項ニシテ教育上不適當ナリト認ムルトキハ之ガ變更ヲ命ジ又ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ニ違反シタルトキハ地方長官ハ第七十四條第二號ニ依リ與ヘタル認定ヲ取消スコトヲ得

第七十八條 國民學校長ハ第四號表ノ様式ニ依リ兒童ノ學籍簿ヲ編製スベシ

第七十九條 國民學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席缺席ヲ明ニスベシ

第八十條 國民學校長ハ第七十條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以内ニ其ノ國民學校ニ入學セザル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スベシ

第八十一條 在學ノ學齡兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ關係學校長ハ遲滞ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムベキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメザルトキハ其ノ旨關係市町村長ニ報告スベシ

第八十二條 市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲ爲スモ仍就學又ハ出席セシメザルトキハ市町村長ハ其ノ旨地方長官ニ報告スベシ

第八十三條 地方長官ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スベシ

第八十四條 國民學校長ハ每學年ノ終ニ初等科又ハ高等科ヲ修了シタル兒童ノ氏名ヲ遲滞ナク關係市町村長ニ報告スベシ

第八十五條 第七十四條各號ニ掲グル學校ニ在學スル兒童ニシテ國民學校ノ課程ニ相當スル課程ヲ修了シタルトキ又ハ其ノ課程ヲ修了セズシテ退學シタルトキハ關係學校長及兒童ノ保護者ハ其ノ旨關係市町村長ニ届出ヅベシ

第四章 免許狀及檢定

第一節 免許 狀

第八十六條 國民學校教員免許狀ハ之ヲ分チテ左ノ通トス

- 一 國民學校訓導免許狀
- 二 國民學校初等科訓導免許狀
- 三 國民學校專科訓導免許狀
- 四 國民學校准訓導免許狀
- 五 國民學校初等科准訓導免許狀

第八十七條 國民學校訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校ノ全教科、國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校初等科ノ全教科、國民學校專科訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校ノ國民科、理數科以外ノ教科中ノ一科目若ハ數科目又ハ國民學校令第四條第七項ノ規定ニ依リ設ケラレタル科目ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル訓導ト爲ルコトヲ得

國民學校准訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校ノ全教科、國民學校初等科准訓導免許狀ヲ有スル者ハ國民學校初等科ノ全教科ニ付訓導ノ行フ兒童ノ教育ヲ助クル准訓導ト爲ルコトヲ得

第八十八條 國民學校養護訓導免許狀ヲ有スル者ハ養護訓導ト爲ルコトヲ得

第八十九條 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對スル國民學校訓

第九十條 地方長官ハ國民學校教員免許狀登錄簿及國民學校養護訓導免

第九十一條 國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ヲ有スル

第九十二條 地方長官ニ於テ國民學校令第二十一條第二項又ハ第三項ノ

第九十三條 國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ヲ受ケタ

第二節 檢定

第九十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ訓導、養護訓導又ハ准訓導ノ

第九十五條 檢定ハ之ヲ分テ無試験檢定及試験檢定トシ學力、品行及

第九十六條 無試験檢定ハ隨時之ヲ行ヒ試験檢定ハ毎年少クトモ一回之

ヲ行フ

第九十七條 訓導及准訓導ノ無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ

第九十八條 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀、實業學校教員免許狀

第九十九條 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

第一百條 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業

第一百零一條 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者及一般

第一百零二條 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第一百零三條 前項第五號及第六號ニ該當スル者ニ對シ本科訓導ノ檢定ヲ行フ場合ハ

第一百零四條 本科訓導ノ試験檢定ノ科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師

第九十九條 本科准訓導ノ試験檢定ノ科目ハ本科訓導ノ試験檢定ノ科目

第十條 專科訓導ノ試験檢定ノ科目ハ體操、武道、音樂、習字、圖畫、

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項試験檢定ノ科目ノ外必要ナル科

各科目ノ試験ハ教育ノ大要及受驗科目ノ授業法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ

在リテハ師範學校本科女生徒ニ課スル各學科目ノ程度ニ準ズ但シ第二

專科訓導ノ試験檢定ハ國民學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、國

史、數學ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニ非ザレバ之ヲ行ハズ

初等科訓導ノ試験檢定ノ科目ハ本科訓導ノ試験檢定ノ科目ト

初等科訓導ノ試験檢定ノ程度ニ準ジ之ヲ斟酌スベシ但シ實

初等科訓導ノ試験檢定ノ程度ニ準ジ之ヲ斟酌スベシ

國民學校教員檢定委員會ニ於テ第九十八條乃至第一百條ノ規

國民學校教員檢定委員會ニ於テ第九十八條乃至第一百條ノ規

國民學校教員檢定委員會ニ於テ第九十八條乃至第一百條ノ規

國民學校教員檢定委員會ニ於テ第九十八條乃至第一百條ノ規

ヲ行フ

第九十七條 訓導及准訓導ノ無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ

第九十八條 師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀、實業學校教員免許狀

第九十九條 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

第一百條 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業

第一百零一條 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者及一般

第一百零二條 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第一百零三條 前項第五號及第六號ニ該當スル者ニ對シ本科訓導ノ檢定ヲ行フ場合ハ

第一百零四條 本科訓導ノ試験檢定ノ科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師

第一百零五條 國民學校教員講習科ヲ終了シタル者

第一百零六條 養護訓導ノ無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付之ヲ

行フ

一 文部大臣ノ指定シタル學校又ハ養成所ヲ卒業シタル者

二 看護婦免許狀ヲ有シ國民學校訓導免許狀ヲ有スル者

第一百零七條 養護訓導ノ試験檢定ハ看護婦免許狀ヲ有シ左ノ一ニ該當スル者

ニ付之ヲ行フ

一 高等女學校ヲ卒業シタル者

二 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者及一般ノ

專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ヲ受ケタル資格ヲ有スル者

三 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第一百零八條 養護訓導ノ試験檢定ノ科目ハ修身、公民科、教育、學校衛生

トシ修身、公民科、教育ノ試験檢定ノ程度ハ師範學校本科第二部女生

徒ニ課スル程度ニ準ズ

前條第一號及第二號ニ該當スル者ニ對シテハ修身、公民科、教育ノ一

科目又ハ數科目ノ試験ハ之ヲ缺クコトヲ得

第五章 職員

第百八條 國民學校職員ハ當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ地域内ニ居住スベシ但シ學校長ニ在リテハ地方長官、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百九條 准訓導及國民學校令第十九條ノ規定ニ依リ准訓導ノ職務ヲ行フ者(以下助教ト稱ス)ノ進退ハ地方長官之ヲ行フ

市長又ハ市町村學校組合管理者ハ市又ハ市町村學校組合ノ設置スル國民學校ノ准訓導及助教ノ進退ニ關シ地方長官ニ具狀スルコトヲ得

第百十條 准訓導及助教ノ進退及懲戒處分ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第百十一條 准訓導及助教ノ俸給旅費其ノ他諸給與並ニ其ノ支給方法ハ地方長官之ヲ定ム

第六章 授業料

第百十二條 國民學校令第三十六條第二項ノ規定ニ依リ國民學校ニ於テ授業料ヲ徵收セントスルトキハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一月二十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定ムベシ但シ第七十一條ノ規定ニ依リ入學スル兒童ニ付テハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一月二十錢、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一月十錢迄ヲ増スコトヲ得

兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ヨリ入學スル兒童ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用セズ

第百十三條 特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メテ前條ノ制限ヲ超エタ

ル授業料ヲ徵收スルコトヲ得

第百十四條 國民學校特修科ノ授業料額ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムベシ

第百十五條 國民學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ズ

第百十六條 貧困ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハズト認ムル者ニ對シテハ管理者ハ授業料額ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

一家ノ兒童二人以上同時ニ國民學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減ズルコトヲ得

第七章 學務委員

第百十七條 戰爭又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ニシテ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラザル者並ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依リ恩給又ハ雇員扶助令、傭人扶助令ニ依リ扶助金(療治料ヲ除ク以下同ジ)ヲ給セラレ又ハ給セラレベキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ付テハ管理者ハ當該事實又ハ恩給若ハ扶助金ヲ給セラレベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ授業料ヲ免除スベシ下士官以下ノ軍人ニシテ戰時、平時ニ拘ラズ公務ノ爲死亡シタル者及一月以上生死分明ナラザル者並ニ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給法ニ依リ恩給ヲ給セラレ又ハ給セラレベキ者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ付亦同ジ

戰爭又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同一戸籍内ニ在ル子及弟妹ニ付テハ從軍中管理者ハ授業料額ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第七條 學務委員

第百十八條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ノ學務委員ハ十人以下トス但シ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ數ヲ増スコトヲ得

第百十九條 學務委員ハ左ニ掲グル事項ニ付市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述ス

- 一 就學督促ニ關スルコト
- 二 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト
- 三 設備ニ關スルコト
- 四 經費豫算ノ調製ニ關スルコト
- 五 授業料ニ關スルコト
- 六 學校基本財産ニ關スルコト
- 七 分教場ノ設備廢止ニ關スルコト
- 八 前後二部ニ分ツ授業ノ實施ニ關スルコト
- 九 特修科ノ設置廢止ニ關スルコト

第百二十條 公民ヨリ出ヅル學務委員ノ任期ハ四年トス

補闕ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ任期期間トス

第百二十一條 學務委員ニシテ其ノ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八章 雜則

第百二十二條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テ國民學校令ニ依リ雜キ事項アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

附則

第百二十三條 國民學校ニ類スル各種學校ハ國民學校ニ之ヲ併設スルコトヲ得

第百二十四條 國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ハ國民學校職員タルベキ資格ヲ有スル者タルベシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ前項ノ資格ヲ有セザル者ヲ國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ニ任用スルコトヲ得

第百二十五條 國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ノ進退及懲戒處分ハ准訓導及助教ノ例ニ依ル

國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第百二十六條 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百二十七條 本令施行前文部大臣ノ認可ヲ受ケタル歌詞樂譜ハ第三十六條ニ規定スル文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第百二十八條 一學級ノ兒童數ハ第五十條及第六十二條ノ規定ニ拘ラズ昭和十七年三月三十一日迄ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第百二十九條 本令施行ノ際現ニ存スル市町村立小學校ノ分教場ハ本令ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第百三十條 本令施行ノ際市町村立小學校ニ於テ現ニ前後二部ニ分チテ授業ヲ行フモノニ在リテハ本令ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ期間ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第百三十一條 從前ノ規定ニ依リ編製シタル學齡簿ハ本令ノ規定ニ依リ編製シタルモノト看做ス

(表)

科 等 初	學 年 及 科 目										住 所	本 籍	名 氏										
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	身 體	國 民 科	理 數 科	體 操 科	武 道				音 樂	習 字	圖 畫	工 作	裁 縫	家 事	實 業 科	加 設 科 目	教 科 概 評	職 擔 氏 任 名 者

第四號表

備考 本表中國民學校ニ非ザル學校トハ國民學校令第十一條ニ規定スル學校ヲ謂フ

學 就 不 履 論	期 間	事 由	認 可 年 月 日
			除 免 事 由

第三號表

増課ノ時數ハ土地ノ情況ニ依リ必要ト認ムル科目又ハ加設科目ニ配當スベシ但シ實業科及藝能科家事、裁縫以外ノ科目ニ付テハ一科目ニ付二時ヲ超ユルコトヲ得ズ
 實習ハ本表每週授業總時數外ニ互リテ之ヲ課スルコトヲ得
 男兒ニ在リテハ體操科ニ於テ每週凡ソ二時ヲ教練ニ充ツベシ
 一時ノ授業時間ハ之ヲ四十分トス

學 就	名 氏 童 兒 歸 學									
	性 別	生 年 月 日	現 住 所	本 籍						
學 民 國 校	國 非 民 國 學 校	入 學 年 月 日	初 等 科 修 了 年 月 日	高 等 科 修 了 年 月 日	學 校 名	保 護 者	氏 名	現 住 所	職 業	兒 童 關 係
							項 事 動 異	項 事 動 異		

(表)

高等科	初等科						學年	性行概評	身體及 其狀況 所見	出席日數	缺席日數	病故事	忘引日數	出席及缺席 對スル 評	家庭・環境	志望及其所見
	第二學年	第一學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年										
高等科							第一學年									
							第二學年									
							第三學年									
							第四學年									
							第五學年									
							第六學年									
							第一學年									
							第二學年									
							第三學年									
							第四學年									
							第五學年									
							第六學年									

●小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整理ニ關スル件

(昭和十六年三月一日
法律第十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 恩給法中左ノ通改正ス

第十六條、第十八條第三項、第五十九條第三項及第六十二條第三項中「小學校」ヲ「國民學校」ニ改ム

第二條 家屋稅法中左ノ通改正ス

第三條中「小學校」ヲ削ル

第三條 現役小學校教員俸給費國庫負擔法中左ノ通改正ス

「現役小學校教員俸給費國庫負擔法」ヲ「現役國民學校職員俸給費國庫負擔法」ニ改ム

第一條第一項及第三條中「市町村立小學校正教員」ヲ「國民學校訓導」ニ改ム

第四條 工業勞働者最低年齡法中左ノ通改正ス

第二條第一項中「尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノ」ヲ「命令ヲ以テ定ムル國民學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修了シタルモノ」ニ改ム

第五條 市町村立小學校教育費國庫補助法中左ノ通改正ス

「市町村立小學校教育費國庫補助法」ヲ「國民學校教育費國庫補助法」ニ改ム

第一條中「市町村立小學校教育費」ヲ「國民學校教育費」ニ改ム

第二條中「市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸」ヲ「國民學校職員ノ年功加俸及特別加俸」ニ改ム

第三條中「其ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員數ニ他ノ半額ハ市町村立小學校ノ本科正教員」ヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ半額ハ國民學校訓導ノ數ニ、他ノ半額ハ國民學校訓導」ニ改ム

第六條 少年教護法中左ノ通改正ス

第二十四條第一項中「尋常小學校ノ教科」ヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ國民學校ノ課程」ニ、「小學校令」ヲ「國民學校令」ニ、同條第二項中「尋常小學校ヲ卒業シタル者」ヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ國民學校ノ課程ヲ修了シタル者」ニ改ム

第七條 地方稅法中左ノ通改正ス

第六十一條中「小學校營繕費」ヲ「國民學校營繕費」ニ改ム

第八條 地方分與稅法中左ノ通改正ス

第十六條第二項、第二十四條第二項、第三十條第二項、第三十七條第二項及第四十二條中「尋常小學校兒童數」ヲ「國民學校兒童數」ニ改ム

第九條 兵役法中左ノ通改正ス

第十二條中「小學校」ヲ「國民學校」ニ改ム

第十條 罹災救助基金法中左ノ通改正ス

第十四條ノ二中「尋常小學校兒童」ヲ「國民學校兒童」ニ改ム

第七十條

第十二條 大正八年法律第三十八號中左ノ通改正ス
第一條中「小學校」ヲ削ル
附 則

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
恩給法第六十二條第三項ノ改正規定ノ適用ニ付テハ小學校又ハ小學校ニ
類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤績在職年ハ夫々之ヲ國民學校又ハ
國民學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤績在職年ト看做ス
地方税法第六十一條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ昭和十五年以前ニ於テ
小學校營繕費ニ充ツル爲借入レタル負債ハ之ヲ國民學校營繕費ニ充ツル
爲借入レタル負債ト看做ス
(參 照)

大正八年四月五日公布法律第三十八號ハ私立學校用地免租ニ關スル件
ナリ

●中等學校令(改正)(明治三十二年二月七日)
(勅令第二十八號)

昭和十六年三月第一五一號改正

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トシ特
ニ國民道德ノ養成ニ努ムベキモノトス (大正八年二月
第一一號改正)

第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應ジ一箇以上ノ中學校ヲ設
置スベシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ北海道及府縣ニ中學校ノ増設ヲ命
ズルコトヲ得 (大正八年二月
第一一號改正)

第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
(大正八年二月
第一一號改正)

第四條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須
要ニシテ其ノ區域内國民學校教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り中學校ヲ
設置スルコトヲ得 (大正八年二月
第一一號改正)

第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得
(昭和十六年三月一日
第一一五號改正)

第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ
認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス (大正八年二月
第一一號改正)

中學校ニハ補習科ヲ置クコトヲ得 (大正八年二月
第一一號改正)

中學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得
(大正八年二月
第一一號追加)

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者
國民學校初等科ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同
等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルベシ
(明治四十年七月
第二八〇號改正) (昭和十六年三月一日
第一一五號改正)

第十一條 中學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長
官ノ認可ヲ經テ學長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ
使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使
用ヲ認可スルコトヲ得

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者
タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セザル者ヲ
以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十四條 中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
(大正八年二月
第一一號追加)

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於
テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第十七條 授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ
在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム (明治四十年七月
第二八〇號改正)

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ
文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタ
ル農工業商業ノ專修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒
業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱
ス

他人法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス
明治四十年七月勅令第二百八十號附則

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年
四月一日ヨリ之ヲ施行ス

修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十
條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

●高等女學校令

(明治三十二年二月八日)
(勅令第三十一號)

昭和十六年三月第五〇號改正

第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的ト
シ特ニ國民道德ノ養成ニ力メ婦徳ノ涵養ニ留意スヘキモノトス
(大正九年
第一九九號改正)

第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ
(大正九年
第一九九號改正)

附 則

昭和十六年三月第一五一號改正

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

(明治四十三年 第四二四號改正)

第四條 市町村又ハ市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ 須要ニシテ其ノ區域内國民學校教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り高等女 學校ヲ設置スルコトヲ得

(大正九年 第一九九號改正) (昭和十六年三月一日 第一五〇號改正)

第五條 (削除)

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定 ム

第九條 高等女學校ノ修業年限ハ五箇年又ハ四箇年トス但シ土地ノ情況 ニ依リ三箇年ト爲スコトヲ得

(大正九年 第一九九號改正)

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校初等科ヲ修了シ タル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メ ラレタル者タルヘシ

修業年限三箇年ノ高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等 科ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力 アリト認メラレタル者タルヘシ

(大正九年 第一九九號改正) (昭和十六年三月一日 第一五〇號改正)

第十條ノ二 高等女學校ニ於テハ高等科、專攻科又ハ補習科ヲ置クコト ヲ得

第十條ノ三 高等科ハ精深ナル程度ニ於テ高等普通教育ヲ爲スモノトス

專攻科ハ精深ナル程度ニ於テ高等女學校ノ學科中一科目又ハ數科目 ヲ專攻セシムルモノトス

(大正九年 第一九九號追加)

第十條ノ四 高等科及專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

(大正九年 第一九九號追加)

第十條ノ五 修業年限三箇年ノ高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年 限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ 之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

修業年限二箇年ノ高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限五箇年若 ハ三箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ 之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者タルヘシ

第十條ノ六 專攻科及補習科ニ關スル規則ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ 外文部大臣之ヲ定ム

(大正九年 第一九九號追加)

第十一條 高等女學校ニ於テハ主トシテ家政ニ關スル學科目ヲ修メムト スル者ノ爲ニ實科ヲ置キ又ハ實科ノミヲ置クコトヲ得

(明治四十三年 第四二四號改正)

前項ノ高等女學校ニハ第十條ノ二中高等科又ハ專攻科ニ關スル規定ヲ 適用セス

(大正九年 第一九九號改正)

第十一條ノ二 實科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校初等科ヲ修了シ タル者、國民學校高等科第一學年ヲ修了シタル者若ハ國民學校高等科 ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力ア

リト認メラレタル者タルヘシ

(昭和十六年三月一日 第一五〇號改正)

第十一條ノ三 實科ノ修業年限ハ左ノ例ニ依リシ但シ第三號ノ場合ニ 於テハ一箇年ヲ延長スルコトヲ得

一 國民學校初等科修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ 於テハ四箇年

二 國民學校高等科第一學年修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トス ル場合ニ於テハ三箇年

三 國民學校高等科修了程度ヲ以テ第一學年ノ入學資格トスル場合ニ 於テハ二箇年

(昭和十六年三月一日 第一五〇號改正)

第十一條ノ四 修業年限二箇年ノ實科高等女學校ノ設置ニ關シテハ文部 大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定 ム

第十三條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地 方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科 書ヲ使用スルノ必要アルトモハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時 其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

第十四條 高等女學校ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有ス ル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル 者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十六條 高等女學校教員免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 (大正九年 第一九九號刪除)

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ 於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ 在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

(明治四十三年 第四二四號改正)

第十七條ノ二 第二條ノ規定ハ實科高等女學校ニ之ヲ適用セス

(同上)

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ 設置ヲ延期スルコトヲ得

明治四十年七月勅令第二百八十一號附則

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四 月一日ヨリ之ヲ施行ス

修業年限三箇年ノ高等女學校ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業ニ 至ル迄仍之ヲ存續スルコトヲ得

修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條 施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

明治四十三年十月勅令第四百二十四號附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ技藝專修科ニ在學スル者ノ卒業ニ至ル迄ハ技藝專修科 ヲ存置スルコトヲ得

附 則 (昭和十六年三月一日)
本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●實業學校令

(明治三十二年二月七日)
(勅令第二十九號)

昭和十六年三月第一五四號改正

- 第一條 實業學校ハ實業ニ從事スル者ニ須要ナル智識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ總性ノ涵養ニ力ムヘキモノトス
第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商業學校商船學校水産學校其ノ他實業教育ヲ爲ス學校トス
第三條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得
第四條 市町村、北海道ノ一級町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内國民學校教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り實業學校ヲ設置スルコトヲ得

(昭和十年三月) (昭和十六年三月一日)
(第四三號改正) (第一五四號改正)

市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設タルコトヲ得

(大正九年第五)
(六四號改正)

- 第五條 商工會事務所、農會其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得
第六條 私立ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得
第七條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第八條 實業學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第九條 實業學校ノ教科書ハ公立學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム
第十條 公立又ハ私立ノ實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第十一條 削除
第十二條 削除
第十三條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

(大正九年第五) (昭和十年三月)
(六四號改正) (第四三號改正)

- 第十四條 實業學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得
第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第十六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
第十七條 (明治三十六年)
第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看做ス
第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ
明治三十六年勅令第六十二號ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
札幌農學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、神戸高等商業學校、東京高等工業學校、大阪高等工業學校及京都高等工業學校ハ本令施行ノ日ヨリ實業專門學校トス
大正九年十二月勅令第五百六十四號ハ大正十年四月一日ヨリ施行ス
昭和十年三月三十日勅令第四十三號ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●師範學校令(改正)

(明治三十年十月九日)
(勅令第三百四十六號)

昭和十六年三月第一五二號改正

第一條 高等師範學校ハ師範學校、中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

附 則

- 女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
師範學校ハ國民學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
前二項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ德性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ
第二條 師範學校ハ北海道及各府縣ニ各壹校若ハ數校ヲ設置ス
第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス
第四條 師範學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學費ハ文部大臣ノ定ムル所ニヨリ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ
第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム
第九條 師範學校ニ國民學校教員講習科及幼稚園保母講習科ヲ置クコトヲ得

(昭和十六年三月一日)
(第一五二號改正)

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
 明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス
 附 則 (昭和十六年三月一日) (第一五二號)
 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ施行ス

●高等學校令(改正) (大正七年十二月六日) (勅令第三百八十九號)

昭和十六年三月第一五三號改正
 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民ノ道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス
 第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス
 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ルハ公共團體ハ北海道及府縣トス
 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人ガ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシテ之ヲ供託スヘシ
 第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年、尋常科四年トス
 高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
 第八條 高等學校高等科ヲ分テ文科及理科トス
 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス
 專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得
 專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
 第十條 高等學校ニ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
 第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、國民學校初等科ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
 第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中等學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
 第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス
 第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス
 第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ

從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
 第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
 高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
 第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
 第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス
 第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徴シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス
 附 則 (昭和十六年三月一日) (第一五三號)
 本令ハ大正八年四月一日ヨリ施行ス
 明治二十七年勅令第十五號高等學校及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス
 勅令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス
 前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス
 高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

●青年學校令(改正) (昭和十四年四月二十六日) (勅令第二百五十四號)

昭和十六年三月第一五五號改正
 除稱顧問ノ諮詢ヲ經テ青年學校令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 青年學校令
 第一章 目的
 第一條 青年學校ハ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛鍊シ德性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス
 第二章 課程
 第二條 青年學校ニ本科及研究科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ本科ノミヲ置クコトヲ得 (昭和十六年三月一日) (第一五五號改正)
 第三條 本科ノ教授及訓練期間ハ男子ニ在リテハ五年、女子ニ在リテハ三年トス但シ土地ノ情況ニ依リ男子ニ在リテハ四年、女子ニ在リテハ二年ト爲スコトヲ得
 研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス (昭和十六年三月一日) (第一五五號改正)
 第四條 本科ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一學年及第二學年ニ於テ各二百十時以上、第三學年以上ニ於テ各百八十時以上トシ女子ニ在リテハ各學年二百十時以上トス
 研究科ノ教授及訓練時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ
 第五條 本科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、職業科並ニ教練科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、

職業科、家庭科並ニ體操科トス

研究科ノ教授及訓練科目ハ本科ノ教授及訓練科目ニ就キ適宜之ヲ定ム
ベシ但シ修身及公民科ハ之ヲ缺クコトヲ得ズ

第六條 青年學校ニハ特別ノ事項ヲ修得セシムル爲專修科ヲ置クコトヲ
得
專修科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 特別ノ學歷若ハ素質ヲ有スル生徒又ハ現ニ青年學校以外ノ施設
ニ於テ教育ヲ受クル生徒ニ對シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ教授及
訓練科目中其ノ一部ヲ課セザルコトヲ得

第八條 教授及訓練科目中生徒其ノ身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハ
ザル科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セザルコトヲ得

第九條 青年學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ慮アル生徒又ハ品行不良ニ
シテ他ノ生徒ノ教育ニ妨アリト認ムル生徒ノ青年學校ニ出席スルヲ停
止スルコトヲ得

第十條 青年學校ノ教科用圖書ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三章 就 學

第十一條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等科修了者トス
研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者トス

第十二條 年齡滿十四歲ヲ超エ滿十九歲(滿十九歲ニ達シタル日ニ於テ
昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

仍青年學校本科ノ學年ノ中途ニ在ル者ニ付テハ其ノ學年ノ終ニ至ル
迄ノ男子ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外其ノ保護者ニ於テ之
ヲ青年學校ニ就學セシメ義務課程ヲ履修セシムルコトヲ要ス

一 國民學校ニ就學セシムベキ者又ハ現ニ國民學校ニ在學スル者
二 現ニ高等學校普通科ニ在學スル者又ハ之ヲ修了シタル者
三 現ニ師範學校本科第一部ニ在學スル者又ハ同第二學年ヲ修了シタ
ル者

四 現ニ中學校ニ在學スル者又ハ同第四學年ヲ修了シタル者
五 現ニ實業學校ニ在學スル者國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資
格トスル修業年限四年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第四學年ヲ修
了シタル者又ハ國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業
年限二年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第二學年ヲ修了シタル者

六 青年學校本科ノ課程ヲ修了シタル者
七 特ニ文部大臣ノ指定スル者(昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

第十三條 前條ノ保護者トハ就學セシメラルベキ者(義務就學者ト稱ス
以下同ジ)ニ對シ親權ヲ行フ者(親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人又ハ
後見人ノ職務ヲ行フ者)ヲ謂フ
前條ノ義務課程トハ本科ノ各學年ニ於テ義務就學者ガ第四條ニ規定ス
ル各最低時數ヲ以テ履修スベキ課程ヲ謂フ(昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

第十四條 義務就學者ノ癡癩白痴又ハ不具發疾其ノ他已ムヲ得ザル事由
ニ因リ之ヲ就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村長ハ文部大
臣ノ定ムル所ニ依リ第十二條ニ規定スル保護者ノ義務ヲ免除スルコト
ヲ得

第十五條 義務就學者ノ癡癩白痴其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ之ヲ
就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村長ハ文部大臣ノ定ムル
所ニ依リ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

第十六條 第七條及第八條ノ場合ニ於テハ第十二條ニ規定スル保護者ノ
義務課程ヲ履修セシムベキ義務ハ各其ノ限度ニ於テ免除セラレタルモ
ノトス

青年學校トス

第二十一條 商工會議所、農會其ノ他之ニ準ズベキ公共團體、法人ニ非
ザル社團ニシテ代表者ノ定アルモノ及私人ハ青年學校ヲ設置スルコト
ヲ得

第二十二條 前項ニ規定スル者ノ設置スル青年學校ハ之ヲ私立青年學校トス
第二十三條 青年學校ノ設置廢止ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣
其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條 青年學校ノ設置廢止ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
第二十五條 市町村ハ其ノ區域内ノ義務就學者ヲ就學セシムルニ必要ナ
ル青年學校ヲ設置スベシ但シ市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ依リ
設置スルヲ妨ゲズ

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ設置スル青年學校ノ市町村内ニ於ケル校
數及位置ハ地方長官ニ於テ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合
ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムベシ

第二十七條 地方長官ハ一町村ニ於テ就學セシムベキ者ノ數一青年學校
ヲ構成スルニ足ラズ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一青年學校ヲ構成ス
ルニ足ルベキ數ヲ得ルコト能ハズト認ムルトキハ青年學校ノ設置ニ代
ヘ其ノ町村ヲシテ義務就學者ノ全部又ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町
村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコト
ヲ得

第二十八條 地方長官ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前
項ノ事情アルモノガ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ

仍青年學校本科ノ學年ノ中途ニ在ル者ニ付テハ其ノ學年ノ終ニ至ル
迄ノ男子ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外其ノ保護者ニ於テ之
ヲ青年學校ニ就學セシメ義務課程ヲ履修セシムルコトヲ要ス

一 國民學校ニ就學セシムベキ者又ハ現ニ國民學校ニ在學スル者
二 現ニ高等學校普通科ニ在學スル者又ハ之ヲ修了シタル者
三 現ニ師範學校本科第一部ニ在學スル者又ハ同第二學年ヲ修了シタ
ル者

四 現ニ中學校ニ在學スル者又ハ同第四學年ヲ修了シタル者
五 現ニ實業學校ニ在學スル者國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資
格トスル修業年限四年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第四學年ヲ修
了シタル者又ハ國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業
年限二年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第二學年ヲ修了シタル者

六 青年學校本科ノ課程ヲ修了シタル者
七 特ニ文部大臣ノ指定スル者(昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

職業科、家庭科並ニ體操科トス

研究科ノ教授及訓練科目ハ本科ノ教授及訓練科目ニ就キ適宜之ヲ定ム
ベシ但シ修身及公民科ハ之ヲ缺クコトヲ得ズ

第六條 青年學校ニハ特別ノ事項ヲ修得セシムル爲專修科ヲ置クコトヲ
得
專修科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 特別ノ學歷若ハ素質ヲ有スル生徒又ハ現ニ青年學校以外ノ施設
ニ於テ教育ヲ受クル生徒ニ對シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ教授及
訓練科目中其ノ一部ヲ課セザルコトヲ得

第八條 教授及訓練科目中生徒其ノ身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハ
ザル科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セザルコトヲ得

第九條 青年學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ慮アル生徒又ハ品行不良ニ
シテ他ノ生徒ノ教育ニ妨アリト認ムル生徒ノ青年學校ニ出席スルヲ停
止スルコトヲ得

第十條 青年學校ノ教科用圖書ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三章 就 學

第十一條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等科修了者トス
研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者トス

第十二條 年齡滿十四歲ヲ超エ滿十九歲(滿十九歲ニ達シタル日ニ於テ
昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

仍青年學校本科ノ學年ノ中途ニ在ル者ニ付テハ其ノ學年ノ終ニ至ル
迄ノ男子ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外其ノ保護者ニ於テ之
ヲ青年學校ニ就學セシメ義務課程ヲ履修セシムルコトヲ要ス

一 國民學校ニ就學セシムベキ者又ハ現ニ國民學校ニ在學スル者
二 現ニ高等學校普通科ニ在學スル者又ハ之ヲ修了シタル者
三 現ニ師範學校本科第一部ニ在學スル者又ハ同第二學年ヲ修了シタ
ル者

四 現ニ中學校ニ在學スル者又ハ同第四學年ヲ修了シタル者
五 現ニ實業學校ニ在學スル者國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資
格トスル修業年限四年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第四學年ヲ修
了シタル者又ハ國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業
年限二年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第二學年ヲ修了シタル者

六 青年學校本科ノ課程ヲ修了シタル者
七 特ニ文部大臣ノ指定スル者(昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

第十三條 前條ノ保護者トハ就學セシメラルベキ者(義務就學者ト稱ス
以下同ジ)ニ對シ親權ヲ行フ者(親權ヲ行フ者ナキトキハ後見人又ハ
後見人ノ職務ヲ行フ者)ヲ謂フ
前條ノ義務課程トハ本科ノ各學年ニ於テ義務就學者ガ第四條ニ規定ス
ル各最低時數ヲ以テ履修スベキ課程ヲ謂フ(昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

第十四條 義務就學者ノ癡癩白痴又ハ不具發疾其ノ他已ムヲ得ザル事由
ニ因リ之ヲ就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村長ハ文部大
臣ノ定ムル所ニ依リ第十二條ニ規定スル保護者ノ義務ヲ免除スルコト
ヲ得

第十五條 義務就學者ノ癡癩白痴其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ之ヲ
就學セシムルコト能ハズト認ムルトキハ市町村長ハ文部大臣ノ定ムル
所ニ依リ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得

青年學校トス

第二十一條 商工會議所、農會其ノ他之ニ準ズベキ公共團體、法人ニ非
ザル社團ニシテ代表者ノ定アルモノ及私人ハ青年學校ヲ設置スルコト
ヲ得

第二十二條 前項ニ規定スル者ノ設置スル青年學校ハ之ヲ私立青年學校トス
第二十三條 青年學校ノ設置廢止ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣
其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十四條 青年學校ノ設置廢止ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
第二十五條 市町村ハ其ノ區域内ノ義務就學者ヲ就學セシムルニ必要ナ
ル青年學校ヲ設置スベシ但シ市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ依リ
設置スルヲ妨ゲズ

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ設置スル青年學校ノ市町村内ニ於ケル校
數及位置ハ地方長官ニ於テ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合
ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムベシ

第二十七條 地方長官ハ一町村ニ於テ就學セシムベキ者ノ數一青年學校
ヲ構成スルニ足ラズ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一青年學校ヲ構成ス
ルニ足ルベキ數ヲ得ルコト能ハズト認ムルトキハ青年學校ノ設置ニ代
ヘ其ノ町村ヲシテ義務就學者ノ全部又ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町
村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコト
ヲ得

第二十八條 地方長官ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前
項ノ事情アルモノガ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ

仍青年學校本科ノ學年ノ中途ニ在ル者ニ付テハ其ノ學年ノ終ニ至ル
迄ノ男子ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ除クノ外其ノ保護者ニ於テ之
ヲ青年學校ニ就學セシメ義務課程ヲ履修セシムルコトヲ要ス

一 國民學校ニ就學セシムベキ者又ハ現ニ國民學校ニ在學スル者
二 現ニ高等學校普通科ニ在學スル者又ハ之ヲ修了シタル者
三 現ニ師範學校本科第一部ニ在學スル者又ハ同第二學年ヲ修了シタ
ル者

四 現ニ中學校ニ在學スル者又ハ同第四學年ヲ修了シタル者
五 現ニ實業學校ニ在學スル者國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資
格トスル修業年限四年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第四學年ヲ修
了シタル者又ハ國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業
年限二年以上ノ實業學校ヲ卒業シ若ハ同第二學年ヲ修了シタル者

六 青年學校本科ノ課程ヲ修了シタル者
七 特ニ文部大臣ノ指定スル者(昭和十六年三月一日)
第一五五號改正)

青年學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラズト認ムルトキ亦前項ノ例ニ依ルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ義務就學者ノ教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメントスルトキハ關係市町村、市町村學校組合、町村學校組合及學區ノ意見ヲ聞クベシ

第二十七條 地方長官ハ町村ガ其ノ實力青年學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘズ且青年學校設置ノ爲他ノ市町村ト學校組合ヲ設クルコト能ハズト認ムルトキハ其ノ町村ヲシテ青年學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得

地方長官ハ前條第一項ノ事由アルモ町村ヲシテ同項ノ規定ニ依ラシムルコト能ハズト認ムルトキハ其ノ町村ノ區域ノ全部又ハ一部ニ關シ青年學校設置ノ義務ヲ免レシムルコトヲ得前條第二項ノ事由アルモ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲシテ同項ノ規定ニ依ラシムルコト能ハズト認ムルトキ其ノ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ區域ノ一部ニ關シ亦同ジ

前二項ノ規定ニ依リ青年學校設置ノ義務ヲ免セラレタル區域内ノ義務就學者ノ保護者ハ第十二條ノ規定スル義務ヲ免除セラレタルモノトス

第六章 費用負擔及授業料

第二十八條 青年學校設置ニ關スル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外道府縣立青年學校ニ在リテハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トシ市町村立青年學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス其ノ費用ノ概目左ノ如シ
一 設備及其ノ維持ノ費用

二 職員ノ俸給、旅費其ノ他ノ諸給與
三 校費

第二十六條ノ規定ニ依ル教育事務ノ委託ニ關スル費用ハ之ヲ委託シタル市町村、市町村學校組合若ハ町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス
第二十九條 區長及其ノ代理者並ニ學區ノ學務委員ガ青年學校ニ關スル國ノ教育事務ヲ執行スル爲ニ要スル費用ハ市町村會、市町村學校組合又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ學區ノ負擔ト爲スコトヲ得
第三十條 青年學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アルトキハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ文部大臣其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條 道府縣立青年學校ノ授業料ハ北海道地方費又ハ府縣ノ收入トシ市町村立青年學校ノ授業料ハ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ收入トス
第三十二條 授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七章 管理及監督

第三十三條 市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ青年學校ニ關スル教育事務ヲ管掌シ市町村立青年學校ヲ管理ス

第三十四條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ青年學校ニ關スル教育事務ノ爲市制第八十三條若ハ町村制第六十九條ノ規定又ハ其ノ準用規定ニ依リ學務委員ヲ置クベシ此ノ場合ニ於テハ市町村會、市町村學校組合又ハ町村學校組合會ノ議決ニ依ルコトヲ要セズ
市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ハ青年學校ニ關スル教育事

務ノ爲條例ニ依リ其ノ學區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立青年學校ノ學校長又ハ教員ヲ加フベシ
委員中學校長又ハ教員ヨリ出ヅル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第三十五條 學務委員ノ職務其ノ他ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條 市町村立青年學校長及教員ハ其ノ執行スル青年學校ニ關スル國ノ教育事務ニ付地方長官之ヲ監督ス

第三十七條 私立青年學校ハ地方長官之ヲ監督ス

第八章 補則

第三十八條 町村組合ニシテ其ノ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合會ハ之ヲ町村會ト看做ス

第三十九條 町村制ヲ施行セザル地域ニ於テハ本令中町村、町村組合、町村吏員、町村組合吏員、町村會及町村組合會ニ關スル規定ハ其ノ地域ニ於ケル此等ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第三十四條第一項中町村制第六十九條トアルハ前項ノ地域ニ於テハ北海道一級町村第一條又ハ北海道二級町村制第七十二條トス

第一項ノ地域ニ於テ本令ニ依リ難キ事項ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 本令ニ依ラザル學校ハ青年學校ト稱スルコトヲ得ズ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在スル青年學校ニシテ本科ノ男子ノ教授及訓練期間ヲ

二年又ハ三年ト爲スモノニ付テハ第三條第二項ノ規定ニ拘ラズ昭和十六年三月三十一日迄ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第十二條ノ規定ハ大正十五年四月一日以前ニ出生シタル者ニ關シテハ之ヲ適用セズ

特別ノ事情アル場合ニ限リ青年學校ニハ地方長官ノ認可ヲ受ケ當分ノ內專任教員ヲ置カザルコトヲ得

附則 (昭和十六年三月一日第一五五號)

本令中年齡ニ關スル第十二條ノ改正規定ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十六年四月一日以前ニ出生シタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令中第二條、第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項、第十一條第一項及第十三條第二項ノ改正規定ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十一條第一項中「尋常小學校卒業者」ヲ「國民學校初等科修了者」ニ、「高等小學校卒業者」ヲ「國民學校高等科修了者」ニ改メ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校普通科ニシテ其ノ課程ガ國民學校高等科ノ課程ト同等以上ト認メラルモノハ第二條、第三條第一項、第四條第一項、第五條第一項及第十一條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ文部大臣ノ定ム所ニ依リ昭和二十年四月一日以降當分ノ内仍之ヲ存續スルコトヲ得

普通科修了者ハ昭和二十年四月一日ヨリ本科入學ニ關シテハ之ヲ國民學校高等科修了者ト看做ス

幼稚園令(改正)(大正十五年四月二十二日勅令第七十四號)

昭和十六年三月第一四九號改正幼稚園令

- 第一條 幼稚園ハ幼児ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補助スルヲ以テ目的トス
- 第二條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得
- 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ幼稚園ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得
- 第三條 私人ハ本令ニ依リ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 公立幼稚園ハ國民學校ニ附設スルコトヲ得
- 第五條 幼稚園ノ設置停止ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 幼稚園ニ入園スルコトヲ得ル者ハ三歳ヨリ國民學校就學ノ始期ニ達スル迄ノ幼児トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ三歳未満ノ幼児ヲ入園セシムルコトヲ得
- 第七條 幼稚園ニハ園長及相當員數ノ保婦ヲ置クヘシ
- 第八條 園長ハ國務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス
- 園長ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 保婦ハ幼児ノ保育ヲ掌ル
- 保婦ハ女子ニシテ保婦免許狀ヲ有スル者タルヘシ
- 第十條 特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ保婦免許狀ヲ有セザル女子ヲ以テ保婦ニ代用スルコトヲ得
- 第十一條 保婦免許狀ハ地方長官ニ於テ保婦檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ

授與シ全國ニ通シテ有效トス

- 保婦檢定ハ國民學校教員檢定委員會ニ於テ之ヲ行フ
- 保婦ノ檢定及免許狀ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
- 保婦ノ檢定及免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十二條 市長又ハ市町村學校組合管理者ハ市又ハ市町村學校組合ノ設置スル幼稚園ノ職員ノ進退ニ關シ地方長官ニ具狀スルコトヲ得
- 第十三條ノ二 公立幼稚園ノ職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ地方長官之ヲ定ム
- 第十四條ノ三 幼稚園ノ職員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム(昭和十六年三月一日第一四九號追加)
- 第十五條ノ四 幼稚園ノ職員ニ關シテハ國民學校令第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス(昭和十六年三月一日第一四九號追加)
- 第十六條ノ五 公立幼稚園ノ職員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタルトキハ地方長官ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス
- 私立幼稚園ノ職員ニシテ前項ニ準スヘキ行爲アリタルトキハ地方長官ハ其ノ業務ヲ停止ス(昭和十六年三月一日第一四九號追加)
- 第十七條ノ六 地方長官ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ保婦免許狀取消ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得(昭和十六年三月一日第一四九號追加)

私立學校令

(明治三十二年八月三日勅令第三百五十九號)

- 第十三條 幼稚園ノ設置廢止、保育項目及其ノ程度、編制並設備ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十四條 幼稚園ニ於テ保育料入園料等ヲ徵收セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ額ヲ定ムヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 附 則
- 本令施行ノ際現ニ存シ小學校令ニ依リ設置セラレタル幼稚園ハ本令ニ依リ設置セラレタルモノト看做ス
- 本令施行ノ際現ニ幼稚園ノ保婦ノ職ニ在ル者ニシテ小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スルモノニハ地方長官ハ保婦檢定ヲ經シテ保婦免許狀ヲ授與スルコトヲ得
- 附 則
- 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沿革 明治四十四年七月第二一八號、大正八年二月第一九號、一二年八月第三八一號昭和十六年三月第一五六號改正

私立學校令

- 第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス
- 第二條 私立學校ノ設立廢止及設立者ノ變更ハ監督官ノ認可ヲ受クヘシ

- 第二條ノ二 私人ニシテ中學校又ハ專門學校ヲ設立セムトスルトキハ其ノ學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル資産及設備又ハ之ニ要スル資金ヲ具ヘ民法ニ依リ財團法人ヲ設立スヘシ(明治四十四年七月第二一八號改正)
- 第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官ノ認可ヲ受クヘシ
- 本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス
 - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 二 罰金(明治四十四年七月第二一八號)
 - 三 破産者ニシテ復權ヲ得サル者(昭和十六年三月一日第一五六號改正)
 - 四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者
 - 五 教員免許狀取消ノ處分ヲ受ケ又ハ第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命ゼラレ二箇年ヲ經過セサル者
 - 六 品行不良ト認ムヘキ者
- 第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ國民學校ニ準スヘキ各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國

(明治四十四年七月第二一八號改正)

八ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス
前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

(大正十二年八月) (昭和十六年三月一日) (第三八二號改正) (第一五六號改正)

第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試驗ヲ施スコトアルヘシ

第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之ヲ解職ヲ命シ又ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テハ學齡兒童(國民學校令第九條第一項ノ規定ニ依リ其ノ保護者ノ義務ヲ免除セラレ又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ就學ヲ猶豫セラレタル者ヲ除ク)ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ其ノ課程ニ付同令第十一條ノ規定ニ依リ認定アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(昭和十六年三月一日) (第一五六號改正)

第九條 私立學校ノ設備及他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之ヲ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得
一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ
二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ墮亂スルノ虞アルトキ
三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ
四 法令ノ規定ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ(大正八年二月) (第一九號改正)

旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十一條ノ二 大學、專門學校、高等學校又ハ中學校ニ於テハ每學年又ハ每事業年度ノ開始前收支豫算ヲ定メ、每學年又ハ每事業年度ノ終了後收支決算ヲ爲シ監督官廳ニ届出ツヘシ
監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ收支豫算ノ變更ヲ命スルコトヲ得

(明治四十四年七月) (大正八年二月) (第二一八號改正) (第一九號改正)

第十二條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴訟法ニ依リ訴訟スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條ノ設立ノ手續ヲ爲ササル者及學校ノ廢止又ハ設立者ノ變更ニ關シ第二條ノ規定ニ違反シタル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(明治四十四年七月) (第二一八號改正)

第十四條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得シテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ノ規定ニ依リ解職ヲ命セラレ又ハ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

(明治四十四年七月) (第二一八號改正)

第十五條 第八條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

(明治四十四年七月) (第二一八號改正)

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附 則

第十八條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未ダ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令

施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケヘシ
第二十條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教員タル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受ケルヲ要セス

附 則 (昭和十六年三月一日第一五六號)

本令中第四條第三號ノ改正規定ハ公布ノ日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ小學校令第三十六條ノ規定ニ依リ市町村長ノ認可ヲ受ケタル兒童ヲ在學セシムル私立學校ニシテ國民學校令第五十二條第二項ノ規定ニ該當スルモノハ第八條ノ改正規定ニ拘ラス仍當該兒童ヲ在學セシムルコトヲ得學齡兒童ニシテ就學ノ義務ヲ了リタルモノハ第八條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ之ヲ學齡兒童ニ非サルモノト看做ス

●義務教育費國庫負擔法(改正)

(昭和十五年三月二十九日) (法律 第二十二號)

附 則 昭和十六年三月第一號
朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル市町村義務教育費國庫負擔法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

義務教育費國庫負擔法

第一條 國民學校教員(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)ノ俸給ノ爲北海道地方費及府縣ニ於テ要スル經費ノ半額ハ國庫之ヲ負擔ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔スル金額ハ每年度之ヲ北海道地方費及府縣ニ交付ス

第三條 削除 (昭和十六年三月一日第十一號改正)

第四條 削除 (昭和十六年三月一日第十一號改正)

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第二號ハ之ヲ廢止ス

●國民學校教育費國庫補助法(改正)

(明治三十三年三月十六日) (法律 第六十三號)

附 則 明治四十二年三月第五號昭和十六年三月第一號改正
朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル市町村立小學校教育費國庫補助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國民學校教育費國庫補助法

第一條 國民學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ每年度豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス(昭和十六年三月一日) (第一二號改正)

第二條 前條ノ補助金ハ國民學校教員ノ年功加俸及特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十六年三月一日) (第一二號改正)

第三條 第一條ノ補助金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ半額ハ國民學校訓導ノ數ニ他ノ半額ハ國民學校訓導ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤續スル者ノ數ニ比例シテ之ヲ北海道及府縣ニ配賦ス(昭和十六年三月一日) (第一二號改正)

附 則

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受ケタル者ニハ同一學校ニ勤續スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

調査上の注意 本表ノ五月一日現在ニ於ケル調査ハ既ニ入管シタル者及
入管日ノ確定シタル者ニ付調査シ、一月一日現在ニ於ケル調査ハ既ニ
入管シタル者、入管日ノ確定シタル者及未ダ入管日確定セザルモ年度
内ニ入管スル見込ノ者ヲモ含メ計上シ其ノ年度俸給費決算額ニ比シ少
額トナラザル様注意スベシ

様式第二號

負擔法ノ現役職員ノ昭和		昭和		年度俸給費所要見込額異動調	
前同報告ノ合計額	本年支給俸給費所要見込額	昭和	年	月	日現在
異動ニ因ル増減額	同上増減額ノ説明				
増 加 額					
減 少 額					
差引合計額					

調査上ノ注意 増減額ノ説明ハ増減額算定ノ基礎トナリタル計數ヲ洩
レナク記載スベシ

様式第三號

負擔法ノ現役職員ノ昭和		昭和		年度俸給費及國庫下渡金精算額調	
支給又ハ下渡月別人員	俸給支給額	國庫下渡金	備考		
合計					

(昭和十六年三月十五日)
第四號 改正

同上差額圓總
右差額ノ處理
願末

區分	内											
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
人員												

様式第四號

昭和 年施行シタル師範學校ヲ卒業シタル國民學校訓
導ノ徴兵検査成績調

區分	受檢者總數		同上ノ徴兵検査等位別數			
	甲種	乙種	第一種	第二種	第三種	丙種丁種戊種
人員						

(昭和十六年三月十五日)
第四號 改正

様式第五號 (昭和十六年三月十五日) 第四號 改正

師範學校ヲ卒業シタル國民學校訓導ニシテ其ノ年徴兵検査ヲ受クベキモノニ關スル調 (昭和 年五月一日現在)	
徴兵検査ヲ受クベキ年ノ翌年三月一日現在ニ於ケル月俸見込額調	受檢見込人員
合計	人
内	
圓	
圓	
圓	

●市町村立小學校教員ノ俸給及旅費ノ負擔ニ關スル件(改正)

(昭和十五年三月二十九日)
勅令第四百十四號

沿革 昭和十六年三月第一五九號改正

朕福審顧問ノ諮詢ヲ經テ市町村立小學校教員ノ俸給及旅費ノ負擔ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國民學校教員(養護訓導ヲ除ク)ノ俸給及赴任ノ場合ニ支給スル旅費ハ
北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
附 則
本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和十六年三月一日)
第一五九號 改正

(昭和十六年三月一日)
第一五九號

●公立學校職員分限令 (大正四年一月二十七日) (勅令第三三三號)

沿革 昭和十六年三月第一六〇號改正

第一條 本令ハ公立ノ大學專門學校 高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、青年學校、盲學校、聾啞學校及國民學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ適用ス

(大正十一年第一三三〇號改正) (大正十三年第一三三〇號改正) (昭和十年三月第一六〇號改正) (昭和十六年三月第一六〇號改正)

第二條 公立學校職員ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依ルニ非ザレバ其ノ職ヲ免ゼラルコトナシ

第三條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ免ズルコトヲ得

一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘザルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘザルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免職ヲ願出デタルトキ

三 學校編制ノ變更ニ因リ過員ヲ生ジタルトキ

前項第一號ノ規定ニ依リ其ノ職ヲ免ズルトキハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官高等懲戒委員會、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス (大正十一年第一三三〇號改正)

第四條 公立學校職員ハ懲戒若ハ廢校ノ場合又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ當然退職者トス

第五條 第八條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命ゼラレ又ハ

ハ第八條第二項ノ規定ニ依リ休職ト爲リ滿期ニ至リタルトキハ當然退職者トス

國民學校職員國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ノ發給ノ處分ヲ受ケタル場合亦同シ (昭和十六年三月第一六〇號改正)

第六條 公立學校職員ハ其ノ意ニ反シテ待遇ヲ下シ又ハ俸給ヲ減ゼラルコトナシ

第七條 文官分限令第九條及第十條ノ規定ハ公立學校職員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命ズルコトヲ得

一 懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキ

三 學校編制ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ過員ヲ生ジタルトキ

四 教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スルトキ

五 教育上又ハ事務上必要ナルトキ

六 外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員ト爲ルトキ

公立學校職員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ師範學校訓導及國民學校訓導ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル者ハ其ノ限ニ在ラズ

第九條 休職ノ期間ハ前條第一項第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ

(大正十一年第一三三〇號改正) (昭和三年第一三三〇號改正) (昭和十六年三月第一六〇號改正)

事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ屬屬中トシ第三號、第五號及第六號ノ場合ニ在リテハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ二年、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ一年トシ第四號及前條第二項ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙ホ三月トス但シ前條第一項第六號ノ場合ニ在リテハ本屬長官其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第十條 休職者ハ職務ニ從事セズ及俸給ヲ減ゼラレ又ハ之ヲ受ケザルノ外總テ在職者ト異ナルコトナシ

第十一條 文官分限令第十四條ノ規定ハ公立學校職員ニ之ヲ適用ス (大正十一年第一三三〇號改正) (昭和十六年三月第一六〇號改正)

附 則

明治二十七年勅令第四百一十一號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際休職中ノ者ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

附 則 大正十年四月十二日勅令第九十號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際現ニ徵兵令第十四條ノ規定ニ依リ一年現役ニ服スル者ニ付テハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

大正十一年八月八日勅令第三百六十五號ハ公布ノ日ヨリ施行ス

大正十二年八月二十七日勅令第三百八十號ハ大正十二年四月一日ヨリ施行ス

大正十三年三月二十一日勅令第六十八號ハ大正十三年四月一日ヨリ施行ス

昭和三年五月十七日勅令第八十六號ハ昭和三年五月十八日ヨリ施行ス

昭和十年三月三十日勅令第五十二號ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附 則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●公立學校職員俸給令(改正)

(明治三十六年三月二十八日) (勅令第六十六號)

沿革 明治三十七年二月第五三號、四二年二月第三三三號、大正

三年一〇月第二〇五號、六年一月第八號、八年三月第二七號、

八月第三七九號、九年八月第三二六號、一〇年二月第一六號、

四月第八八號、七月第三一九號、一二年八月第三七九號、一四

年四月第一四八號、昭和三年五月第八五號、五年一〇月第一九

〇號、六年五月第一一五號、一〇年四月第五〇號、一五年三月

第七七號、一六年三月第一五八號改正

公立學校職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公立學校職員俸給令

第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、大學預科、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、青年學校、盲學校、聾啞學校及國民學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ

第二條 勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル專門學校、實業專門學校、大學預科及高等學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル

第二號ノ二 高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長、教授及奏任官ノ待遇ヲ

受クル教諭ノ年俸ハ第二號表ニ依ル

第三條 奏任官ノ待遇ヲ受クル高等學校尋常科、高等學校理科、師範學校、中學校、高等女學校、高等科ヲ置ク高、實業學校、實業專門學、青年學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ノ年俸ハ第三號表ニ依ル

第四條 判任官ノ待遇ヲ受クル職員(國民學校職員ヲ除ク)ノ月俸ハ第四號表ニ依ル

第五條 國民學校職員ノ俸給ハ第五號表ニ依ル

第六條 官吏ニシテ在官ノ職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第七條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ六百圓以内、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ四百圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得但シ國民學校職員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條 教員ニシテ合監、主事ヲ兼スル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第九條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第十條 二校以上ノ職員ヲ兼スル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十一條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ

不足額ヲ給スルコトヲ得

第十二條 俸給ハ毎級在職一年以上ニ至ラザレハ増給スルコトヲ得但シ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸千三百圓以下(國民學校職員ニ在リテハ月俸九十五圓以下)ノ者及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸七十五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前條ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

第十四條 前項ノ規定ハ年俸千三百圓以下又ハ月俸七十五圓以下(奏任官ノ待遇ヲ受クル國民學校職員ニ在リテハ月俸九十五圓以下)ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十五條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第十六條 前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得

第十七條 前二項ノ規定ハ年俸千三百圓以下又ハ月俸七十五圓以下(奏任官ノ待遇ヲ受クル國民學校職員ニ在リテハ月俸九十五圓以下)ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十八條 退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セララルル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第十九條 前二條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス

第十五條 休職者ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ公立學校職員分限令第八條第一項第四號又ハ第六號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得

第十六條 師範學校ヲ卒業シタル師範學校訓導及國民學校訓導ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ服役中俸給ヨリ其ノ三分ノ二ニ相當スル額及陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ受クル俸給ノ額ノ合算額ヲ減ス

一 現役兵ニシテ在營中ノ者(兵タル下士官候補者、憲兵上等兵、憲兵教習兵、軍樂上等兵及現役下士官又ハ憲兵上等兵ヲランコトヲ志願シ現役ノ期間ヲ延長セラレタル者及海軍志願兵ヲ除ク)

二 現役下士官ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)ヨリ任セラレタル者(志願ニ依リ陸軍現役下士官ニ任セラレタル者及歸休期間中ニ在ル者ヲ除ク)

三 修業期間中ニ在ル幹部候補生ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)、ヨリ採用セラレタル者

四 修業期間中ニ在ル操縦候補生ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)未ダ現役兵ニ非サルモ徴兵終決處分ニ依リ現役編入ノ處分アリタル者又ハ未ダ徴兵終決處分ヲ經サル者ヨリ採用セラレタル者

五 陸軍補充令第八十三條第一項ノ下士官候補者ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)未ダ現役兵ニ非サルモ徴兵終決處分ニ依リ現役編入ノ處分アリタル者又未ダ徴兵終決處分ヲ經サル者ヨリ採用セラレタル者

ル者

第十七條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 高等官官等俸給令第二十三條乃至第二十九條ノ規定ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員(國民學校職員ヲ除ク)ニ關シ判任官俸給令第十三條及第十四條ノ規定ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル國民學校職員及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ適用ス

第十九條 俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第二十條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ケ

第二十二條 現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト爲ス

附 則 (大正六年一月第八號)

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

公立學校職員制附則第三項ノ規定ニ依リ任セラレタル者本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル級俸俸給額ヲ受クルモノトス

附 則 (大正八年三月第二七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ師範學校又ハ實業學校ノ訓導ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ナキトキハ從前ノ俸給ヲ受クルモノトス

本令施行ノ際現ニ師範學校又ハ實業學校ノ訓導ニシテ公立學校職員俸給令第六條ノ加俸ヲ受クル者ニ付テハ現ニ受クル俸給ト加俸トノ合算額ヲ以テ前項ノ俸給額ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

附一 則 (大正九年八月第三二六號)

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸及臨時手當ノ合計額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

大正九年七月三十一日現在ニ於テ休職中ノ者ニ付テハ其ノ在職最終ノ本俸ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

從前ノ規定ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依リ一級俸ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ本令ニ依ル一級俸ノ金額ヲ控除シタルモノヲ受ケ但シ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ此ノ限ニ在ラス

從前ノ規定ニ依ル加俸ヲ受ケタル者ハ其ノ本俸トシテ本令ニ依ル一級俸ヲ受ケ其ノ加俸トシテ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ本令ニ依ル一級俸ノ金額ヲ控除シタルモノヲ受ケ但シ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ此ノ限ニ在ラス

從前ノ俸給(月額)	改正俸給(月額)
百六十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百八十圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百六十圓	百四十八圓
百六十圓未満ニシテ百四十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百四十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百三十一圓ヲ加ヘタル額但シ百四十八圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百四十圓	百三十一圓
百四十圓未満ニシテ百三十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百三十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百二十二圓ヲ加ヘタル額但シ百三十一圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百三十圓	百二十二圓
百三十圓未満ニシテ百二十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百二十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百十四圓ヲ加ヘタル額但シ百二十二圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百二十圓	百十四圓
百二十圓未満ニシテ百十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百五圓ヲ加ヘタル額但シ百十四圓ヲ超ユルコトヲ得ス
百十圓	百五圓
百十圓未満ニシテ百圓以下ニシテ九十七圓ヲ超ユルモノ	九十七圓

前項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未満ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ月額九十圓以下ノ俸給ヲ受クル判任

本令ニ依ル一級俸以下ナルトキハ本俸トシテ其ノ金額ニ相當スル級俸ヲ受ケ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ケ
第二項但書及前項但書ノ規定ニ該當スル者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ハ最近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノトス
第二項、第三項及第五項ノ規定ニ依ル金額圓位未満ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附一 則 (大正十年二月第一六號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ公立實業補習學校ノ訓導タル者ニシテ辭令書ヲ用キス當該學校ノ助教諭ニ任セラレタルモノハ從前ノ俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ從前ノ俸給額ヲ受クルモノトス

附二 則 (大正十年七月第三一九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ、相當級俸ナキトキハ現ニ受クル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

附三 則 (昭和六年五月第一一五號)

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル高等官待遇ノ職員ニ付テハ昭和六年勅令第九十九號附則第三項乃至第七項ノ規定ヲ準用ス
本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ左表上欄ノ俸給ヲ受クル判任官待遇ノ職員ハ各其ノ相當下欄ノ俸給月額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受ケ

官待遇ノ職員ハ定額ノ改正ニ拘ラス從前ノ俸給ヲ受ケ
從前ノ規定ニ依ル俸給ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ各級ニ於ケル在職年數ト看做ス
從前ノ規定ニ依ル俸給ヲ受クル職員ハ第二項乃至第五項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クルトキハ之ヲ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受クルモノト看做ス
前項ノ規定ハ級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クル職員ノ級俸ニ之ヲ準用ス
本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル判任官待遇ノ職員ハ本令ニ依リ其ノ俸給額ニ變更アルモ從前ノ待遇等級ヲ降ルコトナキモノトス

附四 則 (昭和六年勅令第九十九號)

本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年勅令第十二號附則第二項中「七百圓」ヲ「六百圓」ニ改ム
本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年額千二百圓以上ノ俸給ヲ受クル者ハ本令ニ依リ之ニ該當スル俸給(級俸ノ區分アルモノニ付テハ該當額位ノ級俸)ヲ受ケ年額千百圓又ハ千圓ノ俸給ヲ受クル者ハ定額ノ改正ニ拘ラス從前ノ俸給ヲ受ケ
本令施行ノ際現ニ本令ニ定ムル定額ニ對當セサル俸給ヲ受クル者ハ其ノ俸給年額千二百圓ヲ超ユルモノニ在リテハ從前ノ之ニ直近スル下位ノ俸給額ノ例ニ依リ減額シタル俸給ヲ受ケ俸給年額千三百圓ヲ超ユルモノニ在リテハ年額千三百圓ノ俸給ヲ受ケ
本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸又ハ第十七條第八項ノ増加

翻刻發行許可満期ニ至ルモ文部大臣ニ於テ必要ト認メタルトキハ二箇年度以内業務ノ繼續ヲ命スルコトアルヘシ

第三條ノ二 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可以外ノ業務ヲ行フコトヲ得ス但シ特ニ文部大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限りニアラス

第四條 各翻刻發行者ノ毎年發行スヘキ圖書ノ種類及冊數ハ文部大臣之ヲ指定ス但シ指定以前ニ於テ製造ニ着手セントスルトキハ其ノ種類及冊數ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ

第五條 翻刻發行者ニ於テ毎年發行スヘキ圖書ノ冊數ヲ變更セントスルトキハ事情ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ

第六條 翻刻發行者其ノ工場、倉庫及事務所ノ設置又ハ變更ヲ爲サントスルトキハ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ

第七條 翻刻發行者ハ耐震耐火ノ倉庫ヲ設ケ圖書ノ原板其ノ他重要ナル物品ヲ格納スヘシ

第八條 翻刻發行者ハ道府縣内ニ少クトモ一箇ノ支店又ハ特約販賣所ヲ設ケ其ノ下ニ若干ノ取次販賣所ヲ置キ各其ノ供給區域ヲ劃定シ圖書供給ノ普及ヲ圖ルヘシ

第九條 翻刻發行者ハ前條ノ手數料納付済ニ係ル冊數ヲ超エテ販賣スルコトヲ得ス

第十條 圖書ノ製造運延シ供給ニ支障アリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ製造ヲ一時他ニ委託セシメ又ハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 翻刻發行者ハ前條ノ使用期二十日前マテニ各地販賣所ニ到達スル様發送スヘシ

第十二條 翻刻發行者ハ前條ノ使用期二十日前マテニ各地販賣所ニ到達スル様發送スヘシ

第九條 文部大臣ニ於テ特約販賣所又ハ取次販賣所ヲ不適當ト認メタルトキハ翻刻發行者ニ對シ之カ廢止又ハ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 圖書ノ前項ノ檢定ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

第十一條 圖書ノ定價及用紙ノ標準ハ別ニ之ヲ告示ス

第十二條 翻刻發行者ハ各圖書ノ見本三部ヲ文部省ニ提出シ檢定ヲ受ケルコトヲ要ス

第十三條 圖書ノ文字大小、冊數、卷數、枚數、頁數、行數及每行數ノ字數其ノ他圖書ノ種類ニ依リ特ニ定ムル事項ハ文部省ノ見本同一ナルコトヲ要ス

第十四條 文部省ニ於テ圖書ノ見本ノ修正ヲ加ヘタルトキハ特ニ定ムル期限後ハ從前ノ見本ニ依リテ翻刻シタル圖書ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十五條 圖書ノ用紙、印刷及製本ハ第十二條第一項ノ檢定ヲ經タル見本ト同一ナルコトヲ要ス

第十六條 圖書ニハ各冊尾ニ第十二條第一項ノ檢定年月日及定價ヲ記載スヘシ

第十七條 翻刻發行者ハ翻刻發行許可手數料トシテ發行一冊毎ニ金四圓ヲ納付スヘシ

第十八條 翻刻發行者ハ前條ノ手數料納付済ニ係ル冊數ヲ超エテ販賣スルコトヲ得ス

第十九條 圖書ノ製造運延シ供給ニ支障アリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ製造ヲ一時他ニ委託セシメ又ハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十七條ノ二 翻刻發行者ハ前條ノ手數料納付済ニ係ル冊數ヲ超エテ販賣スルコトヲ得ス

第十八條 圖書ノ定價ヲ超エテ販賣スルコトヲ得ス

第十九條 翻刻發行者ハ文部大臣ヨリ發行冊數ノ指定若ハ承認ヲ受ケタルトキハ速ニ圖書製造ノ功程ニ關スル豫定計畫ヲ提出スヘシ

第二十條 翻刻發行者ハ圖書ヲ其ノ使用期二十日前マテニ各地販賣所ニ到達スル様發送スヘシ

第二十一條 翻刻發行者ハ前條ノ種類冊數ヲ明瞭ナラシメ其ノ保管ニ關シ十分ノ注意ヲ爲シ且時々地方ニ於ケル需要供給ノ狀況ヲ取調ヘ若シ發行冊數ニ不足ヲ生スルノ見込アルトキハ速ニ文部省ニ申出ツヘシ

第二十二條 圖書ノ製造運延シ供給ニ支障アリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ製造ヲ一時他ニ委託セシメ又ハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十三條 圖書ノ翻刻發行及保管ニ要スル工場、倉庫其ノ他ノ設備不備ナルトキハ改良等必要ナル處分ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 圖書ノ供給ニ關スル施設ニシテ供給上不便ト認メタルトキハ

第二十五條 圖書ノ製造運延シ供給ニ支障アリト認メタルトキハ文部大臣ハ其ノ製造ヲ一時他ニ委託セシメ又ハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十六條 左ノ事項ハ總テ文部大臣ノ承認ヲ受ケルヘシ

一 會社ノ取締役、監査役並代表者ノ選任

二 株式ノ讓渡

三 定款

四 各種積立金ノ使用

五 用紙ノ購入契約

第六條 公債以外ノ有價證券ノ取得

第七條 各會社ハ他會社ノ株式ノ引受又ハ讓受ヲナスコトヲ得ス

第八條 各會社ノ利益配當ハ拂込資本金ニ對シ年八分ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 文部大臣ハ必要ニ應シ吏員ヲ派シテ圖書ノ製造販賣及會計其ノ他業務ノ實況ヲ檢査シ若ハ無償ニテ原料見本ヲ收去シ又ハ帳簿及書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 翻刻發行者ハ圖書ノ製造販賣及會計ニ關スル證書書類ヲ備ヘ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第二十九條 文部大臣ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ規程ノ條項

ニ修正ヲ加フルコトアルヘシ

第三十條 (昭和五年第一) (五八號附錄)

第三十一條 翻刻發行者ハ其ノ發行ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ國債ヲ以テ保證金ヲ納付スヘシ (大正十年第一) (三九號改正)

保證金ハ總額ヲ拾七萬圓トシ各翻刻發行者ノ納付額ハ文部大臣之ヲ指定ス (昭和五年第一) (昭和十六年三月七日) (五八號改正) (第二〇四號改正)

第三十二條 翻刻發行者ニ於テ期限內ニ保證金ノ納付ヲ爲サ、ルトキハ翻刻發行ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十三條 翻刻發行者ニ於テ翻刻發行ノ事業ヲ止メタルトキハ納付ノ保證金ハ請求ノ日ヨリ三箇月以内ニ拂戻ヲ爲スヘシ

第三十四條 翻刻發行者ニ於テ此ノ規程又ハ此ノ規程ニ依リ發スル文部大臣ノ命令ニ違背シタルトキハ違約金ヲ徵收スルコトアルヘシ

違約金ハ保證金額ノ範圍內ニ於テ文部大臣之ヲ定ム

第三十五條 翻刻發行者ニ於テ前條ノ違約金ヲ文部大臣ノ指定シタル期限內ニ納付セサルトキハ保證金ヲ以テ擔保ニ充ツヘシ

第三十六條 無記名國債證券ヲ保證金トシテ納付セントスルトキハ之ヲ寄託シ其ノ保管證書ヲ文部大臣官房會計課長ニ提出スヘシ

登錄簿通知書ヲ文部大臣官房會計課長ニ提出スヘシ乙種登錄簿通知書ニ出スヘシ (大正十年第一) (三九號附錄)

第三十七條 (大正十年第一) (三九號附錄)

附則

昭和十一年度所製分圖書翻刻發行ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則

昭和十五年度小學校用分圖書翻刻發行ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

少年教護法(改正)

(昭和八年五月五日) 法律 第五十五號

沿革 昭和一六年三月第二號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル少年教護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

少年教護法

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十四歳ニ滿タサル者ニシテ不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲ス虞アル者ヲ謂フ

第二條 北海道及府縣ハ少年教護院ヲ設置スヘシ

前項少年教護院ノ數及收容定員ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

國ハ必要ノ場所ニ少年教護院ヲ設置ス國立教護院ニハ教護事務ニ從事スル職員養成所ヲ附設スルコトヲ得

第三條 少年教護院ニ於ケル教護ノ本旨、教科設備及職員ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 少年教護院ニ少年鑑別機關ヲ設クルコトヲ得

第五條 道府縣ノ設置スル少年教護院及少年鑑別機關ハ地方長官、國立少年教護院ハ內務大臣之ヲ管理ス

第六條 道府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ少年教護ノ爲少年教護委員ヲ置クヘシ

第七條 國道府縣ニ非サル者本法ニ依ル教護ノ目的トスル少年教護院ヲ設置セントスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ之ヲ少年教護院ニ入院セシムヘシ

一 少年ニシテ親權又ハ後見ヲ行フモノナキ者

二 少年ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ノ出願アリタル者

三 少年審判所ヨリ送致セラレタル者

四 裁判所ノ許可ヲ得テ懲戒場ニ入ルヘキ者

地方長官ハ前項第一號及第二號ニ該當スル者ニ對シ前項ノ處分ヲ爲スノ外之ヲ少年教護委員ノ觀察ニ付スルコトヲ得

第九條 內務大臣ハ前條第一項第一號又ハ第二號ニ掲クル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ國立教護院ニ入院セシムルコトヲ得

一 性狀特ニ不良ニシテ地方長官ヨリ入院ノ申請アリタル者

二 前條ニ該當セスト雖特ニ入院ノ必要アリト認メタル者

第十條 地方長官ハ第八條第一項第一號又ハ第二號ニ該當スル在院者ヲ何時ニテモ條件ヲ指定シテ假ニ退院セシムルコトヲ得

前項ノ假退院者ハ之ヲ家庭其ノ他適當ナル施設ニ委託シ又ハ少年教護委員ノ觀察ニ付スルコトヲ得

假退院者ハ之ヲ在院者ト看做ス

假退院者ニシテ指定ノ條件ニ違背シタルトキハ地方長官ハ之ヲ復院セシムルコトヲ得

第十一條 少年ノ在院期間及觀察期間ハ少年ノ滿二十歳ニ至ル迄トス但

シ第八條第三號又ハ第四號ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 內務大臣又ハ地方長官ハ在院者ニ對シ教護ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ之ヲ退院セシムルコトヲ得

第十三條 學校長、市町村長、少年教護委員又ハ警察署長第八條第一項第一號ニ該當スル者アリト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ具申スヘシ

第十四條 地方長官、警察署長又ハ市町村長必要アリト認ムルトキハ第八條第一項第一號ニ該當スル者ノ處分決定ニ至ル迄一時保護ノ爲適當ナル施設若ハ家庭ニ委託スルコトヲ得仍警察署長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ五日ヲ超エサル期間假ニ留置ヲ爲スコトヲ得

第十五條 少年教護院長ハ在院者ニ對シ親權ヲ行フ但シ親權者又ハ後見人アル者ノ財産管理ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 內務大臣又ハ地方長官ハ本人又ハ扶養義務者ヨリ在院委託及一時保護ニ要シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ハ必要ニ應ジ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十七條 費用ヲ指定ノ期間內ニ納付セサル者アルトキハ國稅徵收法ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得

第十八條 第八條乃至第十條ノ處分ヲ受ケタル者ノ親族又ハ後見人ハ入院後六箇月ヲ經過シタル場合其ノ處分ノ解除又ハ變更ヲ內務大臣又ハ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第十九條 第八條第九條第十條又ハ第十六條第一項及第三項ノ處分ニ不服アル者及前條ノ出願ヲ許可セラレサル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 道府縣ノ設置スル少年教護院及少年鑑別機關、少年教護委員

一時保護及地方長官ノ爲シタル委託ニ關スル費用ハ道府縣ノ負擔トス
市町村長第十四條ノ一時保護ヲ爲シタルトキハ其ノ費用ハ市町村費ヲ
以テ一時之ヲ立替フヘシ

第二十條 國庫ハ前條第一項ノ規定ニ依ル道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定
ムル所ニ依リ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス
第七條ノ規定ニ依リ認可セラレタル少年教護院ノ支出ニ付亦前項ヲ
用ス

第二十一條 第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル少年教護院ノ用ニ供ス
ル土地建物ニ對シテハ地方稅ヲ課セス但シ有料ニテ之ヲ使用セシメタ
ル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 內務大臣及地方長官ハ第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル
少年教護院ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ
得

第二十三條 第七條ノ規定ニ依リ認可セラレタル少年教護院本法若ハ本
法ニ基キ發スル命令又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ認
可ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 少年教護院長ハ在院中所定ノ教科ヲ履修シ性行改善シタル
者ニ對シテハ其ノ退院後ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ國民學校ノ課程
ヲ修了シタル者ト認定スルコトヲ得但シ少年教護院ノ教科ハ國民學校
令ニ遵據シ文部大臣ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ認定ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ關シテハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ國民學校ノ課程ヲ修了シタル者ト看做ス (昭和十六年三月
第二十五條 本法中町村又ハ町村費トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在

リテハ之ニ準スヘキモノトス
第二十六條 少年ノ教護處分ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ
出版物ニ掲載スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人發行人、其ノ
他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下
ノ罰金ニ處ス

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム感化院ハ之ヲ廢止ス
少年法ニ依ル保護處分ノ實施セラレサル地區ニ限リ第一條ノ年齡ハ之
ヲ十八歳未満トス

本法施行ノ際現ニ存スル國立感化院及道府縣立感化院ハ之ヲ本法ニ依
リ設置シタル少年教護院ト看做シ其ノ在院者ハ之ヲ本法ニ依リ入院セ
シメラレタルモノト看做ス
本令施行ノ際現ニ存スル代用感化院ハ之ヲ第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ
受ケタル少年教護院ト看做シ其ノ在院者ニシテ感化院法第五條ノ規定
ニ依リ入院セシメラレタルモノハ之ヲ本法ニ依リ入院セシメラレタル
モノト看做ス
本法施行ノ際道府縣立感化院ノ設置ナキ道府縣ハ本法施行ノ日ヨリ五
年以内ニ少年教護院ヲ設置スルコトヲ要ス

(昭和十六年三月十五日) 學務部長
兵學第三四二號一)

各師範學校校長
各中等學校校長
各小學校校長

●國民學校職員ヲ對象トスル教育關係 雜誌等ニ關スル件

從來初等普通教育ニ關シ小學校教員ヲ對象トスル多種多樣ノ教育雜誌刊
行セラレ居リシモ最近ニ至リ國民學校制度ノ實施ヲ見越シテ新ニ刊行ヲ
見タルモノモ有之其ノ内容ヲ檢討スルニ國民教育ニ關シ種々ノ意見ヲ發
表スルモノ多ク爲ニ教職員ヲシテ其ノ編ヲ所ヲ迷ハシメ更ニ適從スル所
ヲ誤ラシムルノ虞ナシトセザルノ實情ニ在リ之ニ鑑ミ文部省ニ於テハ關
係當局トモ聯絡ヲ取り之等教育關係雜誌ヲ刊行セシムルコトトシ其ノ内
容ハ責任アル記事ヲ登載セシメ國民學校教育ノ歸趨ヲ明ニシテ以テ國民
教育ノ健全ナル發達ニ資スルコトト相成リタル由普通學務局長ヨリ通牒
有之候條左記各項御了承ノ上御協力相成度此段依命及通牒候也

記

- 一、國民學校教育ニ關シ文部省又ハ本縣ノ刊行ニ係ルモノ及文部省又ハ本縣ニ於テ選定シタル著者ノ起稿ニ係ルモノノ普及徹底ヲ計ルコト
- 二、國民學校職員ヲ直接ノ對象トスル教育雜誌ハ總テ之ヲ文部省ニ於テ統台シ文部省ノ直接指導監督ノ下ニ於テ之ヲ刊行セシムルコト
- 三、其ノ他一般雜誌學術專門雜誌及各種機關雜誌等ニ於テハ國民學校教育ノ内容ニ關スル部分ハ一切之ヲ取扱ハシメザルコト

- 四、國民學校職員ハ不必要ナル教育雜誌ヲ購入セザルコト
- 五、「國民教育圖書株式會社」發行ニ係ル綜合雜誌「日本教育」學年別雜「國民教育」ハ第一項ニ準ズルモノトシテ取扱フコト
- 六、今回文部省主管ノ下ニ「財團法人國民教育研究所」設立セラレタルガ其ノ設立要旨ハ附記ノ通

附 記 財團法人國民教育研究所設立の要旨

國民學校制度、茲に實施せられて、從來の小學校制度及び教育内容に全面的刷新改正が加へられ、我が國初等教育史上正に一大轉期を劃するに至つた。この時期に直面して國民學校教員たるもの確呼たる指導理念の把握に混迷する亦止むを得ないところである。
明治五年學制頒布せられて六凡七十年、以來時勢の變遷に伴ひ幾多の改變が加へられ來つたとは言ひながら、今回の改正程大いなるはなく、尊嚴なる國體に基き、國家の進運に伴ひ、未だ世界に類例を見ざる我が國独自の教育體系を樹て、以て眞の日本精神に徹した教育の實現が企圖せられたのであつて、茲に次代の大國民育成の重責を擔ふ、從來の小學校教員たるもの自己の實力に不安を抱く亦止むを得ないところである。
この混迷と不安に乗じて、多數の教育雜誌は競ふて新制度及教則に對する論說或は解釋等の記事を掲載し、舊に國民學校教育の眞の精神の徹底を保し難き實情なるに鑑み、之等教育雜誌を統合して、國民學校教育の方向と歸趨を明にし、以て國民學校教員の全一的指導を企圖して昭和十五年末創立されたものが國民教育圖書株式會社であり、夫れに指導精神を與へんとして本國民教育研究所の設立を見るに至つたのである。

本研究は、事業の一部として右會社の發行する教育雜誌の編輯を指導監督するのであるが、もとより右會社に依存するものでもなく、この關係に於てのみ本研究の存在意義を有するものでないことは無論である。要之本研究所設立の趣旨はこの教育改革に處して國民學校教員たるもの其の責任の完遂に遺憾なからしむる機全的實力の充實を期するにあるのであつて、あらゆる機會、方法に於て、全國國民學校教員の意見を徹し、中央・地方の緊密なる意志の疏通を圖り、新時代に即應して常に國民養成の師表たり得る教員の資質の向上に努めんとするものである。これが爲には本研究所事業遂行の大綱を企劃せんが爲、學識経験ある教育關係者に理事、監事を委嘱し、且道府縣教育關係者に評議員を委嘱しまた、全國に互り國民學校教員中より地方委員を委嘱し、かくて國內初等教育分野全面に於ける、臣道實踐の新體制確立に寄與せんことを希望して居るのである。

(昭和十六年三月二十四日) 事務部長
兵學第六六九號) 總務部長

各市町村長
町村學校組合長

●國民學校校名ニ關スル件依命通牒

今般國民學校令(昭和十六年二月二十八日勅令第四百八十八號)並ニ同施行規則(昭和十六年三月十四日文部省令第四號)發布セラレ來ル四月一日ヨリ實施セララルコト相成候ニ付テハ差當リ左記事項御了知ノ上本制度實施ニ關スル諸般ノ措置至急御配慮相成度此段依命通牒也
追テ自餘ノ要緊事項ニ付テハ近日中ニ縣令ヲ以テ公布相成見込ナル

- ニ付爲念申添フ
記
- 1 校名ハナルベク現在ノ校名ニ準ジ兵庫縣何々郡(市)何々國民學校ト改ムルコト
 - (例)
 - 1 兵庫縣武庫郡上甲子園尋常小學校ヲ兵庫縣武庫郡上甲子園國民學校ニ改ム
 - 2 兵庫縣姫路市姫路高等小學校ヲ兵庫縣姫路市姫路國民學校ニ改ム
 - 3 兵庫縣城崎郡口佐津第二尋常高等小學校ヲ兵庫縣城崎郡口佐津第一國民學校ニ改ム
- 注意事項
- 1 「國民學校」ノ名稱ニ「初等」「高等」等ノ名稱ヲ附セザルコト
 - 2 同一市町村内ニ同名ノモノニ二校以上生ズルコト之無キ様務ムルコト
 - 3 「何々市(町村)立」ノ文字ハ之ヲ避クルコト
 - 4 本縣内ニ同一名稱ノモノニ二校以上生ズル場合ハ校名變更方再考慮ヲ求ムルコトアルベシ
- 二、分教場ノ名稱ハ「本校」ニ準ジ適宜措置ノコト
- 三、變更ニ依ル新舊校名ハ來ル四月五日迄ニ知事ニ開申スルコト

●國民學校教員檢定委員會官制

(昭和十六年三月二十五日) 勅令第二百五十三號

朕國民學校教員檢定委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國民學校教員檢定委員會官制
第一條 國民學校教員檢定委員會ハ地方長官ノ監督ニ屬シ國民學校ノ訓練、准訓導及養護訓導ノ檢定ニ關スル事務ヲ管掌ス

委員ニハ道府縣ノ名ヲ冠ス

第二條 委員會ハ會長、常任委員及臨時委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ學務部長タル北海道廳部長又ハ府縣書記官ヲ以テ之ニ充

常任委員ノ定數ハ地方長官之ヲ定ム

第四條 臨時委員ハ試験施行ノ際地方長官之ヲ命ズ

第五條 會長ハ職員ヲ監督シ會務ヲ總理シ檢定ノ成績ヲ地方長官ニ報告ス

第六條 會長事故アルトキハ地方長官ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第七條 臨時委員ハ試験檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 委員會ニ書記ヲ置キ府縣判任官ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

附 則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民學校令施行ニ關スル臨時規程

(昭和十六年三月二十八日) 兵庫縣令第十六號

國民學校令施行ニ關スル臨時規程

第一章 教則及編制

第一條 國民學校令(以下令ト稱ス)施行ノ際現ニ市町村立ノ高等小學

- 校及尋常高等小學校高等科ニ於テ令第四條第六項ニ該當スル科目ヲ設ケ在ル場合ハ國民學校令施行規則(以下規則ト稱ス)第二十五條ノ規程ニ依リ知事ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第二條 國民學校ノ學期ハ左ノ如ク之ヲ定ム
- 1 第一學期 四月一日ヨリ七月三十一日迄
 - 2 第二學期 八月一日ヨリ十二月三十一日迄
 - 3 第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄
- 第三條 規則第四十四條第三號ノ規定ニ依リ課程表ニ依ル授業ヲ行ハザル日ハ左ノ如ク之ヲ定ム
- 1 一 夏季 八月一日ヨリ八月三十一日迄
 - 2 二 冬季 十二月二十六日ヨリ翌年一月五日迄
 - 3 三 學年末 三月二十七日ヨリ三月三十一日迄
 - 4 四 學校所在地神社祭日 二日
 - 5 五 農繁期其ノ他臨時ノ必要ニ依リ知事ノ指定シタル日
- 第四條 令施行ノ際現ニ二十五學級以上ヲ有スル市町村立小學校ハ規則第四十八條第二項ノ規定ニ依リ知事ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第五條 令施行ノ際現ニ存スル市町村立小學校ノ學級編制ハ規則第五十二條ノ規定ニ依リ知事ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第六條 規則第三百三十條ノ規定ニ依ル二部授業認可ニ關スル期間ハ昭和十七年三月三十一日迄トス

第二章 設置廢止及設備

第七條 國民學校及國民學校ニ類スル各種學校ノ設置廢止ニ關スル手續ニ付テハ當分ノ内小學校設置廢止規程中該當條項ノ例ニ依ル

第八條 國民學校及國民學校ニ類スル各種學校ノ設備ニ關スル手續ニ付テハ當分ノ內學校幼稚園設備規程中該當條項ノ例ニ依ル

第三章 職員

第九條 令第五十五條第二項ニ依リ國民學校訓導ニ任セラレタル者ニシテ令施行ノ際現ニ市町村立小學校訓導ノ職ニ在ル者(學校長ヲ除ク)ハ別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ當該國民學校訓導ヲ命セラレタルモノトス

第十條 令施行ノ際現ニ市町村立小學校訓導ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ同俸給ヲ以テ當該國民學校訓導ヲ命セラレタルモノトス

第十一條 令第十九條ノ規程ニ依リ准訓導ノ職務ヲ行フ者ヲ助教ト稱ス
第十二條 令施行ノ際現ニ市町村立小學校代用教員ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ同俸給ヲ以テ當該國民學校助教ヲ命セラレタルモノトス

第十三條 准訓導及助教ノ進退ニ關シテハ當分ノ內市町村立小學校准教員進退ニ關スル規程又ハ市町村立小學校代用教員、幼稚園保母進退ニ關スル規程中該當條項ノ例ニ依ル

第十四條 准訓導及助教ニシテ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハズ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ

第十五條 國民學校職員ノ職務及服務上ノ手續ニ付テハ當分ノ內小學校長及教員職務及服務細則中該當條項ノ例ニ依ル

九、經費及維持ノ方法(最近三箇年ノ豫算及設立者ノ純負擔年額ヲ明示ノコト)

十、其ノ校沿革ノ大要

十一、學級編制圖(様式三ニ依ル)

十二、私立學校ニ在リテハ設立者及學校長ノ履歷書、身元證明書(法人ニ在リテハ審附行爲又ハ定款)

十三、私立學校ニ在リテハ設立者ノ資産目録

十四、附近ノ國民學校ノ位置ヲ示セル其校兒童ノ通學地域圖

前各號ノ外必要ニ依リ課程表、授業細目其ノ他其ノ學校ノ經營狀況ヲ知ルニ足ルベキ書類及帳簿ヲ提出セシムルコトアルベシ

第六章 俸給旅費諸給與並ニ其ノ支給方法

第二十條 准訓導及助教ノ月俸ハ左表ニ依ル

種別	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
准訓導	六五圓	五五圓	五〇圓	四五圓	四〇圓	三五圓	三〇圓	二五圓
及助教								

第二十一條 國民學校職員ノ俸給支給手續ニ關シテハ市町村立小學校教員俸給旅費其ノ他諸給與並ニ其ノ支給方法中該當條項ノ例ニ依ル

第二十二條 他ノ國民學校ノ勤務ヲ兼スル國民學校專科訓導ノ俸給ハ本務ノ學校ニ於テ之ヲ支給ス

第二十三條 准訓導及助教死亡シタルトキハ在職最終ノ俸給月額四箇月分ヲ其ノ遺族ニ支給スベシ

前項ノ遺族及其ノ順位ニ關シテハ判任官俸給令第十三條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第十六條 第十條及第十二條乃至第十五條ノ規定ハ之ヲ國民學校ニ類スル各種學校ノ職員ニ準用ス

第四章 授業料

第十七條 市町村及町村學校組合ガ令施行ノ際現ニ徵收スル授業料額ハ令第三十六條第二項及規則第三百三十三條並ニ第三百三十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依ル認可期間ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 課程ノ認定

第十八條 規則第七十四條第二號ノ規定ニ依リ課程ノ認定ヲ受ケントスルモノハ令第一條ニ掲グル目的ヲ達成シ得ルモノニシテ國民學校初等科及高等科ノ課程ニ相當スル課程ヲ有スルコトヲ要ス

第十九條 前條ニ該當スルモノニシテ規則第七十四條第二號ノ認定ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ申請スベシ

- 一 目的
 - 二 名 稱 (國民學校若ハ小學校ノ文字ヲ使用スルヲ得ズ)
 - 三 位 置
 - 四 學 則
 - 五 教科用圖書調(様式一ニ依ル)
 - 六 職員組織調(様式二ニ依ル)
 - 七 校地、體操場及實習地ノ面積
 - 八 校舍、其ノ他建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面
- (縮尺凡ソ三分ノ一、教室ニ付テハ別ニ使用種類及坪數ヲ記入セル教室配置圖添附ノコト)

第二十四條 國民學校職員ノ旅費及臨時手當ニ關シテハ當分ノ內市町村立小學校教員俸給旅費其ノ他給與並ニ其ノ支給方法中該當條項ノ例ニ依ル

第二十五條 前後二學級ニ對シ二部授業ヲ行フ教員ニハ手當ヲ給スベシ

第二十六條 國民學校職員ニ對スル宿直料、住宅料、慰勞金ノ支給ニ付テハ當分ノ內小學校令施行規則中該當條項ノ例ニ依ル

第二十七條 國民學校ニ類スル各種學校職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與並ニ其ノ支給方法ニ付テハ當分ノ內小學校ニ類スル各種學校職員俸給旅費其ノ他諸給與並ニ其ノ支給方法中該當條項ノ例ニ依ル

附 則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式一

教科用圖書調(昭和十五、十六年度分各二通宛)			
教科用圖書名	著 者	發行所名	定 價
			文部大臣同上檢定
			檢定ノ有無年月日
			使用年月

様式二

職員組織調(昭和十五、十六年度分各二通宛)	
氏名及教員免許最終出身擔任學年每週教學專任兼現任在採用	生年月月狀ノ種類學校名及擔任科目授時數任ノ別俸給ノ額年月日

合計專任名	(内)訓導名	專科訓導名	無資格名
兼任者ニ付テハ本務ノ職名記入ノコト			

様式三

學級編制(昭和十五、十六年度分各二通宛)

科	學年	學級	性別	單式	複式	別授時數	週擔任	氏名	教員氏名	備考
學級數										
教員數										
備考										

●高等師範學校規程

(明治二十七年四月六日 文部省令第十一號)

第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分テ文科理科トス (大正四年 第四號改正)

前項學科ノ外東京高等師範學校ニ體育科及藝能科、廣島高等師範學校ニ教育科ヲ置クコトヲ得 (大正十年 昭和十六年三月二十九日 第一〇號改正) (第一一五號改正)

第二條 文科ノ學科目ハ修身、教育學、心理學、論理學、國語、漢文、英語、地理、歴史、法制經濟、哲學、言語學、數學、體操トス (大正四年 第四號改正)

理科ノ學科目ハ修身、教育學、心理學、論理學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、農學、地理、天文氣象、圖畫、手工、國語、英語、體操トス (大正四年 第四號改正)

文科及理科ハ生徒ノ生トシテ學習スル學科目ニ依リ各數部トナスコトヲ得 (大正四年 第四號改正)

學校長ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前各項ノ學科目ヲ加除スルコトヲ得 (大正四年 第四號改正)

第三條 文科及理科ノ修業年限ハ四箇年トス (大正四年 第四號改正)

第四條 高等師範學校ノ學科ハ師範學校ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第五條 高等師範學校ニ研究科ヲ置クコトヲ得 (大正四年 第四號改正)

第六條 體育科、藝能科、教育科及研究科ノ修業年限學科目等ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム (大正四年 昭和十六年三月二十九日 第一一五號改正) (第一一五號改正)

第七條 上級生徒ハ附屬學校ニ於テ實地授業ニ從事セシム (大正四年 第四號改正)

第八條 生徒在學中懲戒ニ依リ退學ヲ命セラレタル者及自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費及授業費ヲ償還スヘシ (明治四十二年 第二六號改正)

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又ハ品行修マラザルガ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ (大正四年 第四號改正) (第二項刪除)

第十條 研究科ニ入學スヘキ者ハ高等師範學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニ就キ學校長之ヲ選拔ス (大正四年 第四號改正)

第十一條 高等師範學校ニ專攻科ヲ置クコトヲ得 (大正四年 第四號改正)

專攻科ノ修業年限、課部及其ノ科目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム (明治四十四年 第一九號改正)

第十二條 師範學校中學校高等女學校ノ教員ノ關テ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得 (明治四十四年 第一九號改正)

第十三條 師範學校中學校高等女學校ノ教員タルノ志望ヲ有スル者ニシ

テ本科又ハ專修科中ノ一科目若ハ數科目ヲ選ビテ學修セントスル者ハ
撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得
(明治三十三年第一號同)
(四十四年第一九號改正)

第十四條 撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

第十五條 明治十九年文部省令第十七號中男子師範學校ニ關スル規定ハ
之ヲ廢ス
(明治三十四年第七號同)
(四十四年第一九號改正)

附 則

明治十三年文部省令第一號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行ス
但其際第三學年以上ノ生徒ハ從前ノ規定ニ依ル

明治三十六年文部省令第一號ヲ以テ改正ノ條項ハ同上四月一日ヨリ施行ス
但其際現ニ在學スル生徒ニ就キテハ學校長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ
從前ノ規定ヲ斟酌シ特別ノ學科課程ヲ定ムルコトヲ得

明治四十三年十月文部省令第二十四號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日
ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年四月文部省令第十九號ヲ以テ改正ノ條項ハ公布ノ日ヨリ施
行ス

大正四年二月文部省令第四號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行
ス

大正十年二月文部省令第十號ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●師範學校規程

(明治四十年四月十七日)
文部省令第十二號

沿革 明治四十二年二月第六號 九月第二二號 四三年七月第二〇號
四四年一月第二號 四五年六月第一五號 大正二年二月第二
號 七月第二二號 九月第二六號 四年三月第五號 一〇月
第一五號 一〇年八月第三七號 一三年一〇月第二五號 一
四年四月第八號 一五年四月第一九號 昭和二年一月第一
九號 六年一月第一號 一一年六月第八號 一六年三月第一
六號改正

師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

師 範 學 校 規 程

目 次

- 第一章 生徒教養ノ要旨
- 第二章 本科及專攻科
 - 第一節 學科及其ノ程度
 - 第二節 教授日數及式日
 - 第三節 編 制
 - 第四節 教科用圖書
 - 第五節 入學、退學及懲戒
 - 第六節 學 費
 - 第七節 卒業後ノ服務

- 第三章 講習科
- 第四章 附屬國民學校及附屬幼稚園
- 第五章 設 備
- 第六章 設置及廢止
- 第七章 補 則
- 第八章 附 則

師 範 學 校 規 程

第一章 生徒教養ノ要旨

第一條 師範學校ニ於テハ師範教育令ノ旨趣ニ基キ特ニ左ノ事項ニ注意

シテ其ノ生徒ヲ教養スヘシ

一、忠君愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ
生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ明ニシ國民タルノ志操ヲ振起セシメン
コトヲ要ス

二、精神ヲ鍛練シ德操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要ト
ス故ニ生徒ヲシテ平素意ヲ此ニ用ヒシメンコトヲ要ス

三、規律ヲ守リ秩序ヲ保テ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ
在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ
起居言動ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

四、身體ノ強健ヲ圖ルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒
ヲシテ平素體育及衛生ニ留意シ以テ健康ヲ増進セシメンコトヲ要ス

五、教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ國民學校令及國民學校令施行
規則ノ旨趣ニ副ハンコトヲ旨トスヘシ

六、教授ハ常ニ其ノ方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受クル際教授ノ方法
ヲ會得セシメンコトヲ務ムヘシ

七、學習ノ方法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生徒
ヲシテ常ニ自ラ學識ヲ進メ技能ヲ研クノ習慣ヲ養ハシメンコトヲ務
ムヘシ
(大正四年三月) (昭和十六年三月二十九日)
(第五號追加) (第一六號改正)

第二章 本科及專攻科

第一節 學科及其ノ程度

第二條 本科ハ之ヲ第一部及第二部トス但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ

一ヲ置カサルコトヲ得

第三條 專攻科ハ本科ノ學科目又ハ之ニ關聯スル學科目ニ付精深ナル程
度ニ於テ學修ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス
(昭和六年一月)
(第一號改正)
(大正十四年四月)
(第八號改正)

第四條 本科第一部ノ修業年限ハ五年トス
本科第二部ノ修業年限ハ二年トス
專攻科ノ修業年限ハ一年トス
(大正十四年四月)
(第八號改正) (昭和六年一月)
(第一號改正)

第五條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、
國語漢文、歴史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂
體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外第四學年以上ニ在リテハ國語漢文、
歴史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂ノ中ニ就キ
其ノ數科目ヲ増設選修セシム
(昭和六年一月)
(第一號改正)

第六條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、
國語漢文、歴史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、圖畫、手工

音樂、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外第四學年以上ニ在リテハ國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

第七條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、國語漢文、歷史、地理、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外國語、漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム實業學校(國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校及之ト同等以上ノ實業學校但シ實業補習學校ヲ除ク)ヲ卒業シタル生徒ニハ當該學校ニ於テ選修シタル實業ヲ課セサルコトヲ得

第八條 本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、公民科、教育、國語漢文、歷史、地理、數學、理科、家事、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外國語、漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

第九條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ニ基キ道徳上ノ思想及情操ヲ養成シ鞏固ナル意志ヲ鍛練シ殊ニ我が國體ニ關スル信念ヲ養ヒ教育者タルノ人格ヲ陶冶シ實踐躬行ニ導キ且國民學校ニ於ケル國民科修身教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

修身ハ道徳ノ要領ヲ授ケ就中我カ國民道徳ノ由來ト特質トヲ悟ラシメ建國ノ體制及國體ノ本義ヲ明ニシ國家、社會及家ニ對スル義務並ニ人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ更ニ倫理學ノ概要ト社會生活ノ理論ノ一斑トヲ理解セシムルト共ニ時代思想ニ對スル正シキ批判力ヲ養ヒ道徳的信念ヲ確立セシムルニ力メ且作法及教授法ヲ授ケヘシ

第十條 公民科ハ國民ノ政治生活、經濟生活並ニ社會生活ヲ完ウスルニ足ルヘキ知識ヲ涵養シ殊ニ憲法ノ精神ト共存共榮ノ本義トヲ會得セシムル公共ノ爲ニ奉仕シ協同シテ事ニ當ルノ氣風ヲ養ヒ以テ善良ナル立憲自治ノ民タルノ素地ヲ育成シ且國民學校ニ於ケル公民教育ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十一條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ國民學校教育ノ理論及方法ヲ詳ニシ教育者タルノ精神ヲ養ヒ教育ヲ樂シムノ念ヲ培養スルヲ以テ要旨トス

第十二條 國語漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ發表シ文字ヲ端正ニ書寫スルノ能ヲ得シメ國民性ヲ涵養シ文學上ノ趣味ヲ養ヒ知能ノ開發ニ資シ且國民學校ニ於ケル國民科國語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十三條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解シ之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ知識ノ増進ニ資シ且國民學校ニ於ケル英語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十四條 數學ハ數量ニ關スル知識ヲ授ケ計算ニ習熟セシメ思考ヲ正確ナラシメ且國民學校ニ於ケル理數科算術教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十五條 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ人生ニ對スル關係及之カ應用ヲ理解セシメ觀察工夫ノ力ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル理數科理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十六條 家事ハ家事ニ關スル知識技能ヲ得シメ勤儉、節約、利用、秩序、清潔等ヲ向フノ念ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル理數科家事教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十七條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ工夫力ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル理數科裁縫教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十八條 圖畫ハ圖畫ニ關スル知識技能ヲ得シメ工夫力ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル理數科圖畫教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十九條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ工夫力ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル理數科音樂教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

國語漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ヨリ上古ノ國文ニ及ホシ又平易ナル漢文ヲ授ケ言語ヲ使用ニ熟練セシメ簡易ニシテ實用ニ適スル國文ヲ作ラシメ國語文法及國文學史ノ大要並ニ習字ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

第十三條 歷史ハ歷史上重要ナル事項ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化發展ノ過程、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理解セシメ特ニ我カ國運進展ノ迹ヲ詳ニシ建國ノ本義ト國體ノ尊嚴無比ナル所以トヲ知ラシメ大義名分ヲ明ニシ國民精神ヲ涵養シ且國民學校ニ於ケル國民科國史教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十四條 地理ハ地球及人類生活ノ狀態ヲ理解セシメ殊ニ兩者ノ關係ヲ明ニシ我カ國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシメ國民タルノ自覺ヲ促スニ資シ且國民學校ニ於ケル國民科地理教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理、外國地理及地理概説トシ日本地理ニ於テハ我カ國ノ自然狀態、政治、經濟、產業、交通等ノ狀態並ニ其ノ關係ヲ明ニシ殊ニ我カ國ノ國勢ヲ詳ニシ外國地理ニ於テハ主トシテ我カ國ト政治、經濟、產業、交通等ニ關シ重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ授ケ地理概説ニ於テハ自然地理及人文地理ノ概要ヲ知ラシメ又地方研究ヲ課

ノ習慣ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル藝術科裁縫教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方及繕ヒ方等ヲ授ケ又材料ノ性質、用具ノ使用法等ヲ知ラシメ且教授法ヲ授ケヘシ

第二十三條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心積ヲ

第二十二條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル工作ヲ爲シノ習慣ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル藝術科工作教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第二十一條 圖畫ハ形象ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ技能ヲ得シメ工夫創作ノ力ヲ陶冶シ美感ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル藝術科圖畫教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第二十條 實業ハ實業ニ關スル知識技能ヲ授ケ實際生活ヲ理解セシメ職業ノ尊重スヘキ所以ヲ知ラシメ勤勉力行ノ氣風ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル實業科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十九條 農業、工業若ハ商業ヲ識シ又ハ之ヲ適宜分合シテ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

第十八條 圖畫ハ形象ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ技能ヲ得シメ工夫創作ノ力ヲ陶冶シ美感ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル藝術科圖畫教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十七條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル工作ヲ爲シノ習慣ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル藝術科工作教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十六條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心積ヲ

第一號表

學科目	基 本 科 目											學 年		
	修 身	公 民 科	教 育	國 語 漢 文	地 理 史	英 語	數 學	理 科	實 業	圖 畫	手 工		音 樂	體 操
第一學年	一			六	四	四	四	四	一	三	二	五	三四	三四
第二學年	一			六	四	四	四	五	一	三	二	五	三四	三四
第三學年	二		二	五	四	四	三	四	二	二	一	四	三四	二一四
第四學年	二		四	四	二	二	三	三	二	二	一	四	二八	二一四
第五學年	二		五	四	二	二	二	二	二	二	一	四	二八	二一四

第二號表

高潔ニシ徳性ノ涵養ニ資シ且國民學校ニ於ケル藝術科音樂教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌、重音唱歌、樂典ノ大要及樂器使用法ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

第二十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ敏捷ナラシメ快活、剛毅、堅忍持久ノ精神及規律ヲ守リ協同ヲ尚フノ習慣ヲ養ヒ且國民學校ニ於ケル體操科體操教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第二十三條 體育ハ體操、遊戲及競技ヲ授ケ且教授法ヲ授ケヘシ

第二十二條 男子生徒ニ就テハ體道及柔道ヲ加ヘ授ケヘシ又弓道、水泳、スキー、スケートヲ加ヘ授ケルコトヲ得

第二十一條 女子生徒ニ就テハ弓道、薙刀、水泳、スキー、スケートヲ加ヘ授ケルコトヲ得

第二十五條 本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ヲ男生徒ニ就キテハ第一號表、女生徒ニ就キテハ第二號表ニ依ルヘシ

學校長ハ必要アルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ每週教授時數ノ合計及各學科目ノ學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ增減セサル範圍内ニ於テ第一號表又ハ第二號表ノ教授時數ヲ變更スルコトヲ得

第二號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

學校長ハ第一號表又ハ第二號表ノ增課科目ヲ適宜組合セ其ノ中ニ就キ生徒ヲシテ增課選修セシムルコトヲ得

教育實習ハ第五學年ニ於テ八週乃至十週專ラ之ヲ課スヘシ

第二號表

學科目	增 課 科 目											合 計	學 年
	歷 史	地 理	英 語	數 學	理 博 物	科 博 物 學	實 業	圖 畫	手 工	音 樂	體 操		
第一學年												三四	三四
第二學年												三四	三四
第三學年												三四	三四
第四學年	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	六	三四	三四
第五學年	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	六	三四	三四

第三號表

學科目	基本科目											學年				
	修身	公民科	教育	國語漢文	歷史	地理	數學	理科	實業	圖畫	手工		音樂			
第一學年	二	一	六	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二六	二四	二四	二四
第二學年	二	一	六	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二六	二四	二四	二四

學科目	基本科目											學年			
	國語漢文	歷史	地理	英語	數學	理科	家事	裁縫	圖畫	手工	音樂		體操		
第一學年	六	四	三	三	四	四	四	四	三	三	二	三	三四	三四	三四
第二學年	五	四	二	三	三	三	三	三	二	二	一	二	三四	二八	二八

第四號表

學科目	基本科目											學年				
	修身	公民科	教育	國語漢文	歷史	地理	英語	數學	理科	實業	圖畫		手工	音樂		
第一學年	二	一	六	三												
第二學年	二	一	六	三												

第二十六條 本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ第三號表、女生徒ニ就キテハ第四號表ニ依ルヘシ
 前條第二項乃至第四項ノ規定ハ本科第一部ニ就キテ之ヲ準用ス
 教育實習ハ第二學年ニ於テ入週乃至十週專ラ之ヲ課スヘシ
 第七條第三項ノ規定ニ依リ實業ヲ課セサル生徒ニ就キテハ其ノ教授時數ハ便宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

(昭和六年一月第一號改正)

合	基本科目										
	博	物理及化學	家事	裁縫	實業	圖畫	手工	音樂	增課科目ニ充ツヘキ總時數	計	合
第一學年										八	三四
第二學年										八	三四

課 增		目 科 本															
科	理	數	英	地	歷	國語漢文	基本科目總時數	體	音	手	圖	裁	家	理	數	地	歷
物理及化學	博	學	語	理	史	文		操	樂	工	畫	縫	事	科	學	理	史
							二八	二	二	二			三	二	三		二
							二八	二	二	二			三	二	三		二

第二十七條 專攻科ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、哲學、教育、國語漢文、實業、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外公民科、心理及論理、國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、實業、圖畫、手工、音樂、體操ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

專攻科ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、哲學、教育、國語漢文、家事、裁縫、體操トス

前項ノ學科目ヲ必修セシムルノ外公民科、心理及論理、國語漢文、歷史、地理、英語、數學、理科、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂、體操ノ中ニ就キ其ノ數科目ヲ增課選修セシム

第二十八條 專攻科ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ第五號表ニ依ル

(昭和六年一月第一號改正)

合 計	目 科					
	音	手	圖	實	裁	家
	樂	工	畫	業	縫	事
六	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四
六	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四	二一四
三六						
三四						

第二十五條第二項及第四項ノ規定ハ專攻科ニ就キ之ヲ準用ス

教育、家事、裁縫、實業、圖畫、手工、音樂等ノ實習及體操ハ第五號表ノ教授時數外ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得

(昭和六年一月第一號改正)

目 科 本 基											學科目	
心理及論理	公民科	基本科目總時數	體操	實業			家事	國語漢文	教育	哲學	修身	男女別
				商	工	農						
		一七	二		三			三	四	三	二	男
		一八	二				四	三	四	三	二	女

目 科 課 增											國語漢文				
體操	音樂	手工	圖畫	實業			家事(女)	理科(物理及化學)	數學	英語	地理	歷史	習字	漢文	國語
				商	工	農									

二科目以上 一〇

二科目以上 一〇

増設科目ニ充ツ	一〇	一〇
ヘキ臨時數	二七	二八
合 計	二七	二八

第二十九條乃至第四十條 削除 (昭和六年一月)

第二節 教授日數及式日

第四十一條 教授日數ハ毎學年二百日以上トス但シ次條ノ場合ハ此ノ限ニアラス (大正十五年四月) (昭和六年一月) (第一九號改正)

第四十二條 傳染病預防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ地方長官ニ於テ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得 (昭和六年一月) (第一九號改正)

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ事由ヲ具シ運浦ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第四十三條 紀元節、天皇節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ (大正二年七月) (昭和二年二月) (第二九號改正) (第一九號改正)

第三節 編 制

第四十四條 學校ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒數ハ凡四十人以下トス

第四十五條 音樂、體操ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

體育、實業ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ前條第二項ノ制限ヲ超エザル場合ニ限リ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得 (大正四年三月) (大正十四年四月) (昭和六年一月) (第五號改正) (第八號改正) (第一號改正)

第四十六條 教員ノ數ハ四學級以下ノ學校ニ於テハ十一人以上トシ四學

級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ

前項ノ教員數ノ外體道及柔道ニ就キ本科ノ學級數十二以下ナルトキハ教員一人、學級數十三以上ナルトキハ教員二人ヲ増スヘシ實業ニ於テ農業、工業、商業ノ中二科目以上置ク場合亦同シ

專攻科ニ在リテハ教員ノ數ハ一學級ニ付二人以上トス

特別ノ事情アル場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内第一項ノ規定ニ依リ員數ヲ減スルコトヲ得 (明治十三年七月) (大正十三年十月) (大正十四年) (昭和六年一月) (第二〇號改正) (第二五號改正) (第八號通知) (第一號改正)

第四節 教科用圖書

第四十七條 師範學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定ヲ課タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ムヘシ 但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科用圖書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得 (昭和十四年一月) (第二號改正)

第五節 入學、退學及廢校

第四十八條 本科及專攻科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、品行方正ニシテ第四十九條乃至第五十一條ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第四十九條 本科第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校高等科ヲ修了シタル者又ハ年齡十四年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ (昭和六年一月) (昭和十六年三月二十九日) (第一號改正) (第一六號改正)

第五十條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就キテハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者、女生徒ニ就キテハ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

許狀若ハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保母ノ職ニ在リタル者ニシテ引續キ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ノ職ニ在ル者

前項各號ノ一ニ該當スル者ニシテ死去シタルトキ並官立公立ノ學校ノ訓導若ハ准訓導又ハ國民學校訓導免許狀若ハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保母ノ職ニ在リタル者ニシテ在職中職務ノ爲死去シタルトキハ其ノ子ニ關シ前項ノ規定ヲ準用ス (大正十四年四月) (昭和十六年三月二十九日) (第八號改正) (第一六號改正)

第五十五條 學校長ハ本科ヲ卒業シタル者ニ本科卒業證書、專攻科ヲ卒業シタル者ニ專攻科卒業證書ヲ授與スヘシ (大正十四年四月) (第八號改正)

第五十六條 學校長ニ於テ學力劣等若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ性質不良ニシテ教員タルニ不適當ト認メタル者ニハ退學ヲ命スヘシ

第五十七條 生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス 但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第六節 學 費

第五十九條 公費生ノ員數、之ニ支給スヘキ學費及其ノ支給方法ハ地方長官之ヲ定ム

私費生ヲ置キタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ員數ヲ文部大臣ニ届出ツヘシ (大正十五年四月) (第一九號改正)

第五十九條ノ二 地方長官ハ第五十四號ニ該當スル者ニシテ入學セル者

タルヘシ (昭和六年一月) (第一號改正)

第五十一條 專攻科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ師範學校ノ本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ (大正十五年四月) (第八號改正)

第五十二條 生徒ニ缺員アルトキハ身體健全、品行方正ニシテ學力及年齡當該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得

第五十三條 入學志願者ノ檢定ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ子ニシテ第四十八條ノ資格ヲ具ヘ入學セムトスルトキハ學校長ハ他ノ志願者ニ先チテ之ヲ許可スルコトヲ得 但シ法定ノ推定家督相続人ニアラサル養子又ハ恩給法第五十八條第一項第二號ニ該當シ現ニ恩給ヲ停止セラルル者ノ子ハ此ノ限ニアラス

一、十五年以上官立公立ノ學校ノ訓導又ハ國民學校訓導免許狀若ハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保母ノ職ニ在リタル者ニシテ恩給法ニ依リ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者

二、官立公立ノ學校ノ訓導若ハ准訓導又ハ國民學校訓導免許狀若ハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保母ノ職ニ在リタル者ニシテ恩給法第四十六條及第四十七條ノ規定ニ依リ普通恩給及增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者

三、十五年以上官立公立ノ學校ノ訓導若ハ准訓導又ハ國民學校訓導免許狀若ハ國民學校初等科訓導免許狀ヲ有スル官立公立ノ學校若ハ幼稚園ノ保母ノ職ニ在ル者

四、十五年以上官立公立ノ學校ノ訓導若ハ准訓導又ハ國民學校訓導免許

ニ對シテハ之ニ支給スヘキ學費ノ額ヲ増加シ又ハ他ノ生徒ニ先テ公費生トナスコトヲ得
第五十四條第一項但書ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
(明治四十二年二月) (大正四年三月) (第六號改正) (第五號改正)

第六十條 懲戒ニ依リ放校ニ處セラレタル者及自己ノ便宜ニ因リ退學シタル者ニ對シテハ地方長官ハ公費生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學費、私費生ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ 但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得
前項授業費ノ金額ハ年額五十圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ

第七節 卒業後ノ服務

第六十一條 卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間其ノ道府縣ニ於テ國民學校職員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ次條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ從事スルコトヲ得
一、公費卒業生ハ其ノ修業年限ノ一倍半ニ相當スル期間但シ八年ヲ超エス
二、私費卒業生ハ其ノ修業年限ノ二分ノ一ニ相當スル期間但シ一年ヲ下ラス
本科卒業生ニシテ引續キ專攻科ニ入り其ノ課程ヲ卒リタル者ニ在リテ前條ノ期間ハ專攻科卒業證書受得ノ日ヨリ起算ス
(大正十四年四月) (昭和十六年三月二十九日) (第八號改正) (第一六號改正)

第六十二條 卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間其ノ道府縣ニ於テ地方長官ノ指定スル國民學校職員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス
ハ地方長官ハ必要ト認ムル期間内ノ義務ヲ負擔シ又ハ免除スルコトヲ得
(大正四年三月) (第五號改正)

第六十七條 服務義務期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ地方長官ハ公費卒業生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學費、私費卒業生ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ 但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得
一、正當ノ事由ナクシテ服務義務ヲ棄ササルトキ
二、懲戒免職ニ處セラレタルトキ
三、國民學校令ノ規定ニ依リ免許狀其ノ效力ヲ失ヒ又ハ免許狀喪失ノ處分ヲ受ケタルトキ
四、前條前段ノ事由ニ因リ服務義務ヲ免除セラレタルトキ
(大正四年三月) (昭和十六年三月二十九日) (第五號改正) (第八號改正)

第六十八條 前條授業費ノ金額ハ年額五十圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ
(大正十四年四月) (第八號改正)

第三章 講習科

第六十九條 國民學校職員講習科ハ國民學校教員免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス
特別ノ必要アルトキハ國民學校初等科ノ訓導若ハ准訓導又ハ國民學校專科訓導ヲラントスル者ニ必要ナル講習ヲ爲ス爲國民學校職員講習科ヲ設クルコトヲ得
(明治四十三年七月) (昭和十六年三月二十九日) (第二〇號改正) (第一六號改正)

前條第二項ノ規定ハ本條ノ義務ニ關シ之ヲ適用ス
(大正十四年四月) (昭和十六年三月二十九日) (第八號改正) (第一六號改正)

第六十二條ノ二 專攻科ニ在學中ノ期間ハ前二條ノ服務義務期間ニ算入セス
(大正十年八月) (大正十四年四月) (第三七號追加) (第八號改正)

第六十三條 第六十一條中ノ公費卒業生トハ學費トシテ在學中ヲ通シ食費及被服費ノ全部又ハ之ニ相當スル額ノ支給ヲ受ケタル者ニ限ル
前項ノ學費中其ノ一部ノ支給ヲ受ケタル公費卒業生ノ服務義務期間ハ地方長官ニ於テ之ヲ定メ文部大臣ニ届出ツヘシ
第五十九條ノ二ノ規定ニ依リ學費ノ額ヲ増加セラレタル者ノ服務義務期間ニ關シテハ學費ノ額ヲ増加セラレサルモノト看做ス
(大正四年三月) (大正十五年四月) (第五號改正) (第一九號改正)

第六十四條 特別ノ事情アルトキハ服務義務期間内ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣、朝鮮、臺灣、樺太若ハ關東州ニ於テ就職シ又ハ本邦兒童ノ爲外國ニ於テ國民學校令ノ旨趣ニ準シテ設立セル學校ノ職員ノ職ニ從事スルコトヲ得
前項ノ在學期間ハ服務義務期間ト看做ス
(大正四年三月) (昭和十六年三月二十九日) (第五號改正) (第一六號改正)

第六十五條 服務義務期間内ニ於テ教員養成ヲ目的トスル官立學校ニ入學セントスル者アルトキハ地方長官ハ之ヲ許可スルコトヲ得
前項ノ學校ニ入學シタル場合ニ於テハ在學中服務期間ノ履行ヲ負擔ス其ノ卒業シタル場合ニ於テ當該學校ニ關スル法令ノ規定ニ依リ卒業後服務義務ヲ有スルトキハ負擔中ノ服務義務ハ之ヲ免除ス
(大正四年三月) (第五號改正)

第六十六條 卒業生ニシテ服務義務ヲ盡クコト能ハサル事由ヲ生シタル者又ハ外國政府ノ招聘ニ應ジ教員ノ職ニ從事セントスル者アルトキ上トス
國民學校初等科訓導ヲラントスル者ノ爲設クル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全ニシテ國民學校初等科准訓導免許狀ヲ有スル者又ハ身體健全、品行方正ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ二年以上トス
國民學校專科訓導ヲラントスル者ノ爲設クル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全ニシテ國民學校初等科准訓導免許狀ヲ有スル者又ハ身體健全、品行方正ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ一年以上トス
(明治四十三年七月) (昭和十六年三月二十九日) (第二〇號改正) (第一六號改正)

第七十一條 幼稚園保母講習科ハ保母ヲラントスル者又ハ保母免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス
(昭和六年一月) (第一號改正)

第四章 附屬國民學校附屬幼稚園

第七十二條 講習期間一箇年以上ノ講習科ヲ置キタルトキハ一學級毎ニ一人以上ノ割合ヲ以テ第四十六條ノ教員定數ヲ増スヘシ
第七十三條 講習科ニ關シ必要ナル規程ハ地方長官之ヲ定ム
第七十四條 師範學校ニハ附屬國民學校ヲ設クヘシ
女生徒ヲ置キタル師範學校ニハ成ルヘク附屬幼稚園ヲ設クヘシ
特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ國民學校ヲ以テ附屬國民學校ニ代用シ又ハ公立若ハ私立ノ幼稚園ヲ以テ附屬幼稚園ニ代用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ニ届出ツヘシ
(大正十五年四月) (昭和十六年三月二十九日) (第一九號改正) (第一六號改正)

五十條、第五十一條、第五十三條、第五十五條第一項乃至第三項及第六項、第五十九條乃至第六十三條ヲ準用ス但シ國民學校令第五條第二項、國民學校令施行規則第二十五條、第二十七條第五項、第二十九條第五十條第二項、第六十一條ニ關シテハ地方長官ニ於テ之ヲ專行スヘシ
(昭和十六年三月二十九日 第一六號 改正)

第七十五條ノ二 附屬幼稚園ニハ幼稚園令第一條、第六條、幼稚園令施行規則第一條乃至第六條、第十八條、第十九條、第二十三條ヲ準用ス但シ幼稚園令施行規則第十八條ニ關シテハ地方長官ニ於テ之ヲ專行スヘシ
(大正十五年四月 第一九號 改正)

第七十六條 附屬國民學校ニ於テハ初等科ノ教科ト高等科ノ教科トヲ併置スヘシ
(昭和十六年三月二十九日 第一六號 改正)

第七十七條 附屬國民學校ニ於テハ初等科ノミヲ置テ單級國民學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級、數學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級及一學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ設クヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ初等科ノミヲ置テ單級國民學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級ヲ設ケサルコトヲ得
(大正十四年三月 第五號 改正) (昭和十六年三月二十九日 第一六號 改正)

第七十八條 附屬國民學校ニ於テハ二部教授ヲ行フヘシ但シ已ムラ得サル事情アルトキハ此ノ限ニアラス
(大正十五年四月 第一九號 改正)

第七十九條 附屬國民學校ノ職員ハ國民學校訓導免許狀ヲ有スル者タルヘシ
附屬幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ヲ掌ル者保母免許狀又ハ國民學校訓導ノ免許狀ヲ有スル者タルヘシ
(大正十五年四月 第一九號 改正)

第八十條 附屬國民學校ノ授業料及附屬幼稚園ノ保育料ニ關スル規程ハ

地方長官之ヲ定ム
(昭和十六年三月二十九日 第一六號 改正)

第五節 設備

第八十一條 師範學校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ
前項ノ外農業ヲ加ヘタル學校ニ於テハ農業實習地ヲ備フヘシ
第八十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ遺蹟上並衛生上害ナキ所タルヘシ

第八十三條 校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナルヘシ
第八十四條 體操場ハ屋內體操場及屋外體操場トス

第八十五條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス
第八十六條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舎監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ
第八十七條 位置ノ變更ニアラサル校地ノ變更ヲナシタルトキ若ハ校舍寄宿舎及屋內體操場ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキハ圖面ヲ添ヘ文部大臣ニ届出ツヘシ
(大正十四年三月 第五號 改正)

第六節 設置及廢止
第八十八條 師範學校ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第八十九條 前條ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具申スヘシ

- 一、名稱
- 二、位置
- 三、學科
- 四、生徒及兒童ノ定員、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ幼兒ノ定員
- 五、學級ノ編制、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ組ノ編制

ニ變更セラレタルモノト看做ス
第九十三條 本令施行ノ際現ニ豫備料及本科ニ在學スル女生徒ノ修業年限ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依ルコトヲ妨ケス
第九十四條 附 除 (大正十四年四月八日第八號)
第九十五條 本令施行ノ際現ニ豫備料及本科ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ヲ斟酌シ又ハ之ニ依ルコトヲ得
第九十六條 本令施行ノ際現ニ簡易科ニ在學スル生徒ニ就キテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル
第九十七條 簡易科卒業者ノ服務義務ニ關シテハ第二章第七節ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ服務期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル
第九十八條 本令施行前師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シテハ授業費償還ニ關スル規定ヲ適用セス
第九十九條 明治二十四年文部省令第二十六號、明治二十五年文部省令第八號、同第十號乃至第十二號、同第十五號、明治二十六年文部省令第十四號、明治三十年文部省令第十九號、同第二十一號明治三十一年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス
附 則 (明治四十四年一月第二號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (明治四十五年六月第一五號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (大正二年二月第二號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (大正四年三月第五號)

六、開校年月

七、經費

前項第一號、第二號、第六號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ、第三號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ニ届出ツヘシ
前二項ノ位置ニ關シテハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ狀況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定量分析表ヲ添附スヘシ

第七節 補則

第九十條 地方長官ハ師範學校ノ學則ヲ定メ通達ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
學則中ニ規定スル事項左ノ如シ

- 一、學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二、學科課程及教授時數ニ關スル事項
- 三、生徒ノ學業成績調査ニ關スル事項
- 四、生徒ノ入學、退學及懲戒ニ關スル事項
- 五、學費及授業費ニ關スル事項
- 六、寄宿舎ニ關スル事項
- 七、生徒ノ取締ニ關スル事項
- 八、講習科ニ關スル事項
- 九、附屬國民學校及附屬幼稚園ニ關スル事項
- 十、其ノ他必要ナル事項

第八章 附則

第九十一條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス
第九十二條 從前ノ規定ニ依ル本科ハ本令施行ノ日ヨリ當然本科第一部
(昭和十六年三月二十九日 第一六號 改正)

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行以前ニ入學シタル者ニ就キテハ仍従前ノ規定ニ依ル 但シ地方長官ニ於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

附 則 (大正四年十月第一五號)

本令ハ大正四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十年八月五日第三七號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (大正十四年四月一日第八號)

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 専攻科ハ當分ノ内之ヲ設ケサルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ在學スル者ノ修業年限、學科目及其ノ毎週教授時數等ニ就キテハ仍従前ノ規定ニ依ル 但シ地方長官ニ於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

附 則 (大正十五年四月二十二日第一九號)

本令施行ノ際現ニ附屬幼稚園ニ於テ幼児ノ保育ヲ掌ル者ニシテ第七十九條第二項ニ該當セサル者ハ大正十五年五月三十一日迄仍従前ノ例ニ依ル

附 則 (昭和六年一月十日第一號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍従前ノ規定ニ依ル 但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 國民學校令第四十八條乃至第五十條、國民學校令施行規則第二百二十七條、第二百二十八條ハ之ヲ附屬國民學校ニ適用ス

工業學校規程

(大正十年一月十二日) 文部省令 第二二號

昭和十六年四月第一號改正

第一條 工業學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ應ジ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムベシ

一 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年 (昭和五年) (昭和十六年四月二十二日) (第五號改正) (第四一號改正)

二 國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年 (昭和十六年四月二十二日) (第四一號改正)

前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セザルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テ適宜定ムルコトヲ得

第二條 工業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ國民學校初等科修了程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルベシ

(昭和十六年四月二十二日) (第四一號改正)

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムベキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘザルモノニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スベシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムベキ課

程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得 (昭和四年) (第四二號改正)

第四條 他ノ工業學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ行ハズシテ之ヲ相當學年ニ編入スルコトヲ得 (昭和四年) (第四二號改正)

他ノ工業學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志望スルモノニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第五條 工業學校ノ毎週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年及實習ヲ課セザル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マデ之ヲ増加スルコトヲ得 (昭和五年) (第五號全條改正)

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラザルコトヲ得 實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ 第六條 工業學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ特別ノ必要アル場合若ハ高學年ニ在リテハ二月以内之ヲ延長スルコトヲ得 (昭和五年) (第五號全條改正)

第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ (昭和五年) (第五號第二項前除)

第八條 工業學校ノ學科ハ工業ノ種類又ハ之ヲ細分シタルモノニ依リ左ノ例ニ準シ適宜之ヲ定ムベシ 機械科、工作機械科、蒸汽工科、船用機關科、內燃機關科、精密機械科、製造用機械科、水力機械科、製圖科、木型科、鑄工科、鍛工科、機械仕上科、兵器科、造船科

電氣科、電氣機械科、電力科、電氣通信科、電氣鐵道科、照明科

土木科、鐵道科、河港科、道路橋樑科、水道科、水力科、測量科

建築科、木工科、石工科、造工科、鉛工科

探礦科、炭礦科、石油科、鑛鑛科、冶金科、製鐵科

應用化學科、分析科、塗料科、製藥科、醸造科、製革科、油脂科、製紙科

電氣化學科、電鍍科、電解科

窯業科、製陶科、陶畫科、珐瑯科、硝子科

染織科、色染科、機織科、紡績科、織物仕上科、製絲科

金屬工藝科、木材工藝科、彫金科、鍛金科、鑄金科、原型科、玩具科

家具科、漆工科、圖案科、彫刻科、印刷科、製版科

女子ニ付テハ色染、機織、紡績、製絲、圖案、分析其ノ他女子ニ適當ナルモノヨリ選擇シテ之ヲ定ムベシ

第九條 二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ或學年ノ課程ハ之ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ或

第十條 工業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、物理及化學、圖畫、體操(武道ヲ含ム)並ニ工業ニ關スル學科自及實習トス但シ修業年限、學科ノ種類ニ依リ外國語、博物、商業、工場要

項其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得 (昭和五年) (昭和十三年三月三十一日) (第五號全條改正) (第十一號改正)

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、地理、歴史、數學、理科、圖畫、家事及裁縫、體操並工業ニ關スル學科目及實習トス但シ音樂其ノ他ノ

(昭和五年) (昭和十三年三月三十一日) (第五號全條改正) (第十一號改正)

學科目ヲ加設スルコトヲ得

工業ニ關スル學科目ハ學科ノ種類、入學資格、修業年限ニ應シ適切ナル事項ヲ選ヒ之ヲ定ムヘシ

學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十條ノ二 前條ノ必須學科目中修身、公民科、工業ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺タコトヲ得

第十條ノ三 工業ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

第十一條 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ亙リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十一條ノ二 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

第十一條ノ三 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業者若ハ之ニ準スヘキ者トス

第十一條ノ四 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條ノ五 第二部ノ學科目ハ修身、工業ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應ジ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

第十二條 工業學校ヲ卒業シ特ニ工業ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ設備ノ許ス限リ之ヲ在學セシムルコトヲ得

第十三條 工業學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲メ選科生ヲ置クコトヲ得

第十四條 工業學校ニ於テハ主トシテ工業ニ關スル事項ヲ授クル爲メ專修科ヲ設ケ又ハ附時講習ヲ爲スコトヲ得

第十四條ノ二 工業學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

第十五條 工業學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ普通學科目並工業ニ關スル學科目及實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十六條 工業學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第十七條 工業學校ニ於テハ教室、實驗室、實習場、圖書、器具、機械標本、模型等ヲ備フルコトヲ要ス但シ實習場ハ便宜他ノ工場ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

附 則 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

徒弟學校規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ存スル徒弟學校ハ女子職業學校ヲ除クノ外本令ニ依リ設置セラレタル工業學校ト看做ス

本令施行ノ際現ニ存スル工業學校及前項ノ學校ニシテ本令ノ規定中之ニ

依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

本令施行ノ際現ニ存スル工業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル工業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附 則 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 本令ハ昭和十六年四月二十二日ヨリ之ヲ適用ス

農業學校規程

（大正十年一月十五日 文部省令 第四號）

沿革 昭和四年一月第四三號、五年四月第六號、一二年三月第一

一號一六年四月第四二號改正

農業學校規程左ノ通改正ス

農業學校規程

第一條 農業學校ノ修業年限ハ學科ノ種類、土地ノ情況等ニ應シ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年

二 國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年

前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セサルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テ適宜定ムルコトヲ得

第二條 農業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ國民學校初等科修了程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサルモノニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得

第四條 他ノ農業學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ

行ハスシテ之ヲ相當學年ニ編入スルコトヲ得 (昭和四年)

他ノ農業學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志望スルモノニ付テハ前項ノ例ニ依ル (昭和四年)

第五條 農業學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年又ハ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得 (昭和五年)

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得 (昭和五年)

第六條 農業學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ高學年ニ在リテハ一月以内之ヲ延長スルコトヲ得 (昭和五年)

第七條 教授日數ハ每學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス (昭和五年)

第八條 農業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、物理及化學、博物、體操(武道ヲ含ム)並ニ農業ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情況等ニ依リ簿記、圖畫、手工、外國語、工業、商業、水産其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得 (昭和五年)

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、理科、家事及裁縫、體操並ニ農業ニ關スル學科目及實習トス但シ簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得 (昭和五年)

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、農業ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得 (昭和五年)

第九條 農業ニ關スル學科目ハ作物、園藝、土壤、肥料、作物病蟲害、畜産、家畜生理、農産製造、養蠶、蠶體生理、蠶病、製絲、農業經濟、造林、森林保護、森林利用、森林數學、森林經理、農林工學、獸醫其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ (昭和五年)

女子ニ付テハ耕種、園藝、畜産、農産製造、養蠶、製絲其ノ他女子ニ適當ナルモノヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ (昭和五年)

第十條 農業ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得 (昭和五年)

第十一條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得 (昭和五年)

第十二條 農業學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ學科ヲ農業科、養蠶科、園藝科、畜産科又ハ林業科等ニ分テ其一ノ學科又ハ數學科ヲ置クコトヲ得 (昭和五年)

二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得 (昭和五年)

第十一條ノ二 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ亘リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス (昭和五年)

第十一條ノ三 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得 (昭和五年)

第十一條ノ四 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校及高等女學校ノ卒業者若ハ之ニ準スヘキ者トス (昭和五年)

第十一條ノ五 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得 (昭和五年)

第十一條ノ六 第二部ノ學科目ハ修身、農業ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應ジ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得 (昭和五年)

第十二條 農業學校ヲ卒業シ特ニ農業ニ關スル事項ヲ研究者ハ補習セムトスル者アルトキハ設備ノ許ス限リ之ヲ在學セシムルコトヲ得 (昭和五年)

第十三條 農業學校ニ於テハ或學科目ヲ選修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得 (昭和五年)

第十四條 農業學校ニ於テハ主トシテ農業ニ關スル事項ヲ授クル爲專修科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得 (昭和五年)

第十四條ノ二 農業學校ニ於テハ當該學校卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ (昭和五年)

第十五條 農業學校ニ於テハ學科目、教授時數及級數ニ應ジ普通學科目並ニ農業ニ關スル學科目及實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス (昭和五年)

第十六條 農業學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所及實習地ヲ設クルコトヲ要ス (昭和五年)

第十七條 農業學校ニ於テハ教室、實驗室及實習ニ必要ナル建物、圖書器具、機械、標本等ヲ備フルコトヲ要ス (昭和五年)

第十八條 特別ノ必要アルトキハ農業及農村ニ關スル事項ヲ授クル爲特別ノ組織ニ依ル學校ヲ設クルコトヲ得 (昭和五年)

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日時及時數、學科目等ハ適 (昭和五年)

宜之ヲ定ムヘシ (昭和五年)

第十九條 前項ノ學校及專修科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得 (昭和五年)

第二十條 獸醫學校ノ修業年限ハ四年トス但シ特別ノ必要アルトキハ一年以内ヲ延長スルコトヲ得 (昭和五年)

第二十一條 獸醫學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年滿十四年以上ニシテ國民學校高等科修了程度ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ (昭和五年)

第二十二條 獸醫學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、物理及化學、博物、體操(武道ヲ含ム)並ニ農業ニ關スル學科目及實習トス但シ外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得 (昭和五年)

獸醫ニ關スル學科目ハ解剖及組織、生理、病理、衛生、藥物及調劑、内科、外科、産科、獸醫警察、蹄鐵、畜産等トス (昭和五年)

學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得 (昭和五年)

第二十三條 第三條乃至第五條、第七條、第十二條乃至第十四條、第十五條乃至第十七條ハ之ヲ獸醫學校ニ適用ス (昭和五年)

附則 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス (昭和五年)

本令施行ノ際現ニ存スル農業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得大正十一年三月三十一日マデニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ (昭和五年)

附則 (昭和五年四月第六號) (昭和五年)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル農業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日迄ニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附 則 (昭和十二年三月三十一日第十一號)

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ存スル農業學校ニシテ本令ニ依リ難キモノハ昭和十三年三月三十一日迄仍従前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和十二年五月三十一日迄ニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附 則 (昭和十六年四月二十二日第四二號)

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●商業學校規程

(大正十年三月十八日 文部省令 第十七號)

昭和十六年四月三號改正

第一條 商業學校ノ修業年限ハ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年

(昭和五年) (昭和十六年四月二十二日 第七號改正) (昭和四三號改正)

二 國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年

(昭和五年) (昭和十六年四月二十二日 第七號改正) (昭和四三號改正)

前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セザルモノ

ヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テハ適宜定ムルコトヲ得

(昭和五年 第七號改正)

第二條 商業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ國民學校初等科修了程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

(昭和十六年四月二十二日 第四三號改正)

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサルモノニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得

(昭和四年 第四四號全條改正)

第四條 他ノ商業學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ行ハスシテ之ヲ相當學年ニ編入スルコトヲ得

(昭和四年 第四四號改正)

他ノ商業學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志望スルモノニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第五條 商業學校ノ毎週教授時數ハ三十時以内トス

(昭和五年 第七號全條改正)

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第六條 教授日數ハ毎學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(昭和五年 第七號第二項前條)

第七條 高學年ニ在リテハ一學年ニ付三月以内商業ニ關スル實地練習ノミヲ爲サシムルコトヲ得

(昭和四年 第四四號改正)

第八條 商業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語、體操(武道ヲ含ム)並商業ニ關スル學科目及實踐トス

(昭和五年 第六號全條改正)

但シ國語、工業、農業其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、地理、歴史、理科、外國語

家事及裁縫、體操並商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ國語、音樂其

ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、商業ニ關スル學科目及實踐ヲ除

キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第九條 商業ニ關スル學科目ハ商事要項、簿記、商品、商業文、商業算

術、商業地理、商業史、商業法規、商業英語タイプライティング、速記

術其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

(昭和五年 第七號改正 第二項前條)

第九條ノ二 商業ニ關スル學科目及實踐ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

(昭和五年 第六號追加)

第十條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間

ニ亘リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ

學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設ク

ルコトヲ得

(昭和五年 第七號改正)

第十三條 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒

業者若ハ之ニ準スヘキ者トス

第十四條 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

(昭和四年 第四四號改正)

第十五條 (昭和五年 第七號前條)

第十六條 第二部ノ學科目ハ修身、商業ニ關スル學科目及實踐トス但シ必要ニ應シ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

(昭和五年 第七號全條改正)

第十六條ノ二 商業學校ヲ卒業シ特ニ商業ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習

セムトスル者アルトキハ之ヲ在學セシムルコトヲ得

(昭和五年 第七號追加)

第十七條 商業學校ニ於テハ或學科目ヲ選擇セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得

第十八條 商業學校ニ於テハ主トシテ商業ニ關スル事項ヲ授クル爲專修

科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十八條ノ二 商業學校ニ於テハ必要ニ應シ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ

對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

(昭和五年 第七號追加)

第十九條 商業學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應シ普通學科

目並商業ニ關スル學科目及實踐ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要

ス

第二十條 商業學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘ

キ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第二十一條 商業學校ニ於テハ教室、實驗室、實踐室其ノ他必要ナル諸

室、圖書、器具、機械、標本、模型、商品見本等ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

大正十年三月文部省令第十七號附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得大正十一年三月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

本令施行ノ際現ニ存スル商業學校ニ類スル各種學校ニシテ本令ニ依ラントスルモノニ付テハ第八條及第二十條ノ適用ニ關シ當分ノ内之ヲ酌酌スルコトヲ得

昭和五年四月文部省令第七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附則 (昭和十六年四月二十二日第四三號)

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●商船學校規程

(大正十二年三月三十一日) 文部省令第十三號

沿革

昭和四年一月第二五號、五年四月第八號、一二年三月第一

二號、一六年四月第四四號改正

商船學校規程左ノ通改正ス

商船學校規程

第一條 商船學校ノ修業年限ハ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ五年

二 國民學校高等科第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ四年

三 國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ三年

前項ノ修業年限ハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得

第二條 商船學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ國民

學校初等科修了程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之

ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサルモノニ付テハ入學資格

ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課

程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當ノ學力アリト認メタル者ハ第二學

年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得

第四條 他ノ商船學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ

行ハスシテ之ヲ相當學年ニ編入スルコトヲ得

第五條 商船學校ノ每週教授時數ハ授業ヲ除キ二十四時以内トス但シ特

別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

體操ノ教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

附則 (昭和十六年四月二十二日) 第四四號改正

(昭和十五年) 第八號全條改正

授業ノ教授時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 教授日數ハ一學年ニ付最終學年ニ在リテハ二百日以上其ノ他ノ

學年ニ在リテハ二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲

シタル場合ハ此限ニ在ラス

第七條 商船學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、

物理及化學、外國語、體操(武道ヲ含ム)並實業ニ關スル學科目及技

業トス但シ博物、圖書、工業、商業、音樂其ノ他ノ學科目ヲ加設スル

コトヲ得

第八條 實業ニ關スル學科目ハ運用術、航海術、機關術、機械製圖、海

上氣象學大意、造船學大意、應用力學、電氣學大意、海上運送大意、

海事諸法規、船舶衛生其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

第九條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十條 商船學校ノ學科ハ之ヲ航海科及機關科ニ分ツ但シ其ノ一學科ノ

ミヲ置クコトヲ得

第十一條 二學科ヲ置ク場合ニ於テハ或學年ノ課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコト

ヲ得

第十二條 商船學校ニ於テハ主トシテ海事ニ關スル事項ヲ授クル爲專修

科ヲ設ケ又ハ臨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十三條 商船學校ニハ本科又ハ專修科卒業後一定ノ期間實習ニ從事セ

ムトスル者ノ爲ニ練習科ヲ置クコトヲ得

第十四條 商船學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ關シ普通學科

目並實業ニ關スル學科目、授業及實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコ

トヲ得

附則 (昭和五年) 第一二號改正

(昭和十二年三月三十一日) 第八號改正

トヲ要ス

第十四條 商船學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ船舶ヲ以テ校舎

ニ代用スル場合ハ其ノ緊留地附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所

ヲ設クルコトヲ要ス

第十五條 商船學校ニ於テハ教室、授業室、實驗室其ノ他必要ナル諸室

圖書、器具、機械、標本、模型、機動艇、端艇、操帆練習設備等ヲ備

フルコトヲ要ス

第十六條 特別ノ必要アルトキハ海事ニ關スル事項ヲ授クル爲特殊ノ組

織ニ依リ學校ヲ設クルコトヲ得

第十七條 前條ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ適

宜之ヲ定ムヘシ

附則 (昭和五年) 第八號改正

(昭和十二年三月三十一日) 第十二號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノ

ハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則 (昭和五年) 第八號改正

(昭和十二年三月三十一日) 第十二號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノ

ハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則 (昭和十二年三月三十一日) 第十二號

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和五年) 第八號改正

(昭和十二年三月三十一日) 第十二號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノ

ハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則 (昭和五年) 第八號改正

(昭和十二年三月三十一日) 第十二號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノ

ハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ存スル商船學校ニシテ本令ニ依リ難キモノハ昭和十三年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和十二年五月三十一日迄ニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附則 (昭和十六年四月二十二日第四號)
本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●水産學校規程

(大正十二年四月四日)
(文部省令 第十五號)

沿革 昭和四年一月第四六號、五年四月第九號、一二年三月第一三號、一六年四月第四六號改正

水産學校規程左ノ通改正ス

水産學校規程

- 第一條 水産學校ノ修業年限、學科ノ種類土地ノ情况等ニ應ジ左ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ
 - 一 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至五年
 - (昭和五年) (昭和十六年四月二十二日) (第九號改正)
 - (昭和四年) (昭和十六年四月二十二日) (第六號改正)
 - 二 國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル場合ニ於テハ二年乃至三年
 - (昭和十六年四月二十二日) (第四六號改正)
- 前項ノ修業年限ハ遠洋漁業科ニ在リテハ二年以内、其ノ他ノ學科ニ在リテハ特別ノ必要アル場合ニ限り一年以内之ヲ延長スルコトヲ得
- 土地ノ情况ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一項各號ニ該當セザルモノヲ以テ入學資格トシ其ノ修業年限ヲ前二項ニ準シ二年以上ニ於テ適宜

定ムルコトヲ得

第二條 水産學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ國民學校初等科修了程度以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

(昭和十六年四月二十二日) (第四六號改正)

第三條 第一學年ノ入學志願者中入學資格ニ該當スル學校ノ課程若ハ之ト同程度ト認ムヘキ他ノ學校ノ課程ヲ了ヘサルモノニ付テハ入學資格ノ程度ニ依リ其ノ學力ヲ檢定スヘシ
相當年齢ニ達シ他ノ學校ニ於テ前各學年ノ課程ト同程度ト認ムヘキ課程ヲ了ヘタル者又ハ檢定ニ依リ相當學力アリト認メタル者ハ第二學年以上ニ入學ヲ許スコトヲ得

(昭和四年) (昭和十六年四月二十二日) (第四六號全條改正)

第四條 他ノ水産學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スル者アルトキハ檢定ヲ行ハスシテ之ヲ相當學年ニ編入スルコトヲ得

(昭和四年) (昭和十六年四月二十二日) (第四六號改正)

他ノ水産學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學ヲ志望スルモノニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第五條 水産學校ノ每週教授時數ハ實習ヲ除キ二十四時以内トス但シ低學年又ハ實習ヲ課セサル期間其ノ他特別ノ必要アル場合ニ限り三十時マテ之ヲ増加スルコトヲ得

(昭和五年) (第九號改正)

第六條 教授時數ハ前項ノ教授時數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
實習ノ教授時數ハ學科ノ種類、土地ノ情况等ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ
第六條 水産學校ニ於テハ一學年ニ付二月以内實習ノミヲ課スルコトヲ得但シ高學年ニ於テ特別ノ必要アル場合ニ限り二月以内之ヲ延長スルコトヲ得

(昭和五年) (第九號改正)

課程ハ之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得

(昭和五年) (第九號改正)

第十一條ノ二 第一條第一項第一號ノ學校中修業年限五年ノモノ及第二號ノ學校中修業年限三年ノモノ又ハ之ト同等以上ノ學校ニハ第二部ヲ設クルコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第十一條ノ三 第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ卒業者若ハ之ニ準スヘキ者トス

(昭和五年) (第九號追加)

第十一條ノ四 第二部ノ修業年限ハ一年トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ之ヲ伸縮スルコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第十一條ノ五 第二部ノ學科目ハ修身、水産ニ關スル學科目及實習トス但シ必要ニ應ジ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第十二條 水産學校ヲ卒業シ特ニ水産ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セントスル者アルトキハ設備ノ許ス限リ之ヲ在學セシムルコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第十三條 水産學校ニ於テハ主トシテ水産ニ關スル事項ヲ授クル爲專修科ヲ設ケ又ハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第十三條ノ二 水産學校ニ於テハ必要ニ應ジ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲スヘシ

(昭和五年) (第九號追加)

第十四條 水産學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應ジ普通學科目並水産ニ關スル學科目及實習ニ付各相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第七條 教授日數ハ毎學年二百十日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(昭和五年) (第二號追加)

第八條 水産學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、物理及化學、博物、體操(武道ヲ含ム)、並水産ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、土地ノ情况等ニ依リ外國語、簿記、圖畫、農業、工業、商業其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

(昭和十二年三月三十一日) (第一三號改正)

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、理科、家事及裁縫、體操並水産ニ關スル學科目及實習トス但シ簿記、圖畫、音樂、手藝其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

(昭和十二年三月三十一日) (第一三號改正)

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、水産ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第九條 水産ニ關スル學科目ハ水産養殖、發生、漁撈、造船、航海、運用、漁獲物處理、冷蔵、水産製造、水産化學、微生物、水産衛生、應用機械、製鹽、水産動物、水産植物、海洋、氣象、水産法規、水産經濟其ノ他必要ナル事項ヨリ選擇シテ之ヲ定ムヘシ

(昭和五年) (第九號追加)

第九條ノ二 水産ニ關スル學科目及實習ハ其ノ一部ヲ選擇科目ト爲スコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第十條 學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

第十一條 水産學校ニ於テハ土地ノ情况ニ依リ學科ヲ水産科、養殖科、漁撈科、製造科、遠洋漁業科等ニ分テ其一學科又ハ二學科以上ヲ置クコトヲ得

(昭和五年) (第九號追加)

二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ成學年ノ

第十五條 水産學校ニ於テハ校地内若ハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第十六條 水産學校ニ於テハ教室、實驗室、實習場、圖書、器具、標本、模型等ヲ備フルコトヲ要ス但シ實習場、實習船ハ特別ノ事情アル場合ニ限り他ノ漁場工場又ハ漁船ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

(昭和四年 第四六號改正)

第十六條ノ二 特別ノ必要アルトキハ水産及漁村ニ關スル事項ヲ授クル爲テ特殊ノ組織ニ依ル學校ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校ノ修業年限、入學資格、教授ノ日數及時數、學科目等ハ適宜之ヲ定ムヘシ

(昭和五年 第九號全條追加)

第十六條ノ三 前條ノ學校及專修科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得

(昭和五年 第九號追加)

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル水産學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附 則 (昭和五年四月第九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル水産學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ難キモノハ昭和六年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和五年五月三十一日マテニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附 則 (昭和十二年三月三十一日第十三號)

第五條 職業學校ノ學科ハ裁縫、手藝、洗染、刺繍、タイプライター、速記、簿記、珠算、通信、鑄造、自動車、航空、電機、機械修理、家具、時計、寫眞、印刷、測量、製圖、圖案、造船、養蠶、整容美髮、助産、看護、鍼灸、演劇等ニ付之ヲ定ムヘシ

(昭和六年 第三號改正)

二學科以上ヲ置ク場合ニ於テハ學科ノ種類、修業年限ニ依リ或學年ノ限制、之ヲ學科別ト爲ササルコトヲ得

第六條 職業學校ノ學科目ハ修身、公民科、國語、歴史、地理、數學、體操並實務ニ關スル學科目及實習トス但シ修業年限、學科ノ種類ニ依リ理科、圖書、外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

女子ニ付テハ修身、公民科、國語、數學、歴史、地理、理科、圖書、音樂、體操並家事、裁縫、手藝、實業等實務ニ關スル學科目及實習トス但シ教育、外國語其ノ他ノ學科目ヲ加設スルコトヲ得

前二項ノ必須學科目中修身、公民科、實務ニ關スル學科目及實習ヲ除キ特別ノ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

學科目ハ便宜分合シテ之ヲ定ムルコトヲ得

加設學科目又ハ實務ニ關スル學科目及實習中或事項ハ生徒ノ志望ニ依リ選擇履修セシムルコトヲ得

(昭和六年 第三號改正) (昭和十二年三月三十一日 第一四號改正)

第六條ノ二 土地ノ情況ニ依リ必要アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ夜間ニ亘リ教授ヲ爲スコトヲ得但シ午後九時ヲ超ユルコトヲ得ス

(昭和三年 第六號追加)

第七條 職業學校ノ課程ヲ卒ヘタル者又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ更ニ或

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル水産學校ニシテ本令ニ依リ難キモノハ昭和十三年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和十二年五月三十一日迄ニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附 則 (昭和十六年四月二十二日第四六號)

本令ハ昭和十六年四月一日之ヲ適用ス

職業學校規程 (大正十年一月十三日 文部省令 第三號)

沿革 昭和三年四月第六號、四年一月第四七號、六年一月第三號、二年三月第一四號、一六年四月第四七號改正

職業學校規程左ノ通定ム

第一條 職業學校ノ修業年限ハ二年以上四年以内トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ學科ノ種類、入學資格等ニ應ジ一年以内之ヲ伸縮スルコトヲ得

第二條 職業學校ニ入學スルコトヲ得ル者ノ資格ハ年齢十二年以上ニシテ學力國民學校初等科修了程度以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(昭和十六年四月二十二日 第四七號改正)

第三條 職業學校ノ每週教授時數ハ二十四時以上トス

第四條 教授日數ハ毎學年二百日以上トス但シ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(昭和六年 第三號修正)

事項ヲ專攻セムトスルモノノ爲專攻科ヲ置クコトヲ得

專攻科ノ修業年限ハ三年以内トス

(昭和六年 第三號改正)

第七條ノ二 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年又ハ之ト同等以上ノ女子ノ職業學校ニハ更ニ精深ナル課程ヲ履修セムトスル者ノ爲高等科ヲ置クコトヲ得

(昭和六年 第三號追加) (昭和十六年四月二十二日 第四七號改正)

第七條ノ三 高等科ノ修業年限ハ二年又ハ三年トス

(昭和六年 第三號追加)

第七條ノ四 高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年又ハ之ト同等以上ノ女子ノ職業學校ヲ卒業シタルモノ若ハ之ニ準スヘキモノトス

(昭和六年 第三號追加) (昭和十六年四月二十二日 第四七號改正)

第八條 職業學校ニ於テハ或學科目ヲ履修セシムル爲選科生ヲ置クコトヲ得

第九條 職業學校ニ於テハ主トシテ職業ニ關スル事項ヲ授クル爲別科ヲ設ケ又ハ臨時講習ヲ爲スコトヲ得

第十條 職業學校ニ於テハ必要ニ應ジ當該學校ノ卒業者其ノ他ニ對シ研究指導ノ施設ヲ爲ス

(昭和六年 第三號追加)

第十一條 職業學校ニ於テハ教室其ノ他必要ナル諸室、器具、機械、標本、模型等ヲ備ヘ又實習ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ存スル徒弟學校規程ニ依ル女子職業學校ハ本令ニ依
ル職業學校ト看做ス

附 則 (昭和四年十一月十五日第四七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル職業學校ニシテ第六條ノ規定ニ依リ職キ
モノニ付テハ昭和五年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附 則 (昭和六年一月十日第三號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル職業學校ニシテ本令ノ規定中之ニ依リ職キモ
ノハ昭和七年三月三十一日マテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附 則 (昭和十二年三月三十一日第一四號改正)

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル職業學校ニシテ本令ニ依リ職キモノハ昭和十
三年三月三十一日迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得昭和十二年五月三十一
日迄ニ設置セラレタル學校ニ付亦同シ

附 則 (昭和十六年四月二十二日第四七號)

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●私立學校令施行規則

(明治三十二年八月三日
文部省令 第三十八號)

沿革 大正一二年八月第三六號、昭和一六年四月第三五號改正

明治三十二年勅令第三百五十九號私立學校令第十七條ニ依リ私立學校令
施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立學校令施行規則

第一條 私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者
ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舍、寄宿舎ノ圖面ヲ添ヘ監督
官廳ニ申請スヘシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 經費及維持方法

前項第一號乃至第四號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ校地、校舍、寄
宿舎ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第二條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項

二 學科課程、授業時間ニ關スル事項

三 試験ニ關スル事項

四 入學退學ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 賞罰ニ關スル事項

(昭和十六年四月八日
第三五號改正)

七 寄宿舎ニ關スル事項

八 職員ノ職務ニ關スル事項

第三條 私立學校令第三條第一項又ハ第五條第一項ニ依リ私立學校ノ校
長、學校代表者又ハ教員タルノ認可ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ
監督官廳ニ申請スヘシ

第四條 私立學校令第六條ニ依リ施スヘキ試験ハ國民學校ニ準スヘキ各
種學校教員ニ在リテハ國民學校教員檢定委員、其ノ他ニ在リテハ師範
學校、中學校、高等女學校教員檢定委員又ハ文部大臣ノ特ニ選定シタ
ル委員ヲシテ之ヲ行ハシム
(大正十二年八月
第三六號改正) (昭和十六年四月八日
第三五號改正)

第五條 私立學校ノ種類ニ依リ別段ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ
依ル

附 則

第六條 明治十四年文部省達第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和十六年四月八日第三五號)

本令中第一條第二項ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ第四條ノ規定ハ
昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●公立私立盲學校及聾啞學校規程

(大正十二年八月二十九日
文部省令 第三十四號)

沿革 昭和十五年二月第二號、一六年三月第二五號改正

公立私立盲學校及聾啞學校規程

第一條 盲學校ノ修業年限ハ初等部六年、中等部四年ヲ常例トス

聾啞學校ノ修業年限ハ初等部六年、中等部五年ヲ常例トス

第二條 盲學校及聾啞學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ初等部ニ在リテハ
年齢六年以上ノモノ、中等部ニ在リテハ初等部ヲ卒業シタルモノ又ハ之
ニ準スヘキモノタルヘシ但シ中等部ノ普通科以外ノ學科ヲ修メントス
ル者ハ初等部第五學年ヨリ技術ニ關スル學科目ヲ兼修スルコトヲ得

第三條 相當年齢ニ達シ相當ノ學力アリト認めタル者ハ第二學年以上ニ
入學ヲ許シ又ハ一學年ノ課程ヲ修了セサルモ其ノ學年ヲ進ムルコトヲ
得

第四條 盲學校ノ中等部ヲ分テテ普通科、音樂科及鍼灸科トシ聾啞學校
ノ中等部ヲ分テテ普通科、圖畫科、裁縫科及工藝科トス

第五條 盲學校初等部及聾啞學校初等部ノ教科及科目ニ付テハ國民學校
初等科ノ教科及科目ニ關スル規定ヲ準用ス
(昭和十六年三月三十一日
第二五號改正)

第五條ノ二 盲學校中等部ノ學科目左ノ如シ

一 普通科ニ在リテハ修身、國語、外國語、數學、歴史、地理、理科
音樂及體操トシ女子ノ爲ニハ家事及裁縫ヲ加フ

二 普通科以外ノ學科ニ在リテハ修身、國語、體操及技藝ニ關スル學
科目トス

前項ノ學科目中土地ノ情況ニ依リ其ノ一科目又ハ數科目ヲ關キ若ハ必
要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得
(昭和十六年三月三十一日
第二五號改正)

第六條 聾啞學校中等部ノ學科目左ノ如シ

- 一 普通科ニ在リテハ修身、國語、外國語、數學、歴史、地理、理科圖書及體操トシ女子ノ爲ニハ家事及裁縫ヲ加フ
- 二 普通科以外ノ學科ニ在リテハ修身、國語、圖書、體操及技藝ニ關スル學科目トシ女子ノ爲ニハ家事及裁縫ヲ加フ但シ圖書科ニハ圖書ヲ、裁縫科ニハ裁縫ヲ關ク
- 前項學科目申土地ノ情況ニ依リ其ノ一科目又ハ數科目ヲ關キ若ハ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得
(昭和十六年三月三十一日) (第二五號改正)
- 第七條 盲學校及聾啞學校ノ每週教授時數ハ初等部ニ在リテハ國民學校初等科、中等部ニ在リテハ學科ノ種類ニ應ジ中學校、高等女學校又ハ實業學校ニ準シ之ヲ定ムヘシ
(昭和十六年三月三十一日) (第二五號改正)
- 第八條 盲學校及聾啞學校ノ豫科、別科、研究科及週科生ニ關シテハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ定ム文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 盲學校及聾啞學校ニ於テハ學科目、教授時數及學級數ニ應ジ相當員數ノ教員ヲ置クコトヲ要ス
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ盲學校ノ教員タルコトヲ得
 - 一 東京盲學校ノ師範部甲種ヲ卒業シタル者
 - 二 文部大臣ノ指定シタル者
 - 三 文部大臣ノ認可シタル者
- 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ盲學校ノ初等部ノ教員タルコトヲ得
 - 一 東京盲學校ノ師範部乙種ヲ卒業シタル者
 - 二 文部大臣ノ認可シタル者

- 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ聾啞學校ノ教員タルコトヲ得
 - 一 東京聾啞學校ノ師範部普通科甲種又ハ師範部技藝科ヲ卒業シタル者
 - 二 文部大臣ノ指定シタル者
 - 三 文部大臣ノ認可シタル者
- 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ聾啞學校ノ初等部ノ教員タルコトヲ得
 - 一 東京聾啞學校ノ師範部普通科乙種ヲ卒業シタル者
 - 二 文部大臣ノ認可シタル者
- 第十二條 前二條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其ノ從事セントスル學校ノ種類、程度、學科及擔任ノ學科目ヲ記載シタル圖書ニ履歷書ヲ添ヘ文部大臣ニ申請スヘシ
(昭和十五年二月十五日) (第二二號改正)
- 第十三條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ第十條及第十一條ノ資格ヲ有セサル者ヲ教員トシテ採用スルコトヲ得
- 前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立學校ニ在リテハ教諭、助教諭、訓導又ハ保婦ト稱スルコトヲ得ス
- 第十四條 第十條及第十一條ノ資格ヲ有セサル教員數之ヲ有スル教員數ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ、私立學校ニ在リテハ管理者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ當該學校現在教員ノ氏名、履歷資格、從事ノ學科、擔任ノ學科目及詳細ナル事由ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ
- 第十五條 盲學校及聾啞學校ニ於テハ校地、校舎、寄宿舎、體操場及校

- 具ヲ備フヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ寄宿舎ヲ設ケサルコトヲ得
- 第十六條 校地、校舎、寄宿舎、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス
- 校地ハ道徳上及衛生上善ナキ所タルヘシ
- 校舎ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナルコトヲ要ス
- 校具ハ圖書、機械、器具、標本、模型及表簿等トス
- 第十七條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舎監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ
- 第十八條 盲學校又ハ聾啞學校ヲ設置セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ
 - 一 名稱
 - 二 位置
 - 三 學則
 - 四 各教科ノ生徒定員
 - 五 開校ノ期日
 - 六 經費及維持ノ方法
- 前項第一號、第二號、第四號及第五號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第一項第二號ノ位置ニ關スル申請ニハ敷地ノ面積、地質並附近ノ情況及建物ノ配置ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ
- 第十九條 位置ノ變更ニアラサル敷地ノ變更、建物ノ建設又ハ變更ハ道府縣立學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在

- リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第二十條 盲學校及聾啞學校ハ國民學校其ノ他ノ學校ニ併設スルコトヲ得
(昭和十六年三月三十一日) (第二五號改正)
- 第二十一條 土地ノ情況ニ依リ分教場ヲ設クルコトヲ得
- 第二十二條 盲學校及聾啞學校ノ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
 - 一 學校ノ目的
 - 二 修業年限及入學資格ニ關スル事項
 - 三 學科課程及每週教授時數ニ關スル事項
 - 四 學年、學期及休業日ニ關スル事項
 - 五 課程ノ修了及卒業ニ關スル事項
 - 六 入學、退學及賞罰ニ關スル事項
 - 七 授業料、入學料等ニ關スル事項
 - 八 寄宿舎ニ關スル事項
- 前項第二號及第三號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第一號、第四號乃至第八號ノ變更ハ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第二十三條 盲學校及聾啞學校ヲ廢止セントスルトキハ其事由並生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ
- 第二十四條 公立若ハ私立ノ盲學校又ハ聾啞學校ノ設立者ノ變更ニ付テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス
- 第二十五條 道府縣立以外ノ盲學校及聾啞學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ但シ其ノ設置廢止ノ申請ニ關シテハ

地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

附 則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十條又ハ第十一條ノ適用ニ關シテハ東京盲學校ノ元師範科又ハ元東京盲學校ノ教員練習科ヲ卒業シタル者(聾啞者ヲ除ク)ハ東京盲學校ノ師範科乙種、東京聾啞學校ノ元師範科又ハ元東京聾啞學校ノ教員練習科ヲ卒業シタル者(盲人ヲ除ク)ハ東京盲學校ノ師範部乙種、東京盲學校ノ元師範科又ハ元東京盲學校ノ教員練習科(聾啞者ヲ除ク)ヲ卒業シ三年以上盲人ノ教育ニ從事シタル者ハ東京盲學校ノ師範部甲種、東京聾啞學校ノ元師範科又ハ元東京盲學校ノ教員練習科(盲人ヲ除ク)ヲ卒業シ三年以上聾啞者ノ教育ニ從事シタル者ハ東京聾啞學校ノ師範部甲種ヲ卒業シタル者ト看做ス
盲人又ハ聾啞者ヲ教育スル既設ノ公立學校ハ本令ニ依リ設置セラレタルモノト看做ス但シ本令ノ規定中之ニ依リ難キ事項ハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
前項但書ノ規定ハ盲人又ハ聾啞者ヲ教育スル既設ノ私立學校ニシテ本令ニ依ラントスルモノニ付之ヲ準用ス

附 則 (昭和十五年二月十五日第二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條ノ規定ノ適用ニ關シテハ東京聾啞學校ノ元師範部甲種ヲ卒業シタル者ハ東京聾啞學校ノ師範部普通科甲種ヲ、東京聾啞學校ノ元師範部乙種ヲ卒業シタル者ハ東京聾啞學校ノ師範部普通科乙種ヲ卒業シタル者ト看做ス

●實業學校卒業程度檢定規程

(大正十四年五月二十八日) 文部省令 第三十號

沿革 昭和三年八月第一三號、一六年四月第四八號改正

第一條 實業ニ從事シ又ハ從事セムトスル者ノ爲實業學校卒業程度ノ檢定ヲ行フ

第二條 實業學校卒業程度ノ檢定ハ男子ニ在リテハ國民學校初等科修了ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校卒業程度ニ依リ女子ニ在リテハ國民學校初等科修了ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年ノ實業學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ

第三條 檢定ヲ爲スベキ學科目ハ工業學校規程、農業學校規程、商業學校規程、水產學校規程及醫藥學校規程ノ各必須學科目トス但シ加設學科目中ヨリ適宜選擇シテ檢定學科目ニ加フルコトヲ得

第四條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ住所ノ地方廳ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スベシ

一 願書(第二號書式) 二 月曆抄本

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (昭和三年八月第一三號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ニ於テ檢定ニ合格シタル者又ハ第七條第一項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ當該學科ニ付更ニ檢定ヲ出願シタルトキハ其ノ合格シタル學科目及第七條第一項ノ證明書ヲ交付シタル學科目ノ檢定ヲ免除ス

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
附 則 (昭和十六年四月二二日第四七號)
第一號書式(用紙実體紙)
受檢 願書

Table with 2 columns: 收入 (本籍), 印紙 (現住所)

學校ノ種類 何 氏
學科 何 氏
免除學科目 何 年月日生
私備實業學校卒業程度檢定規程ニ依リ檢定相受度書類ヲ具シ此段相願候也

文部大臣 宛
(記載注意)
一 學校ノ種類ニハ工業學校、農業學校、商業學校、水產學校等ノ名

110

三 寫眞(手札形トシ半身脫帽ニテ出願前六月以内ニ撮影シ寫紙ニ貼付セズ裏面ニ撮影年月日、本籍地、氏名ヲ記載シタルモノ)

四 第七條ノ證明書ヲ有スル者ハ其ノ寫眞

第五條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ手数料トシテ一學科ニ付金七圓ヲ納付スベシ

第六條 檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書(第三號書式)ヲ付與ス

第七條 檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セザルモ受檢學科目中ニ付實業學校卒業程度ノ學力アリト認メタルトキハ其ノ證明書(第四號書式)ヲ交付スルコトアルベシ

前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ當該學科ニ付檢定ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試験ヲ免除ス

第八條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケムトシタル者又ハ檢定ニ關スル規定ニ違反シタル者ハ其ノ檢定ヲ受タルコトヲ得ズ

檢定後前項ノ事實發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條 合格證書ヲ有スル者氏名ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得第七條ノ證明書ニ付亦同シ

前項ニ依リ合格證書又ハ證明書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金壹圓ヲ納付スベシ

第十條 手数料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納付スベシ

既納ノ手数料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セズ

附 則

- 稱フ記載スベシ
- 一 學科ニハ機械、建築、農業、養蠶、商業、水産等學科ノ種類ヲ記載スベシ
 - 二 免除學科目ニハ其ノ免除學科目ノ種類ヲ記載スベシ
 - 三 出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ付スベシ
 - 四 第二號書式(用紙美濃紙)

本籍
現住所

氏名
年月日生

- 一年月日 何學校何學科第何學年ニ入學 年月卒業(目下在學中)
- 一年月日 何年月施行實業學校卒業程度ノ檢定ニ於テ何學校何學科何學科目證明書受領(證明書番號何號)

- 一年月日 何官職拜命若ハ何業ニ従事 年月何事由ニ依リ退官若ハ廢業

- 一年月日 何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受テ
- 一年月日 何事由ニ依リ何ト改氏名等

(記載注意)

- 一 業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スベシ
- 二 賞罰ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スベシ
- 三 良上ニ關スル事項ハ本籍氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スベシ
- 第三號書式
- 大正 年 第 號
- 合格證書

本籍
氏名

年月日生

- 右ハ實業學校卒業程度檢定規程ニ依リ何學校何學科檢定ニ合格シタルコトヲ證ス
- 第四號書式
- 大正 年何學校 第 號
- 證明書
- 本籍
- 氏名
- 年月日生

右ハ實業學校卒業程度檢定規程ニ依リ何學校何學科檢定ニ於テ左記學科目ニ付キ合格點ヲ得タルコトヲ證明ス

年 月 日

文 部 省 用

檢定施行年月	合格點ヲ得タル學科目
--------	------------

●青年學校教員資格規程 (昭和十年四月一日 文部省令 第五號)

昭和十六年三月二十二號改正

青年學校教員資格規程左ノ通定ム

青年學校教員資格規程

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ青年學校ノ教員タルコトヲ得
 - 一 青年學校教員養成所ヲ卒業シタル者
 - 二 實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者
 - 三 國民學校訓導免許狀又ハ國民學校專科訓導免許狀ヲ有スル者
 - 四 文部大臣ノ指定シタル者
- 第二條 職業、家事、裁縫又ハ教練ニ關スル特別ノ知識技能ヲ有スル者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ青年學校ノ教員タルコトヲ得

(昭和十六年三月三十一日 第二十二號改正)
- 第三條 前條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其ノ擔任セントスル教授及訓練科目ヲ記載シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ申請スベシ
- 第四條 公立青年學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ、私立青年學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ設置者ニ於テ第一條及第二條ノ資格ヲ有セザル者ヲ教員トシテ採用スルコトヲ得
- 前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立青年學校ニ在リテハ教諭及助教諭ト稱スルコトヲ得ズ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニアラザレバ公立青年學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得ズ

- 一 青年學校教員養成所ヲ卒業シタル者
- 二 實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者
- 三 小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ六年以上助教諭ノ職ニ在リタルモノ
- 青年學校以外ノ公立學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ公立青年學校ノ教諭ト稱スルコトヲ得
- 第六條 青年學校ニ於テ第四條ニ依リ採用スル教員數ノ制限ニ關シテハ地方長官ノ定ムル所ニ依ルベシ

附 則

- 第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第八條 青年學校教員養成所附則第三項ノ青年學校教員養成所ニシテ修業年限二年未滿ノモノヲ卒業シタル者ハ第五條第一項ノ適用ニ付テハ三年以上助教諭ノ職ニ在リタル場合ニ限ル
- 第九條 本令中助教諭ノ在職年數ノ計算ニ付テハ從前ノ公立實業補習學校ハ之ヲ公立青年學校ト看做ス
- 第十條 從前ノ公立實業補習學校ハ第五條第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ青年學校ト看做ス
- 第十一條 本令施行前ニ於テ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第二條第三號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル者ハ之ヲ第一條第四號ノ規定ニ依リ指定シタルモノト看做ス
- 第十二條 本令施行前ニ於テ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程第二條ノ一ヲ規定ニ依リ地方長官ニ於テ實業補習學校ノ教員タルコトヲ認可シタル者ハ之ヲ第二條ノ規定ニ依リ認可シタルモノト看做ス

第十三條 従前ノ實業補習學校教員養成所又ハ大正九年文部省令第三十
四號附則第五項ノ規定ニ依リ實業補習學校教員養成所ト看做サレタル
モノヲ卒業シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ青年學校教員養成所ヲ
卒業シタルモノト看做ス但シ修業年限二年未満ノモノニ在リテハ第五
條第一項ノ適用ニ付テハ三年以上助教諭ノ職ニ在リタル場合ニ限ル
第十四條 本令施行前ニ於テ大正九年文部省令第三十四號附則第三項ノ
規定ニ依リ實業補習學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有シタル者ハ之
ヲ本令ニ依リ青年學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スルモノト看做
ス

●國民學校制度ノ實施ニ伴フ教育基 金令等ノ規定ノ整理等ニ關スル件

(昭和十六年三月二十九日)
勅令 第三百四十四號

朕國民學校制度ノ實施ニ伴フ教育基金令等ノ規定ノ整理等ニ關スル件ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 教育基金令中左ノ通改正ス
第五條第一號ヲ左ノ如ク改ム
一 國民學校設備費ノ貸付
同條第二號及第三號中「公立小學校教員」ヲ「國民學校教員」ニ改ム
第六條第一項ヲ左ノ如ク改ム
前條第一號ノ規定ニ依リ使用スル教育資金ハ特別ノ必要アル場合ニ於

テ國民學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充ツル旨之ヲ市町村又ハ之ニ準スヘ
キ公共團體ニ貸付ス

同條第二項及第四項ヲ削リ同條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改ム

第二條 教員保養所令中左ノ通改正ス

第一條中「小學校教員」ヲ「國民學校教員」ニ改ム

第三條 教科書調査會官制中左ノ通改正ス

第一條中「小學校」ヲ「國民學校」ニ改ム

第四條 教職員共済組合令中左ノ通改正ス

第一條及第五條第二項中「小學校」ヲ「國民學校」ニ改ム

第三條第二項中「市立ノ高等小學校、青年學校及幼稚園ノ職員」ヲ

「市立國民學校ノ職員」ニシテ其ノ俸給ノ爲北海道地方費及府縣ニ於テ

要スル經費ノ半額又ハ全額ヲ義務教育費國庫負擔法又ハ現役國民學校

職員俸給費國庫負擔法ニ依リ國庫ニ於テ負擔スルモノニ非ザルモノタ

ル組合員並ニ市立ノ青年學校及幼稚園ノ職員」ニ改ム

第六條第三項中「青年學校」ヲ「國民學校及青年學校」ニ改メ同條第

四項ヲ削ル

第五條 義務教育費國庫負擔法施行令中左ノ通改正ス

第二條 義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依リ國民學校職員ヨリ

除ク者ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 養護團體

二 特修科ノ教科ノミヲ教授スル訓練、准訓練又ハ國民學校令第十

九條ノ規定ニ依ル職員

三 特修科ノ教科及初等科又ハ高等科ノ教科ヲ教授スル國民學校令

第十九條ノ規定ニ依ル職員ニシテ特修科ノ教科ヲ教授スル時數ガ

總教授時數ノ二分ノ一ヲ超ユルモノ

第六條 高等師範學校官制中左ノ通改正ス

第三條中「附屬小學校」ヲ「附屬國民學校」ニ改ム

第十條第二項中「附屬小學校兒童」ヲ「上官ノ命ヲ承ケ附屬國民學校

兒童」ニ改ム

第七條 公立學校職員制中左ノ通改正ス

第四條第四項中「小學校教育」ヲ「國民學校教育」ニ改ム

第六條第二項及第三項中「附屬小學校主事」ヲ「附屬國民學校主事」

ニ改ム

第七條第二項中「高等小學校卒業程度」ヲ「國民學校高等科修了程

度」ニ改ム

第九條第一項中「附屬小學校兒童」ヲ「上司ノ指揮ヲ承ケ附屬國民學

校兒童」ニ改ム

第八條 公立學校職員年功加俸令中左ノ通改正ス

第七條第一項中「市町村立小學校ノ訓練又ハ准訓練」ヲ「國民學校ノ

訓練、養護訓練又ハ准訓練」ニ、「市町村立小學校教員加俸令」ヲ

「國民學校教員加俸令」ニ改メ「小學校ノ正教員又ハ准教員ノ資格ヲ

有シ市制町村制ヲ施行セザル地方ノ小學校教育規程ニ依リ公立小學校ニ

在職スル者第一條第一項ニ稱タル職ニ稱シタル場合ニ付亦同シ」ヲ削

ル

第九條 在外指定學校職員令中左ノ通改正ス

第一條 在外指定學校中國國民學校ノ課程ト同等ノ課程ヲ有スル學校又

ハ之ニ準スヘキ學校ニハ學校長及訓練ヲ置ク

前項ノ學校ニハ教頭、養護訓練及准訓練ヲ置クコトヲ得

學校長及教頭ハ其ノ學校ノ訓練ノ中ヨリ之ヲ補ス

第一條ノ二 前條ノ學校以外ノ在外指定學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教諭

助教諭

書記

前項ノ職員ノ外寄宿舎ノ設アル學校ニ舎監ヲ置ク

第一條ノ三 在外指定學校ニ於テ必要アルトキハ職員トシテ前二條ニ

稱タルモノ以外ノ職員ヲ置クコトヲ得

第二條 第一條ノ學校ノ訓練及養護訓練ハ聘任文官ト同一ノ待遇トス

但シ學校長又ハ教頭タル訓練ハ兼任文官ト同一ノ待遇ト爲スコトヲ

得

第二條ノ二中「第一條第二項」ヲ「第一條ノ二」ニ、「第一條第二項」

ヲ「第一條」ニ改ム

第二條ノ三中「第一條第二項」ヲ「第一條ノ二」ニ改ム

第十條 市町村立小學校教員加俸令中左ノ通改正ス

「市町村立小學校教員加俸令」ヲ「國民學校教員加俸令」ニ改ム

第一條第一項中「府縣」ヲ「北海道地方費及府縣」ニ、「市町村立小

學校教育費國庫補助法」ヲ「國民學校教育費國庫補助法」ニ、「市町

村立小學校教員加俸資金」ヲ「國民學校教員加俸資金」ニ、同條第二

項中「府縣費」ヲ「北海道地方費又ハ府縣費」ニ改ム

第二條中「市町村立小學校教員加俸資金」ヲ「國民學校教員加俸資金」ニ改ム

第三條第一項中「小學校教員」ヲ「國民學校教員（國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員ヲ除ク）」ニ、「同一府縣内ノ市町村立小學校」ヲ「同一道府縣内ノ國民學校」ニ改ム

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
年功加俸ハ訓導及養護訓導ニ在リテハ年額二十四圓乃至六十圓、准訓導ニ在リテハ年額十二圓乃至二十四圓トシ年功加俸ヲ受ケタル後勤積五年ヲ加フル毎ニ訓導及養護訓導ニ在リテハ年額十八圓乃至三十圓、准訓導ニ在リテハ年額十二圓乃至十五圓ヲ加フルコトヲ得

第七條 國民學校ノ訓導ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額六十圓以下ノ特別加俸ヲ給ス
國民學校ノ訓導ニシテ多級學校ノ四以上ノ學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ年額四十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

僻地ノ國民學校ニ勤務スル訓導及養護訓導ニハ年額三十六圓以下ノ規定ニ依リ特別加俸ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス
同一道府縣内ニ於テ僻地ノ國民學校ニ五年以上勤積スル者ニハ前項ニ依リ特別加俸ノ外訓導及養護訓導ニ在リテハ年額三十六圓以下ノ規定ニ依リ特別加俸ヲ受ケタル者ニハ年額十八圓以下ヲ加給ス

第八條 削除
第九條中「市町村立小學校教員」ヲ「國民學校教員」ニ改ム

第十一條 文部省官制中左ノ通改正ス

第六條第三號中「小學校」ヲ「國民學校」ニ、同條第七號中「市町村立小學校教育費國庫負擔」ヲ「國民學校教育費國庫負擔」ニ改ム

第十二條 明治二十九年勅令第五號ハ之ヲ廢止ス
第十三條 明治四十年勅令第二十七號中左ノ通改正ス

第一條 北海道地方費及府縣ノ國民學校教育費ヲ補助スル爲メ國民學校教育費國庫補助法ニ依リ配賦スル金額ト同額ノ金額ヲ支出スヘシ
第二條中「市町村立小學校教員加俸」ヲ「國民學校教員加俸」ニ、「市町村立小學校教員住宅費」ヲ「國民學校教員住宅費」ニ、改ム

第十四條 昭和三年勅令第二十六號中左ノ通改正ス
第二條第三號中「小學校（文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ヲ含ム以下之ニ同ジ）」ノ校長、教官又ハ教員ノ職ニ在リタル者」ヲ「國民學校（文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ヲ含ム以下同ジ）」ノ職員ノ職ニ在リタル者」ニ、同條第四號中「小學校本科正教員タル資格ヲ有シ小學校ノ校長、教官若ハ教員ノ職ニ在リタル者」ヲ「國民學校ノ全教科ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル訓導タル資格ヲ有シ國民學校教員ノ職ニ在リタル者」ニ改メ同條第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 四年以上國民學校訓導（國民學校ノ全教科ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル訓導ヲ除ク）タル資格ヲ有シ國民學校教員ノ職ニ在リタル者
第十五條 昭和十五年勅令第七十八號中左ノ通改正ス

「現役小學校教員俸給費國庫負擔法」ヲ「現役國民學校教員俸給費國庫負擔法」ニ改ム

第十六條 昭和十五年勅令第二百四十一號中左ノ通改正ス

「町村學校組合又ハ學區」ヲ「又ハ町村學校組合」ニ、「市町村立小學校教員」ヲ「國民學校教員」ニ改ム

第十七條 昭和十五年勅令第二百四十二號中左ノ通改正ス
「小學校ノ教員（代用教員ヲ含ム）」ヲ「國民學校教員（養護訓導ヲ除ク）」ニ改ム

附 則

第十八條 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依リ義務教育費國庫負擔法施行令第二條ノ改正規定ニ據グル者ノ外尚昭和十九年三月三十一日迄國民學校職員ヨリ除ク者ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 高等科ノ教科又ハ高等科及特修科ノ教科ノミヲ教授スル訓導、准訓導又ハ國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員
二 初等科ノ教科及高等科又ハ特修科ノ教科ヲ教授スル國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員ニシテ高等科若ハ特修科ノ教科ヲ教授スル時數又ハ高等科及特修科ノ教科ヲ教授スル時數カ總教授時數ノ二分ノ一ヲ超ユルモノ

義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依リ義務教育費國庫負擔法施行令第二條ノ改正規定ニ據グル者ノ外尚昭和十九年四月一日ヨリ昭和二十年三月三十一日迄國民學校職員ヨリ除ク者ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 高等科第二學年ノ教科又ハ高等科第二學年及特修科ノ教科ノミヲ教授スル訓導、准訓導又ハ國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員
二 初等科又ハ高等科第一學年ノ教科及高等科第二學年又ハ特修科ノ

教科ヲ教授スル國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員ニシテ高等科第二學年若ハ特修科ノ教科ヲ教授スル時數又ハ高等科第二學年及特修科ノ教科ヲ教授スル時數カ總教授時數ノ二分ノ一ヲ超ユルモノ

第二十條 本令施行ノ際現ニ從前ノ在外指定學校職員令第一條第一項ノ學校ノ學校長ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ當該學校ノ訓導ニ同待遇俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

第二十一條 市町村立小學校ノ本科正教員若ハ專科正教員又ハ准教員ノ在職年數ハ國民學校教員加俸令ノ適用ニ付テハ夫々之ヲ國民學校ノ訓導又ハ准訓導ノ在職年數ト看做ス

昭和十九年三月三十一日迄ハ國民學校教員加俸令第七條第一項中國國民學校トアルハ國民學校（高等科又ハ高等科及特修科ノミヲ置クモノヲ除ク）同條第二項中四以上ノ學年トアルハ初等科ノ四以上ノ學年又ハ初等科ノ四以上ノ學年及高等科若ハ特修科ノ學年、同條第三項中訓導及養護訓導トアルハ訓導及養護訓導（高等科又ハ高等科及特修科ノ兒童ノミノ教育又ハ養護ヲ掌ル者ヲ除ク）、同條第四項中僻地ノ國民學校ニ五年以上勤積スル者トアルハ僻地ノ國民學校ニ高等科又ハ高等科及特修科ノ兒童ノミノ教育又ハ養護ヲ掌ル者以外ノ者トシテ五年以上勤積スル者トス

僻地ノ市町村立尋常小學校ニ勤積シタル年數ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ僻地ノ國民學校ニ高等科又ハ高等科及特修科ノ兒童ノミノ教育ヲ掌ル者以外ノ者トシテ勤積シタル年數ト看做ス

第二十二條 小學校（從前ノ昭和三年勅令第二十六號第二條ノ規定ニ依リ文部大臣ニ於テ之ト同等ト認メタル學校ヲ含ム以下同ジ）ノ校長、教

官若ハ教員ノ職ニ在リタル者、小學校本科正教員タル資格ヲ有シ小學校ノ校長、教官若ハ教員ノ職ニ在リタル者又ハ小學校正教員（小學校本科正教員ヲ除ク）タル資格ヲ有シ小學校ノ教官又ハ教員ノ職ニ在リタル者ハ昭和三年勅令第二十六號第二條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ夫々之ヲ國民學校（文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ヲ含ム以下同シ）ノ教員ノ職ニ在リタル者、國民學校ノ全教科ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル職ヲ有シ國民學校教員ノ職ニ在リタル者又ハ國民學校副頭（國民學校ノ全教科ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル職ヲ除ク）タル資格ヲ有シ國民學校教員ノ職ニ在リタル者ト看做ス

●教科用圖書檢定規則（明治二十年五月七日）
（文部省令 第二一號）

沿革 明治二五年三月第三號、四月第五號、二八年五月第三號、二九年四月第五號、三〇年一月第一八號、三二年四月第三號、三九年七月第一二號、四〇年一月第三一號、大正八年七月第二七號、一五年一月第三五號、昭和七年一月第一八號、一四年一月第三號、一六年三月第一一號改正

第一條 教科用圖書檢定規則ハ師範教育令中學校令高等女學校令實業學校令青年學校令國民學校令及教則ノ旨趣ニ合シ教科用ニ適スルコトヲ認定スルモノトス
本規則ニ於テ教科用圖書ト稱スルハ師範學校中學校高等女學校ニ關シテハ生徒用圖書實業學校ニ關シテハ普通學科目ノ生徒用圖書青年學校アルヘシ

ニ關シテハ修身及公民科普通學科ノ生徒用圖書トシ國民學校ニ關シテハ教師用圖書及兒童用圖書トス
前項ノ教師用圖書トハ教授スヘキ事項教授上ノ注意及應用ニ關スル事項等ヲ記載シタル圖書又ハ該圖書ニ附屬シテ兒童ニ示スヲ目的トスル掛圖類ヲ云フ

第二條 圖書ノ發行者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得但シ職業學校ノ專攻科並ニ高等科ノ教科用圖書ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ
（昭和七年十一月二十）（昭和十四年一月二）（昭和十六年三月二十）
（五日第一八號改正）（十一日第三號改正）（八日第一一號改正）

外國ニ於テ發行シタル圖書ハ左ノモノニ限り發行者ニ於テ其圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得
一、師範學校中學校高等女學校又ハ實業學校ニ於ケル外國語ノ教科用ヲ目的トスルモノ
（昭和七年十一月二十）（昭和十四年一月二）（昭和十六年三月二十）
（五日第一八號改正）（十一日第三號改正）（八日第一一號改正）

第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其ノ目的トスル所ノ學校一種毎ニ第一條第三項ノ掛圖類ハ二部ノ定價其ノ他ハ二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定圖書ニ添ヘ文部省ニ納ムヘシ但シ無料頒布ヲ目的トスル圖書ノ檢定手数料ハ文部省ノ指定スル所ニ據ル檢定ヲ得タル後定價ヲ増加シタルトキハ前項ノ例ニ準シ其ノ差額ヲ追納スヘシ
定價ヲ記載セサル圖書又ハ無料頒布ヲ目的トスル圖書ニシテ其ノ旨ヲ奥附ニ明記セサルモノハ之ヲ檢定セス
（昭和七年十一月二十五日）
（第一一八號改正）

第八條 檢定ヲ與ヘタル圖書ニシテ當該學科目及其ノ程度ノ變更教授要旨並ニ教授要目ノ制定又ハ變更アリタルトキハ該圖書ノ檢定ハ之ヲ取消スコトアルヘシ
（昭和七年十一月二十）
（五日第一八號改正）

第九條 檢定出願者ニシテ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ知ラントスルトキハ指令到達ノ日ヨリ六十日以内ニ關出ツヘシ
（明治三十二年四月第二三號）
（同四十年十月第三一號改正）

第十條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムヘシ但第四條ノ指示ヲ受ケテ修正ヲ加フル場合ハ此限ニアラス
（明治四十年十月）
（第三一號改正）

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後ハ其額下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セサルモノトス
（明治二十五年）
（三月第三號改正）

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖畫ヲ増減若クハ校訂シ又ハ枚數行數字體書形ヲ變更シ又ハ檢定圖書ニ添ヘ差出シタル圖書ニ比シ紙質印刷ヲ粗悪ニシ又ハ許解附錄序跋ヲ加除若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス
（明治三十年十月）
（同三十二年四月第三號改正）

第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ事項ヲ指示シタルトキハ一箇年以内ニ其額ヲ修正シテ該圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ此期限内ニ修正追願セサルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘズ
（明治二十五年三月第三號）
（同三十二年四月第二三號改正）

第十四條 檢定ヲ得タル圖書ハ每冊表紙又ハ扉ニ年月日文部省檢定濟何學校何學科用ノ文字ヲ記載スヘシ但國民學校教科用圖書ニ在リテハ仍兒童用教師用ノ別ヲ附記スヘシ
（大正十五年十一月二）（昭和十六年三月二十）
（十五日第三五號改正）（八日第一一號改正）

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價（無料頒布ナルトキハ其ノ旨）、目的トスル學校學科ノ種類、版權免許又ハ發行ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著者ノ氏名及發行者ノ住所氏名ヲ廣告スヘシ
（大正十五年十一月二）（昭和七年十一月二十）
（十五日第三五號改正）（五日第一八號改正）

第六條 檢定ノ效力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス
第七條 第五條ニ依リ廣告シタル圖書ノ冊數ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル圖書ノ定價ヲ變更シ若クハ無料頒布ノ圖書ニ定價ヲ附シ圖書中其ノ記載方ヲ變更シタルトキハ文部省ノ承認ヲ受クヘシ本項ノ承認ハ第五條ノ例ニ準シ官報廣告ヲ以テ之ヲ爲ス
第五條ニ依リ廣告シタル發行ノ年月日、著者ノ氏名及發行者ノ住所氏名等ニ異動ヲ生シ圖書中其ノ記載方ヲ變更シタルトキハ文部省ニ届出ツヘシ
前各項ニ該當スル圖書ハ官報ニ依リ承認又ハ届出ノ事項ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ效力ハ該圖書ニ及ハサルモノトス
（昭和七年十一月二十）
（十五日第一八號改正）

第二條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中項少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其額ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ
檢定ヲ與ヘタル圖書中修正ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ其ノ額ヲ發行者ニ指示シテ修正セシムルコトアルヘシ
發行者前項ノ指示ニ從ハサルトキハ其ノ圖書ノ檢定ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第四條第三項第六條第七條第八條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定済其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ發行シ又ハ情ヲ知リテ其圖書ヲ受託販賣スルコトヲ得ス
(明治二十八年五月第三號改正) (大正十五年十一月二十) (昭和七年十一月二十) (同三十年十月第一八號改正) (十五日第三五號改正) (五日第一八號改正)

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ百圓以内ノ罰金又ハ三月以下ノ禁錮ニ處ス
(昭和七年十一月二十) (五日第一八號改正)

第十七條 圖書ハ其全部揃ヒタルモノニアラサレハ檢定セズ
(明治二十九年四月) (第五號改正)

第十八條 第四條第三項第六條第七條第八條ニ依リ檢定ノ效力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定済其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ發行シタルトキハ原圖書ノ檢定ヲ取消スコトアルヘシ
(明治二十年十月第一八號改正) (大正十五年十一月二十) (同三十年十月第一八號改正) (十五日第三五號改正) (五日第一八號改正)

第十九條 第二條第二項ニ依リ檢定ヲ請フ者ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ檢定ニ關スル一切ノ事項ヲ代理セシメンカ爲ニ帝國内ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ
(明治三十二年四月) (第三號改正)

第二十條 代理人ヲ置ク場合ニ於テハ檢定出願ノ際委任狀寫ヲ差出スヘシ其外國語ヲ以テ認メタルモノニハ譯文ヲ添付スヘシ
(明治四十年十月) (第三號改正)

第二十一條 第三條第一項及第九條ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ
(明治三十二年四月) (第三號改正)

第二十二條 檢定ヲ得タル圖書ノ發行者ハ次學年ノ始ヨリ起算シ五箇年間其ノ圖書ノ供給ヲ止ムルコトヲ得ス但特別ノ事情アル場合ニ於テ文部省ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
(明治二十年十月第一八號改正) (十五日第三五號改正) (五日第一八號改正)

第二十三條 第十四條若クハ第十五條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケス若クハ届出ヲ了セスシテ圖書ノ供給ヲ止メタル者ノ發行ニ係ル圖書ニ對シテハ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ
(大正十五年十一月二十) (十五日第三五號改正)

第二十四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ甲號書式ニ依リ第十三條ニ依リ追願スル者ハ乙號書式ニ依リ又檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ丙號書式ニ依リ願出ツヘシ
(大正十五年十一月二十) (十五日第三五號改正)

附 則
 明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ハ廢止シ師範學校小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ニ關スル規則ヲ定ム
(昭和十六年三月二十八日第一號)

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 從前ノ規則ニ依リ檢定ヲ與ヘタル小學校教科用圖書ハ本規則ニ依リ國民學校教科用圖書トシテ檢定ヲ與ヘタルモノト看做ス
(甲號書式) (大正十五年十一月二十) (昭和七年十一月二十) (十五日第三五號改正) (五日第一八號改正)

檢定 國

(印紙貼附ノ場所)

圖書ノ卷册ノ記號著譯者ノ氏名	發行者ノ住所	目的トスル學校
名稱	數ノ氏名	氏名
年	月	日

右ノ圖書檢定相成度該圖書部及手数料金ニ相添ヘ此段相願候也

年 月 日 氏 名 印

文部大臣宛

(乙號書式) (大正十五年十一月二十) (昭和七年十一月二十) (十五日第三五號改正) (五日第一八號改正)

檢定 追願

圖書ノ卷册ノ記號著譯者ノ氏名	發行者ノ住所	目的トスル學校
名稱	數ノ氏名	氏名
年	月	日

右ハ年月日附檢定願出候處年月日ノ御指示ニ基キ今般修正發行致候間尙御檢定相成度該圖書部相願ヘ此段相願候也

年 月 日 氏 名 印

文部大臣宛

(丙號書式) (大正十五年十一月二十) (昭和七年十一月二十) (十五日第三五號改正) (五日第一八號改正)

修正 檢定 願

圖書ノ卷册ノ記號著譯者ノ氏名	修正發行ノ目的トスル學校	
名稱	數ノ氏名	
年	月	日

右ハ年月日檢定済ノ處修正發行致候間尙御檢定相成度該圖書部及手数料金ニ相添ヘ此段相願候也

年 月 日 氏 名 印

文部大臣宛

●國民學校及青年學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程第一條第二項ニ依ル發行會社ノ供給區域

(昭和五年六月三十日) (文部省告示第七十五號)

昭和十六年三月第三三五號改正
 明治四十二年文部省告示第二百五十四號國民學校及青年學校教科用圖書翻刻發行ニ關スル規程第一條第二項ニ依リ國民學校及青年學校教科用圖書翻刻發行會社ノ供給區域ヲ左ノ通り指定ス

日本書籍株式會社
 北海道廳 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣 茨城

栃木縣 群馬縣 東京府 新潟縣 富山縣 石川縣 長野縣
東京書籍株式會社

埼玉縣 千葉縣 神奈川縣 福井縣 山梨縣 岐阜縣 靜岡縣 愛知縣
三重縣 滋賀縣 京都府 鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣
福岡縣 熊本縣 大分縣 宮崎縣
大阪書籍株式會社

大阪府 兵庫縣 奈良縣 和歌山縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣
佐賀縣 長崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣
大日本圖書株式會社

北海道廳 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 福島縣 茨城縣 栃木縣
群馬縣 千葉縣 神奈川縣 新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣
山梨縣 長野縣 岐阜縣 三重縣 滋賀縣 京都府 兵庫縣 奈良縣
島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣
福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣 大分縣 宮崎縣

國民學校及青年學校教科用圖書

翻刻發行ニ關スル規程

(明治四十二年十月二日 文部省告示第二百五十四號)

沿革 明治四三年八月第二〇九號、四五年六月第一六一號、大正三年三月第三四號、四年三月第六二號、七年五月第一五六號、八年四月第七八號、五月第一五四號、一〇年四月第三三九號、一一年五月第四二五號、一三年四月第二二六號、昭和五年五月第一

五八號、一一年五月第三三四號、一五年二月第七八號、一六年三月第二〇四號改正

第一條 文部省ニ於テ著作權ヲ有スル國民學校及青年學校教科用圖書ハ本規程ニ基キ左記ニ依リ其ノ翻刻發行ヲ日本書籍株式會社、東京書籍株式會社、大阪書籍株式會社、大日本圖書株式會社ニ許可ス

日本書籍株式會社、東京書籍株式會社、大阪書籍株式會社
青年學校修身及公民科教科用圖書
大日本圖書株式會社

國民學校藝能科音樂及裁縫、實業科農業及商業、加設科目教科用圖書各會社ハ前項ノ圖書ヲ文部大臣ノ指定スル區域ニ供給スベシ

各會社ニ翻刻發行ヲ許可スル圖書ノ割合ハ文部大臣之ヲ指定ス但シ其ノ割合ハ必要ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ (昭和十六年三月七日 第二〇四號改正)

第二條 翻刻發行許可ノ期間ハ昭和十二年度所用分ヨリ以後六箇年トス但シ翻刻發行者ニ於テ此規定ニ違背シタルトキ若ハ其ノ信用缺乏シ又ハ其ノ業務株主ノ行動等ニシテ不都合アル場合ハ期限内ト雖モ許可ヲ取消スコトアルヘシ

翻刻發行者ハ許可滿期ノ場合ニ於テ繼續許可ヲ出願スルコトヲ得 (大正十年四月 第二三九號) (昭和五年五月十七日) (昭和十一年五月二十三年四月第二二六號改正) (第一五八號 改正) (六日第二三四號改正)

第三條 翻刻發行者ハ文部大臣ノ承認ヲ受クルニ非サレハ其ノ業務ヲ廢スルコトヲ得ス

翻刻發行許可滿期ニ至ルモ文部大臣ニ於テ必要ト認メタルトキハ二箇

年度以内業務ノ繼續ヲ命スルコトアルヘシ (昭和五年五月十七日 第一五八號 改正)

第三條ノ二 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ許可以外ノ業務ヲ行フコトヲ得ス但シ特ニ文部大臣ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラス (大正四年三月 第六二號追加)

第四條 各翻刻發行者ノ毎年發行スヘキ圖書ノ種類及冊數ハ文部大臣之ヲ指定ス但シ指定以前ニ於テ製造ニ着手セントスルトキハ其ノ種類及冊數ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ

翻刻發行者前項ノ指定ヲ受ケタルトキハ更ニ之ヲ各卷ニ分配シタル圖書ヲ製シ文部省ニ提出スヘシ (昭和五年五月十七日 第一五八號 改正)

第五條 翻刻發行者ニ於テ毎年發行スヘキ圖書ノ冊數ヲ變更セントスルトキハ事情ヲ具シ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ (昭和五年五月十七日 第一五八號 改正)

第六條 翻刻發行者其ノ工場、倉庫及事務所ノ設置又ハ變更ヲ爲サントスルトキハ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ (昭和五年五月十七日 第一五八號 改正)

第七條 翻刻發行者ハ耐震耐火ノ倉庫ヲ設ケ圖書ノ原版本ノ他重要ナル物品ヲ格納スヘシ (昭和五年五月十七日 第一五八號 改正)

第八條 翻刻發行者ハ道府縣内ニ少クトモ一箇ノ支店又ハ特約販賣所ヲ設ケ其ノ下ニ若干ノ取次販賣所ヲ置キ各其ノ供給區域ヲ劃定シ圖書供給ノ普及ヲ圖ルヘシ

前項ノ供給區域及販賣ニ關スル契約ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケヘシ (昭和五年五月十七日 第一五八號 改正)

第九條 文部大臣ニ於テ特約販賣所又ハ取次販賣所ヲ不適當ト認メタルトキハ翻刻發行者ニ對シ之ヲ廢止又ハ變更ヲ命スルコトヲ得 (昭和五年五月十七日 第一五八號 改正)

第十條 削 除 (昭和五年五月十七日 第一五八號)

第十一條 圖書ノ定價及用紙ノ標準ハ別ニ之ヲ告示ス

第十二條 翻刻發行者ハ各國書ノ見本三部ヲ文部省ニ提出シ檢定ヲ受ケヘシ

圖書ハ前項ノ檢定ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

第十三條 圖書ノ文字大小、圖畫、卷數、枚數、頁數、行數及每行數ノ字數其ノ他圖書ノ種類ニ依リ特ニ定ムル事項ハ文部省ノ見本同一ナルコトヲ要ス

第十四條 文部省ニ於テ圖書ノ見本ノ修正ヲ加ヘタルトキハ特ニ定ムル期限後ハ從前ノ見本ニ依リテ翻刻シタル圖書ヲ販賣スルコトヲ得ス

修正圖書ハ第十二條ノ規定ニ準シ檢査ヲ經タル上ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス

第十五條 圖書ノ用紙、印刷及製本ハ第十二條第一項ノ檢査ヲ經タル見本同一ナルコトヲ要ス

第十六條 圖書ニハ各冊尾ニ第十二條第一項ノ檢査濟年月日及定價ヲ記載スヘシ

第十七條 翻刻發行者ハ翻刻發行許可手数料トシテ發行圖書一冊毎ニ金

參 錄
印 紙

保證金納付書

金何圓也 保證金額
但シ何々金庫第何號保管證書ノ通

外ニ

- 一 質權設定書 何通
- 一 第三債務者ノ通知ノ請書(又ハ承諾書) 何通
- 一 何々(質權設定ニ關シ必要ナル書類アルトキ) 何通

右納付候也

住所

教科用圖書翻刻發行人 何 某 印

(第三者ヨリ質權ノ設定ヲナシタルトキハ連署ヲ要ス)

文部大臣官房會計課長宛

(第三號書式)

應金高
印 紙

質權設定證書

一 何圓券何々公債證書 何枚
何第何番 自何第何番至何第何番

右ハ拙者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候

ニ付質權設定候他
又ハ

右ハ拙者ノ所有ニ有之候處何縣何郡市何町村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付シ質權設定候也

(記名ノ例)

- 一 何誰記名何圓券何々公債證書 何枚
 - 一 何第何番 自何第何番至何第何番
- 右ハ拙者ノ所有ニ有之候處教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付質權ヲ設定シ第三債務者ヘ通知ノ證(又ハ承諾書)添付候也

又ハ

右ハ拙者ノ所有ニ有之候處何縣何郡市何町村何番地何某ノ爲ニ教科用圖書翻刻發行ノ保證金トシテ納付候ニ付質權ヲ設定シ第三債務者ヘ通知ノ證(又ハ承諾書)添付候也

年月日

住所

教科用圖書翻刻發行人(又ハ第三者) 何 某 印

文部大臣官房會計課長宛

備考

- 一 公債證書ノ種類 券面額毎ニ區分列記スルモノトス
- 一 記名ト無記名及質權設定者ノ異ナル毎ニ別紙ニ調製スルモノトス

附 則

昭和十五年度小學校所用分圖書翻刻發行ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

●教員檢定ニ關スル規程第五條第九號 ニ依ル認定ニ關スル規則

(明治四十二年二月九日
文部省令第四號)

大正一〇年三月第一五號、昭和一六年三月第八號改正

第一條 師範學校中學校高等女學校教員檢定規程第五條第九號ニ依リ文部大臣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ學校設立者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若ハ其ノ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 一名 稱
 - 二位 置
 - 三 學 則
 - 四 學校長教員ノ氏名、出身別、分擔學科
 - 五 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數
 - 六 卒業生ノ員數(年度別)及卒業後ノ情況
 - 七 校地、校舍ノ圖面
 - 八 經費及維持ノ方法
 - 九 學校財産ノ總額
 - 十 教科書、教授用具、器械及標本目錄
- (昭和十六年三月二十八日
第八號 改正)
- 第二條 認定ヲ爲スヘキ學校ハ設立後五箇年ヲ經過シ其ノ管理及維持ノ

方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

- 一 國民學校初等科修了者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ修業年限四箇年以上
- 二 國民學校高等科修了者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ入學資格トスル學校ニ在リテハ修業年限二箇年以上

(昭和十六年三月二十八日
第八號 改正)

第三條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第一條第一號、第二號、第七號及第八號ノ事項ニ變更アリタルトキハ文部大臣ニ開申シ第三號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

(大正十年三月
第一五號改正)

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條第一號第二號ノ要件ニ該當セサル生徒ヲ入學セシムルトキハ其ノ生徒ニ特定ノ名稱ヲ附シ且其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但シ認定ノ效力ハ本文ノ生徒ニ及ハス

第五條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ認定ノ效力ヲ受ケル生徒ヲ卒業セシメタルトキハ直ニ其ノ族籍氏名及生年月日ヲ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此ノ規則ニ違背シ又ハ其ノ成績不具ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ認定ヲ取消スコトアルヘシ

第七條 此ノ規則ニ依リ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ
地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ提出スヘシ

附 則 (大正十年三月第一五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

スベシ

前項ノ認定ヲ受ケタル者ハ少年救護法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ他ノ法令ノ適用ニ關シ夫々之ヲ國民學校初等科ヲ修了シタル者、國民學校高等科第一學年ヲ修了シタル者及國民學校高等科ヲ修了シタル者ト看做ス

第七條 少年救護院ニ於テハ其ノ規模ニ相當スル院舎、院地、實習場、體操場及器具ヲ備フベシ
院舎、院地、實習場、體操場及器具ハ救護ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第八條 少年救護法第七條ノ規定ニ依ル少年救護法ニ於テ救護ヲ掌ル職員ハ道府縣立少年救護員ノ救護又ハ保婦ト爲ル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ採用スベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ救護ヲ掌ルニ適當ト認めラル、者ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 少年救護委員ハ地方長官之ヲ選任シ又ハ解任ス
少年救護委員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ四年トス但シ特別ノ事由アルトキハ任期中ト雖モ之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ
少年救護委員ハ市町村(町村ニ準ズルモノヲ含ム)ノ區域ニ依リ其ノ職務ヲ行フヲ例トス

第十條 少年救護法第十九條ノ規定ニ依リ道府縣ノ負擔シタル費用ニ對スル國庫補助ハ道府縣ガ同條ノ規定ニ依リ負擔スベキ費用ノ各年度ニ於ケル支出額ヨリ其ノ年度ニ於テ同法第十六條ノ規定ニ依リ徵收シタル金額及其ノ支出ニ充ツベキ寄附金其ノ他ノ收入ヲ控除シタル積算額ニ對シ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ爲ス

一六

一 少年救護院又ハ少年鑑別機關ノ創設費、擴張費及之ニ伴フ初年度ノ費用
二分ノ一

二 其ノ他ノ諸費 六分ノ一
前項ノ規定ニ依リ控除スベキ金額ガ道府縣ガ少年救護法第十九條ノ規定ニ依リ負擔スベキ費用ノ其ノ年度ニ於ケル支出額ヲ超過シタル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ後年度ニ於ケル支出額ヨリ之ヲ控除ス

第十一條 少年救護法第七條ノ規定ニ依ル少年救護院ヲ設置シタル者ノ支出シタル費用ニ對スル國庫補助ハ各年度ニ於テ支出シタル左ニ掲グル費用ニ付其ノ支出額ヨリ其ノ年度ニ於テ之ニ充ツベキ寄附金其ノ他ノ收入ヲ控除シタル積算額ニ對シ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ爲ス

一 少年救護院又ハ少年鑑別機關ノ創設費、擴張費及之ニ伴フ初年度ノ費用
少年救護法第八條ノ規定ニ依リ入院セシムベキ者ノ爲リ利用セラルベキ程度ヲ標準トシテ算出シタル額ノ二分ノ一

二 少年救護院又ハ少年鑑別機關ノ職員ノ俸給其ノ他ノ事務費、建物ノ維持修繕費及之ノ他ノ管理費
少年救護法第八條ノ規定ニ依リ入院セシメタル者ノ爲リ利用セラルベキ程度ヲ標準トシテ算出シタル額ノ六分ノ一

前項第二號ノ諸費ハ少年救護院ノ費用中少年救護法第八條ノ規定ニ依リ入院セシメタル者ノ爲リ利用セラルベキ程度ヲ標準トシテ算出シタル額ヨリ其ノ者ノ委託ニ關スル費用トシテ道府縣ノ支出シタル額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ズ
前條第二項ノ規定ハ本條ノ國庫補助ニ之ヲ準用ス
第十二條 前二條ノ規定ニ依リ少年救護院又ハ少年鑑別機關ノ創設費、

●教育基金令 (大正三年十二月十二日勅令等二百五十九號)

沿革 昭和〇年一月第二號、一六年三月第三四號改正
朕教育基金令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金令

第一條 教育基金令ハ本令ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 教育基金ハ文部大臣ニ於テ其ノ一部ヲ前前年度末現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道及府縣ニ配布シ他ノ一部ヲ普通教育ノ普及改善ニ關シ必要ト認めル費用ニ使用ス

第三條 北海道及府縣ハ前條ノ配付金ヲ以テ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ
教育資金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第五條 教育資金ハ左ノ各號ノ使途ニ用ウルモノトス

- 一 國民學校設備費ノ貸付
- 二 國民學校職員ノ疾病療治料
- 三 國民學校職員ノ獎勵其ノ他地方長官ニ於テ普通教育ノ普及改善ニ關シ必要ト認めル費用

(昭和十六年三月三十一日 第三四號 改正)

第六條 前條第一號ノ規定ニ依リ使用スル教育資金ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ國民學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充ツル爲之ヲ市町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體ニ貸付ス
前項ノ貸付金ニ對シテハ一年百分ノ五ノ利子ヲ附セシムヘシ但シ特別

一七

擴張費又ハ之ニ伴フ初年度ノ費用ニ對シ國庫補助ヲ受ケントスル者ハ豫メ其ノ設備ニ關スル計畫ニ付内務大臣ノ認可ヲ受タルコトヲ要ス

第十三條 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ國庫補助ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ補助金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

- 一 少年救護法若ハ同法ニ基キテ設スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
- 二 少年救護院若ハ少年鑑別機關ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ其ノ設備ヲ當初豫定シタル目的以外ノ用途ニ利用スルニ至リタルトキ

第十四條 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
詐欺ノ手段ヲ以テ補助金ノ交付ヲ受ケタルトキ

第十四條 第二條第二項、第五條第二項及第六條ノ規定ニ依リ少年救護院長ニ於テ定ムベキ事項ハ少年救護法第七條ノ規定ニ依リ少年救護院ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受タルコトヲ要ス

附 則

本令ハ少年救護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ代用感化院ニ於テ救護ヲ掌ル職員ニシテ第八條ニ定ムル資格ヲ有セザルモノニ付テハ少年救護法附則第四項ノ少年救護院ニ於テ同條但書ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ採用シタルモノト看做ス

ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ利率ヲ一年百分ノ四迄減スルコトヲ得

第七條 地方長官ハ教育資金使用ニ關スル規程ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケハシ

●國民學校教育費國庫補助法第三條ノ國民學校訓導ノ數算出ニ關スル件

(明治四十二年三月十八日) 文部省令 第九號

沿革 昭和五年六月第一六號、一六年三月第九號改正
國民學校教育費國庫補助法第三條ノ國民學校訓導數及國民學校訓導ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤務スル教員數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月一日ニ於ケル現在數ニ依ル

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十六年度及昭和十七年度ニ於ケル國庫補助金配賦ノ基礎數ノ算定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●北海道廳視學官、地方視學官、北海道廳視學府縣視學ノ任用ニ關スル件

(昭和三年三月八日) 勅令 第二十六號

昭和十六年三月三四號

第一條 北海道廳視學官及地方視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試驗委員ノ銜ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

一 二年以上官公立ノ大學、高等師範學校、女子高等師範學校、高等學校、專門學校、實業專門學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校其ノ他文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ノ兼任官若ハ兼任官待遇以上ノ校長、教官若ハ教員又ハ教育事務ニ從事スル兼任官若ハ兼任官待遇以上ノ職員ノ職ニ在リタル者

二 二年以上私立ノ大學ノ校長若ハ專任教員又ハ私立ノ高等學校、專門學校、實業專門學校其ノ他文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ノ校長ノ職ニ在リタル者又ハ二年以上高等學校教員免許狀ヲ有シ若ハ專門學校令ニ依ル教員ノ資格ヲ有シ私立ノ高等學校高等科、專門學校、實業專門學校、高等女學校高等科其ノ他文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ノ專任教員ノ職ニ在リタル者

三 四年以上北海道廳視學又ハ府縣視學ノ職ニ在リテ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者

四 五年以上第一號ノ學校ノ判任官若ハ判任官待遇ノ校長、教官若ハ教員又ハ教育事務ニ從事スル判任官若ハ判任官待遇ノ職員ノ職ニ在

要ノ在職年數ヲ異ニスル各職ノ在職年數ヲ通算スル場合ニ於テハ甲職ノ在職年數ノ其ノ職ノ所要年數ニ對スル比率ヲ乙職ノ所要年數ニ乘ジテ得タル年數ヲ甲職ノ在職年數トシ之ヲ乙職ノ在職年數ニ通算ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百六十號ハ之ヲ廢止ス
從前ノ規定ニ依リ北海道廳視學又ハ府縣視學ニ任用セラレタル者ハ本令第二條ノ規定ニ拘ラズ北海道廳視學又ハ府縣視學ニ之ヲ任用スルコトヲ得

リテ月額八十五圓以上ノ俸給ヲ受ケタル者

五 五年以上高等學校教員免許狀若ハ教員免許令ニ依ル教員免許狀ヲ有シ又ハ專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル教員ノ資格ヲ有シ私立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校(實業專門學校ヲ除ク)其ノ他文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ノ校長又ハ專任教員ノ職ニ在リタル者

第二條 北海道廳視學及府縣視學ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ普通試驗委員ノ銜ヲ經テ之ヲ任用ス

一 二年以上前條第一號ノ學校ノ判任官又ハ判任官待遇以上ノ校長、教官又ハ教員ノ職ニ在リタル者

二 前條第二號ニ該當スル者又ハ二年以上前條第五號ノ教員免許狀若ハ教員ノ資格ヲ有シ同號ノ職ニ在リタル者

三 二年以上高等學校教員免許狀若ハ教員免許令ニ依ル教員免許狀ヲ有シ又ハ專門學校令若ハ實業學校令ニ依ル教員ノ資格ヲ有シ國民學校(文部大臣ニ於テ之ト同等ト認ムル學校ヲ含ム以下同シ)ノ職員ノ職ニ在リタル者

四 三年以上國民學校ノ全教科ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル訓導タル資格ヲ有シ國民學校教員ノ職ニ在リタル者又ハ三年以上教育事務ニ從事スル判任官若ハ判任官待遇以上ノ職員ノ職ニ在リタル者

五 四年以上國民學校訓導(國民學校ノ全教科ニ付兒童ノ教育ヲ掌ル訓導ヲ除ク)タル資格ヲ有シ國民學校教員ノ職ニ在リタル者

(昭和十六年三月三十一日) 勅令 第三十四號 改正

第三條 前二條中同條ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス但シ所

●國民學校職員加俸令

(明治三十三年三月三十一日) 勅令第三百三十三號

沿革 昭和一六年三月三四號

第一條 北海道地方及府縣ノ國民學校教育費國庫補助法第三條ノ下附金ヲ以テ國民學校職員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ前項ノ資金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條 國民學校職員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正 (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正

第三條 國民學校職員(國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員ヲ除ク)ニシテ五箇年以上同一府縣内ノ國民學校ニ勤務シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認めタルモノニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ訓導及養護訓導ニ在リテハ年額二十四圓乃至六十圓、准訓導ニ在リテハ年額十二圓乃至二十四圓トシ年功加俸ヲ受ケタル後勤課五年ヲ加フル毎ニ訓導及養護訓導ニ在リテハ年額十二圓乃至十五圓ヲ加フルコトヲ得 (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正 (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正

第四條 兵役ニ服スル爲其職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤課年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受ケル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其額同法ニ依リ受ケル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤務スル間其ノ差額ヲ加給ス

附 則 (昭和十六年勅令第一四八號)

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受ケタル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ年額百圓以上ノ場合ニ在リテハ其ノ百分ノ九十六ノ額ヲ年額百圓未満ノ場合ニ在リテハ其ノ百分ノ九十八ノ額ヲ受ケ但シ左ノ制限ニ依ル

一 第三條ニ規定スル初給最多年額ト改正加給ノ最多年額ニ其ノ加給セラレタル回数(加給金額更正ノ場合ヲ含マス、以下同シ)ヲ乘シテ得タル額トノ合計額ヲ超エ又ハ第三條ニ規定スル初給最少年額ト改正加給ノ最少年額ニ其ノ加給セラレタル回数ヲ乘シテ得タル額トノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス

二 百圓未満ノ場合ニ在リテハ年額九十六圓ヲ超ユルコトヲ得ス

三 本條ト合シテ年額千六百四十四圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ計算スル金額圓位未満ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
前二項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受ケタル者ニシテ其ノ年功加俸ト本條トノ合計額カ年額千六百四十四圓未満ノモノニハ之ヲ適用セス

前項ニ規定スル者ハ第三條ノ改正規定ニ拘ラス現ニ受ケル年功加俸ヲ受ケルモノトス

第五條 道廳府縣視學、島廳部視學及師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤課年數ニ通算ス

第六條 年功加俸ヲ受ケタル者最長處分ヲ受ケタルトキハ年功加俸ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

年功加俸ヲ受ケタル者ニシテ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認めタルトキハ年功加俸ノ支給ヲ止ム

第七條 國民學校ノ訓導ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額六十圓以下ノ特別加俸ヲ給ス

國民學校ノ訓導ニシテ多級學校ノ四以上ノ學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ年額四十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

僻地ノ國民學校ニ勤務スル訓導及養護訓導ニハ年額三十六圓以下、准訓導ニハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依リ特別加俸ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

同一道府縣内ニ於テ僻地ノ國民學校ニ五年以上勤務スル者ニハ前三項ニ依リ特別加俸ノ外訓導及養護訓導ニ在リテハ年額三十六圓以下、准訓導ニ在リテハ年額十八圓以下ヲ加給ス (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正 (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正

第八條 削除 (昭和十六年三月三十一日第三四四號改正)

第九條 國民學校職員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正 (昭和十六年三月三十一日) 第三四四號改正

附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民學校職員ノ俸給旅費其ノ

他ノ諸給與ニ關スル件

(昭和十五年四月一日) 勅令第二百四十一號

昭和十六年三月三四號

朕大正八年勅令第三百四十號國民學校職員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方長官ハ當分ノ内市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ對シ國民學校職員ノ旅費(兼任ノ場合ニ支給スル旅費ヲ除ク)其ノ他諸給與ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

市制又ハ町村制ヲ施行セザル地域ニ於ケル市町村ニ準ズベキ公共團體及其ノ組合ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二號ハ之ヲ廢止ス

義務教育費國庫負擔法施行令

(昭和十五年四月一日)
勅令 第二百四十號

昭和十六年三月第三四號改正

朕義務教育費國庫負擔法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

義務教育費國庫負擔法施行令

第一條 義務教育費國庫負擔法第二條ノ規定ニ依リ北海道地方費及府縣ニ交付スル國庫負擔金ノ概算拂ハ毎年度四月、七月、十月及一月ニ於テ之ヲ行フ

第二條 義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依リ國民學校職員ヨリ除ク者ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 養護訓導

二 特修科ノ教科ノミヲ教授スル訓導、准訓導又ハ國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員

三 特修科ノ教科及初等科又ハ高等科ノ教科ヲ教授スル國民學校令第十九條ノ規定ニ依ル職員ニシテ特修科ノ教科ヲ教授スル時數ガ總教授時數ノ二分ノ一ヲ超ユルモノ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年勅令第三百十七號及昭和七年勅令第四百四號ハ之ヲ廢止ス

義務教育費國庫負擔法施行規則

(昭和十五年四月二十三日)
文部大臣省令 第一號

昭和十六年三月第一號改正

義務教育費國庫負擔法施行規則左ノ通定ム

義務教育費國庫負擔法施行規則

第一條 義務教育費國庫負擔法施行令第一條ノ規定ニ依ル毎回ノ概算拂ノ金額ハ左ノ如シ

一 四月ニ交付スル金額ハ前年度二月ニ於ケル國民學校職員俸給月額ノ三倍額ノ半額トス

二 七月ニ交付スル金額ハ六月ニ於ケル國民學校職員俸給月額ノ三倍額ノ半額トス但シ前回ノ國庫交付金ニシテ四月ヨリ六月迄ノ國民學校職員俸給支出額ノ半額ニ達セザルトキハ其ノ不足額ヲ加ヘタル額トシ、超過額ルトキハ其ノ超過額ヲ控除シタル額トス

三 十月ニ交付スル金額ハ九月ニ於ケル國民學校職員俸給月額ノ三倍額ノ半額トス但シ前回迄ノ國庫交付金ニシテ四月ヨリ九月迄ノ國民學校職員俸給支出額ノ半額ニ達セザルトキハ其ノ不足額ヲ加ヘタル額トシ、超過額ルトキハ其ノ超過額ヲ控除シタル額トス

四 一月ニ交付スル金額ハ其ノ年度國民學校職員俸給精算見込額ノ半額ヨリ前三回ノ國庫交付金ヲ控除シタル額トス

第二條 前條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付シタル金額ニ付テハ翌年度四月

(昭和十六年三月三十一日)
第一號 改正

中ニ精算スルモノトス

附 則

本令ハ交付ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十六年三月三十一日第一號)

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
但シ昭和十六年四月ニ交付スル金額ハ昭和十六年二月ニ於ケル市町村立尋常小學校ノ職員俸給月額ノ三倍額ノ半額トス

義務教育費國庫負擔法施行規程

(昭和十五年四月二十七日)
文部省訓令 第十七號

北海道廳 府縣

昭和十六年三月第一〇號改正

義務教育費國庫負擔法施行規程左ノ通定ム

義務教育費國庫負擔法施行規程

第一條 地方長官ハ義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依ル職員(以下負擔法ニ依ル職員ト謂フ)ノ毎月ノ俸給精算額ヲ左ノ各號ニ依リ調査シ第一號表ノ様式ニ依リ翌月五日限り之ヲ文部大臣ニ報告スベシ

一 削除 (昭和十六年三月二十九日第一〇號)
二 國民學校ノ學校長ハ之ヲ負擔法ニ依ル職員トシテ調査スルコト
三 職員ノ教授スル教科及其ノ時數ハ毎週教授時間割ニ依リ調査スルコト

一七五

四 削除 (昭和十六年三月二十九日第一〇號)

五 職員ニシテ他ヨリ負擔スルモノハ義務ノ學校ニ於テハ之ヲ負擔法ニ依ル職員トシテ調査ヨリ除外スルコト

六 職員ニシテ現役國民學校職員俸給費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依ルモノハ之ヲ負擔法ニ依ル職員トシテ調査ヨリ除外スルコト

七 職員ニシテ兼任又ハ毎週教授時間割ノ變更等ニ依リ負擔法ニ依ル職員ニ該當セザルニ至リタルトキハ其ノ翌日ヨリ之ヲ負擔法ニ依ル職員トシテ調査ヨリ除外スルコト

八 職員ニシテ新任、轉任又ハ毎週教授時間割ノ變更等ニ依リ負擔法ニ依ル職員ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ翌日ヨリ之ヲ負擔法ニ依ル職員トシテ調査スルコト

(昭和十六年三月二十九日)
第一〇號 改正

第二條 地方長官ハ國民學校職員俸給費ニ關スル前年度ノ決算ヲ毎年六月三十日迄ニ、翌年度ノ豫算ヲ毎年一月三十一日迄ニ第二號表ノ様式ニ依リ之ヲ文部大臣ニ報告スベシ

第三條 地方長官ハ國民學校職員ノ初任給並ニ増俸ニ關スル内規ヲ變更セントスル場合ニハ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クベシ

第四條 地方長官ハ負擔法ニ依ル職員ノ増俸ヲ爲ス場合ニハ第三號表ノ様式ニ依リ調査シ豫メ之ヲ文部大臣ニ報告スベシ

第五條 地方長官ハ國民學校職員ニ關スル事務ヲ調整シ毎月其ノ月ノ職員及其ノ俸給ノ區分ヲ明カニスベシ

附 則
大正十二年文部省訓令第十六號ハ之ヲ廢止ス

一七六

調査上ノ注意

- 一、本表ハ毎年別表「(第一號表ノ一)六月支給額」ノミニ添付シ其ノ他ノ月ニハ添付ヲ要セザルコト
- 二、准調及助教ノ等級区分ハ府縣知事ノ定メタル等級区分ハ從ヒ計上スルコト

(第一號表ノ三)

義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依ル職員ノ俸給費精算額ニ關スル額
昭和 年 月支給額ノ前月支給分ニ比シ増減事由別内譯

區分	同上月増減額ノ關係員數					備考
	(1) 増	(2) 減	(3) 助	(4) 教	(5) 計	
(一) 左ノ合計ニ依ル差引増減(△印ハ減)						
(二) 前月分ニ比シ増加シタルモノノ合計						
(三) 前月分ニ比シ減少シタルモノノ合計						
内譯						
(四) 増加事由別内譯						
1 新ニ任用又ハ採用						

7 其ノ他	6 休職	5 應召職員ノ入職又ハ軍給與金ノ増加	4 給與金ノ規定改當	3 現行國民學校職員俸給ノ規定改當	2 更ニ基ク職員區分ノ異動	1 毎週教授時間割ノ變更

調査上ノ注意

- 一、本表ハ毎年自五月至三月ノ別表「(第一號表ノ一)各月支給額」ニ添付スルコト
- 二、本表ノ「(一)左ノ合計ニ依ル差引増減」欄ノ全額ハ別表「(第一號表ノ一)ノ當該欄ト一致スベキモノナルコト
- 三、「其ノ他」ノ内譯ヲ備考欄ニ記載スルコト

(第一號表ノ四)

義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依ル職員ノ俸給費精算額ニ關スル額
昭和 年度各月別職員俸給費ト國庫負擔金トノ比較

區分	負擔法ニ依ル職員ノ俸給費		同上ニ對スル國庫負擔金		備考
	(1) 支給額	(2) 見込額	(3) 交付額	(4) 累計額	
四月					
五月					
六月					
七月					
八月					
九月					
十月					
十一月					
十二月					
一月					
二月					
三月					

調査上ノ注意

- 一、本表ハ別表「(第一號表ノ一)」ニ毎月必ず添付スルコト

(第二號表ノ二)
昭和 年度國民學校職員俸給決算ニ關スル調
二、負擔法ニ依ル職員ノ俸給額ハ過去ノ月ニ屬スル分ハ支給額ヲ、將來ノ月ニ屬スル分ハ見込額ヲ計上スルコト
三、過去ノ月ニ屬スル支給額ハ別表「(第一號表ノ一)」當該月働ト一致スベキモノナルモ別表「(第一號表ノ一)」提出後ニ至リ誤開脱漏等發見ノ爲全額ニ異動ヲ生ジタル場合ハ本表ニハ必ズ之ヲ訂正計上シ別表「(第一號表ノ一)」トノ相異理由ヲ計數ヲ以テ備考欄ニ詳記スルコト

科	目	其ノ年		比	備考
		度	度		
國民學校職員俸給	國民學校職員俸給	額	額	増	備考
		減	減	減	
内 負擔法ニ依ル職員俸給	其ノ他ノ職員俸給	額	額	増	備考
		減	減	減	

調査上ノ注意
一、備考欄ニハ各其ノ年度豫算額ノ計上ノ基礎トナリタル計數及其ノ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ計數ヲ以テ記載スルコト
二、内課ハ道府縣ニテ推定計上スルコト
三、豫算額ヲ追加更生シタル場合ハ本表ニ準ジ通稱ナク報告スルコト

内 課	六大都市			其ノ他ノ市部計		
	調 導	助 教	准 調	調 導	助 教	准 調
人						
年 月 日						

(第二號表ノ二)
昭和 年度國民學校職員俸給決算ニ關スル調

科	目	其ノ年		比	備考
		度	度		
國民學校職員俸給	國民學校職員俸給	額	額	増	備考
		減	減	減	
内 負擔法ニ依ル職員俸給	其ノ他ノ職員俸給	額	額	増	備考
		減	減	減	

調査上ノ注意
一、備考欄ニハ豫算額ニ比シ決算額ノ増減理由ヲ可成計數ヲ以テ記載スルコト
二、内課中ノ負擔法ニ依ル職員俸給ハ盡ニ報告シタル別表「(第一號表ノ四)」當該年度表ト一致スベキモノナルコト
(第三號表)
義務教育費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依ル職員ノ増俸ニ關スル調

合 計	立者別	分 區		人	備考
		職 務	職 員		
(1)	資格前	同	同	(6)	備考
(2)	額月俸	同	同	(7)	
(3)	額月俸	同	同	(8)	
(4)	額月俸	同	同	(9)	
(5)	額月俸	同	同		
(6)	額月俸	同	同		
(7)	額月俸	同	同		
(8)	額月俸	同	同		
(9)	額月俸	同	同		

町村部計	
調 導	助 教

調査上ノ注意
一、月俸額欄ニハ等級ヲモ併記スルコト
三、本表各欄ノ(1)、(2)、(3)、……等ハ照會略號トス

●國民學校職員住宅費補助ニ關スル規程 (明治四十年九月二十六日 文部省令第三十號)

沿革 明治四一年五月第一九號、昭和一六年三月第一三號改正
國民學校職員住宅費補助ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ
國民學校職員住宅費補助ニ關スル規程
第一條 明治四十年勅令第二百十七號第二條ニ依リ北海道地方及府縣ニ於テ國民學校職員住宅費ニ補助スル場合ハ本令ノ規定ニ依ルヘシ
(昭和十六年三月二十九日 第一一三號改正)
第二條 住宅費補助ハ職員ノ住宅ヲ建設シ又ハ職員ニ住宅料ヲ給與シ若ハ職員ニ住宅ヲ供給スル爲賃借料ヲ支拂フ場合ニ於テ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル之ニ準

スヘキモノニ對シテ之ヲ爲スモノトス

前項補助ノ歩合及條件故補助金交付ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 住宅費補助金ノ種額ハ國民學校職員加給令ニ依ル加給費金ニ編入スヘシ
(昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

第四條 附則 (昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

附則 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民學校職員疾病療治料給與ニ

關スル準則

(大正四年四月八日 文部省令第八號)

昭和十六年三月二十九日第一三號改正

國民學校職員疾病療治料給與ニ關スル準則左ノ通定ム

第一條 國民學校職員疾病療治料給與ニ關スル準則
第一條 教育基金令第五條第二號ノ國民學校職員疾病療治料ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ給スヘシ
(昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

第二條 國民學校職員ニシテ兒童ノ衛生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾病ニ罹リ休職ヲ命セラレタル者ニハ勤続年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ百圓以上

貳百五十拾圓以下ノ疾病療治料ヲ給スヘシ
(昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

第三條 國民學校職員ニシテ兒童ノ衛生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾病ニ罹リ退職ヲ命セラレタル者ニハ勤続年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ貳百圓以上四百圓以下ノ疾病療治料ヲ給スヘシ但シ休職期間中退職ヲ命セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
(昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

第四條 國民學校職員ニハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ疾病療治料ノ額ハ休職ノ場合ニハ五百拾圓以上五百五十拾圓以下退職ノ場合ニハ五百拾圓以下トス
(昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

第五條 國民學校助教ニシテ第三條ニ準スヘキ者ニハ勤続年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ百圓以下ノ疾病療治料ヲ給スヘシ
(昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

第六條 地方長官ニ於テ本令ニ依リ國民學校職員ニ對シ疾病療治料ヲ給セントスルトキハ學校醫又ハ其ノ他ノ醫師ヲシテ該職員ノ身體検査ヲ行ハシメ診斷書ヲ徴スヘシ
(昭和十六年三月二十九日第一三號改正)

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●現役國民學校教員俸給費國庫負擔法第一條ノ教員ニ關スル件

(昭和十六年三月二十七日 兵學第七〇二號事務部長通牒)

神戸市長 各市町村立小學校 宛

標記ノ件ニ關シテハ昭和十六年四月一日以後左記ノ現役國民學校教員俸給費國庫負擔法實施要項ニ依リ必要手續履行相成度

尙本年二月十五日兵學第二七〇號通牒中五、現役小學校教員俸給費所要見込額調ニ關スル事項ハ本年度限ノモノト御了知相成度念ノ爲申添フ

記

現役國民學校教員俸給費國庫負擔法實施要項

第一 現役國民學校教員俸給費國庫負擔法第一條ノ教員(以下負擔法ノ現役教員ト謂フ)ハ入管前ニ勤務セル國民學校ノ現職教員トシテ現職給ヲ支給ス

第二 服役中ノ負擔法ノ現職教員ニ付テハ本人ガ國民學校教員トシテ受クベキ俸給額ヨリ其ノ三分ノ二ニ相當スル額(繰未滿切捨)及陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ受クル俸給額(本俸)ノ合算額ヲ減ジタル殘額ヲ支給ス

第三 負擔法ノ現職教員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ當然以テ前項ヲ適要ス

休職トシ翌月分ヨリ休職給ヲ支給ス

一、志願ニ依リ陸軍現役下士官ニ任セラレタル者

二、海軍志願兵

二、兵タル下士官候補者、憲兵上等兵、憲兵教習兵、軍樂上等兵及現役下士官又ハ憲兵上等兵タラント志願シ現役ノ期間ヲ延長セラレタル者

前項ニ依ル休職者ニ付テハ俸給ノ三分ノ一(繰未滿切捨)ヨリ本人ガ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ受クル俸給額(本俸)ヲ控除シタル殘額ヲ支給ス

第四 負擔法ノ現職教員ハ入管後三日以内ニ左記事項ヲ具シ學校長經由學務課長(神戸市ニ在リテハ市長)ニ報告スベシ

一、卒業セル師範學校名及卒業年度(本科第一部第二部ノ別明記ノコト)

二、在職國民學校名及本人ノ職氏名並ニ生年月日

三、徵集年、徵兵検査等位

四、所屬部隊名及階級

五、入管年月日

六、陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ受クル俸給額(本俸)

七、入管セル月ノ軍給與方日割計算法ニ依リ支給サレタルトキハ其ノ實額

前項ニ依ル報告事項ニ異動アリタルトキ亦同ジ

第五 國民學校長ハ負擔法ノ現職教員タリシ者(「第三」ニ依ル當然休職者ヲ含ム)歸任シタルトキハ三日以内ニ別記様式第一號ニ依リ歸任

四、備シ、學務課長（神戸市ニ在リテハ市長）ニ提出スベシ
 第六、負擔法ノ現役教員擔任シタルトキハ擔任ノ事由發生シタル日ノ翌日分ヨリ日割計算法ニ依リ傳給全額ヲ支給ス
 第七、國民學校長ハ負擔法ノ現役教員ノ傳給支給ニ付テハ其ノ校全教員ニ係ル毎月ノ傳給支拂調書ニ補上スベシ
 第八、國民學校長ハ毎年四月十五日迄ニ其ノ前年ニ於テ施行シタル師範學校ヲ卒業シタル國民學校調書ノ徵兵検査ノ成績ヲ別記様式第二號ニ依リ學務課長（神戸市ニ在リテハ市長）ニ報告スベシ
 第九、國民學校長ハ毎年五月十五日迄ニ其ノ月一日現在ニ依リ調査シタル師範學校ヲ卒業シタル國民學校調書ニシテ其ノ年徵兵検査ヲ受タベキ者ヲ別記様式第三號ニ依リ學務課長（神戸市ニ在リテハ市長）ニ報告スベシ
 第十、神戸市長ハ本要項ニ依ル報告ヲ取調ノ上通稱ナク學部部長ニ提出スベシ
 第十一、本要項ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

式第一號
 負擔法ノ現役教員擔任區
 一、所屬部隊名
 二、離休又ハ除隊當時ノ階級
 三、離休又ハ除隊ヲ命セラレタル月ノ軍給與（本俸）實額
 四、離休又ハ除隊ヲ命セラレタル年月日
 右欄及屆候地
 昭和 年 月 日
 市部 國民學校調書
 本人氏 名 圖

兵隊事務課長 殿
 昭和 年（前年）施行シタル師範學校ヲ卒業シタル國民學校調書ノ徵兵検査成績調書
 （四月十五日限報告）
 市部 國民學校長印

計人	氏名	師範學校			國民學校			備考
		師範學校	師範學校	師範學校	國民學校	國民學校	國民學校	
1	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	己種		
2	庚種	辛種	壬種	癸種	甲種	乙種		
3	丙種	丁種	戊種	己種	庚種	辛種		
4	壬種	癸種	甲種	乙種	丙種	丁種		
5	戊種	己種	庚種	辛種	壬種	癸種		
6	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	己種		
7	庚種	辛種	壬種	癸種	甲種	乙種		
8	丙種	丁種	戊種	己種	庚種	辛種		
9	壬種	癸種	甲種	乙種	丙種	丁種		
10	戊種	己種	庚種	辛種	壬種	癸種		

師範學校ヲ卒業シタル國民學校調書ニシテ其ノ年徵兵検査ヲ受タベキ者ニ關スル調書
 （昭和 年五月一日現在）
 市部 國民學校長印

●學校身體検査規程

（昭和十二年一月二十七日）
 交部省令 第二二號

沿革 昭和十四年四月第二〇號一六年四月第三三號改正
 學校身體検査規程左ノ通定ム

- 學校身體検査規程
- 第一條 學校ニ於テハ學生生徒兒童ノ身體ノ養護觀察ヲ適切ニシ體位ノ向上ト健康ノ増進トヲ圖ル爲メ本令ニ依リ身體検査ヲ施行スベシ
 - 第二條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ
 學校醫ナキトキ又ハ學校醫身體検査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
 學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齒牙ノ検査ハ學校齒科醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ
 學校職員、學校看護婦其ノ他適當ナル者ヲシテ身體検査ノ一部ヲ補助セシムルコトヲ得
 - 第三條 身體検査ハ毎年四月ニ之ヲ施行スベシ但シ止ムラ得ザル場合ニ於テハ身長、體重、胸圍、坐高ノ測定ヲ除キ六月末日迄ニ之ヲ施行スルコトヲ得
 - 第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ之ヲ施行スベシ

- 身長、體重、胸圍、坐高、榮養、脊柱、胸膈、眼、耳、鼻及咽頭、皮膚、齒牙、其ノ他ノ疾病及異常
- 前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得
- 第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ根據シテ之ヲ施行スベシ
- 一 身長、胸圍及坐高ハ「センチメートル」體量ハ「キログラム」ヲ以テ單位ノ下位ニ止メ四捨五入法ヲ用フベシ
 - 二 身長ノ測定ハ足袋、靴等ヲ脱シ兩踵ヲ密接シ背、臀部及踵ヲ尺柱ニ接シテ直立シ兩上肢ヲ體側ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保チ之ヲ測定スベシ
 - 三 體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ衣服ノ重量ヲ控除スベシ
 - 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ背面ハ肩胛骨ノ直下部、前面ハ乳頭ノ直上部ニ尺帶ヲ當テ安靜呼吸ノ終レルトキ之ヲ行フベシ乳房ノ著シク膨脹セル女子ニ在リテハ尺帶ヲ少シク其ノ上方ニ當テ測定スルモノトス
 - 五 坐高ハ腰掛ニ正坐セシメ上體ヲ垂直ニ保チ身長ノ測定方法ニ準ジ坐面ヨリ額頂マデノ距離ヲ測定スベシ
 - 六 榮養ハ皮膚ノ色澤、皮下脂肪ノ充實、筋骨ノ發達等ニ就キ検査スベシ榮養ノ狀態普通以下ニシテ衛生上特ニ注意ヲ要スト認ムルモノヲ「要注意」トシ其ノ他ノモノヲ「可」トシ之ヲ記入スベシ
 - 七 背脊ハ形態及疾病ニ就キ検査スベシ

形態ハ生理的變曲ヲ有スル者ヲ「正」トシ異常アル者ニ就テハ平背
圓背、龜背、側彎等ヲ區別スベシ
疾病ハ特ニ「カリニス」ニ注意スベシ
八 胸膈ハ形態、發育等ニ就キ検査スベシ

異常アル者ニ就テハ扁平胸、漏斗胸、鳩胸等ヲ區別スベシ
九 眼ハ視力、屈折異常、色盲及眼疾ニ就キ検査スベシ

視力ハ萬國式試視力表ニ就キ左右ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入ス
ベシ但シ眼鏡ヲ常用スル者ニ就テハ裸眼視力ノ外更ニ其ノ眼鏡ヲ裝
用シタル儘左右ノ視力ヲ検査シ括弧内ニ記入スベシ
弱視失明等モ各眼ニ就キ記入スベシ

屈折異常アル者ニ就テハ近視、遠視、亂視ノ種別ヲ各眼ニ就キ記入
スベシ

色盲ハ異常ノ有無ヲ記入スベシ
眼疾ハ特ニ「トラホーム」ニ注意スベシ

國民學校初等科第二學年（國民學校ニ進ズベキ各種學校ニ在リテ
ハ之ニ相當スル學年）以下ノ兒童ニ在リテハ視力、屈折異常及色盲
ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

（昭和十六年四月八日
第三三號改正）

一〇 耳ハ聽力及耳疾ニ就キ検査スベシ
聽力ハ適當ナル方法ニ依リ検査シ障礙ノ有無ヲ記入スベシ

上ノ學校ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人又ハ其ノ
保護者ニ通知スベシ授業免除、就學猶豫、休學又ハ治療、保護、矯正
等ヲ要スル者アルトキハ本人又ハ其ノ保護者ニ注意ヲ與ヘ適切ナル處
置ヲ講ゼシムベシ

學校ニ於テ必要アルトキハ健康相談、豫防處置、其ノ他適當ナル保健
看護ノ施設ヲ講ズベシ

第八條 身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ第一號様式ノ身體検査
票ニ記入シ本人在學中之ヲ使用スベシ轉學シタル者アルトキハ學校長
ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スベシ

第九條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ第二號様式ノ身體検査統
計表ヲ調製シ其ノ年八月末日迄ニ直轄學校、公私立大學、高等學校、
專門學校ニ在リテハ文部大臣ニ、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ
報告スベシ

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取調メ小學校以外ノ學校
ニ就テハ其ノ年九月末日迄ニ、小學校ニ就テハ第二號様式ニ準ジ道府
縣身體検査集計表ヲ調製添附シ其ノ年十二月末日迄ニ文部大臣ニ送付
スベシ

第十條 監督官廳若ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫若ハ學
校齒科醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ適當ナル項目
ニ就キ臨時身體検査ヲ行フコトヲ得

耳疾ハ特ニ中耳炎ニ注意シ耳聾塞アルトキハ耳疾票ニ記入スベシ
國民學校初等科第二學年（國民學校ニ進ズベキ各種學校ニ在リテハ
之ニ相當スル學年）以下ノ兒童ニ在リテハ聽力ノ検査ヲ省略スルコ
トヲ得

一一 鼻及咽頭、鼻炎、鼻茸、著膿症、腺樣增殖症、扁桃腺肥大等ニ
注意スベシ

一二 皮膚ハ白癬、疥癬其ノ他ノ傳染性皮膚疾患、濕疹、頭蝨等ニ注
意スベシ

一三 齒牙ハ齲蝕ニ就キ検査シ齲蝕齒、未達齲蝕ニ分テ其ノ數ヲ記
入スベシ

學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齲蝕ノ數ハ更ニ乳齒、永久齒
ニ分テ記入シ又齲列異常其ノ他ノ齒疾ニ就テモ注意スベシ

一四 其ノ他ノ疾病及異常ニ就テハ呼吸器、循環器、消化器、神經系
等ヲ検査シ結核疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患、貧血、胸氣、脫腸
神經衰弱、言語障礙、精神障礙、骨、關節ノ異常、四肢運動障礙等
ノ發見ニカムベシ

第六條 前條ノ検査ヲ終了シタルトキハ全身ノ狀態ヲ綜合考察シ身體虛
弱、精神薄弱又ハ疾病及異常ヲ有スル者ニシテ學校衛生上特別看護ノ
必要アリト認ムルモノヲ「要看護」トシ然ラザルモノヲ「可」トシ概
評票ニ記入スベシ但シ大學、高等學校、專門學校並ニ之ト同等程度以

第十一條 前各條ニ依ル身體検査ノ外就學、入學ニ關シ身體検査ヲ行フ
コトヲ得

第十二條 幼稚園幼兒ノ身體検査ニ就テハ本令ヲ準用ス

第十三條 大學ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ノ検査項目ニ據ラザ
ル身體検査ヲ施行スルコトヲ得

第十四條 直轄學校、公私立大學、高等學校、專門學校ノ長ハ學校職員
誰人等ノ身體検査ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ本令ノ施行上必要ナル細則ヲ設ケタルコトヲ得

第十六條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査
ヲ行ハザルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
道府縣ニ於テ第九條第二項ノ集計表ヲ調製シ難キ事情アルトキハ當分ノ
内之ヲ省略スルコトヲ得

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三條ノ規定ニ拘ラズ當分
ノ内毎年九月末日迄ニ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條第
一項ノ期限ハ十一月末日迄、同條第二項ノ期限ハ十二月末日迄トス
學生生徒兒童身體検査規程ハ之ヲ廢止ス

第一號様式

身 體 檢 査 票							
學 校 名	氏 名	男 女		年 月 日 生		家ノ職業	
		年	年	年	年	年	年
檢 査 年 月 日							
身 長	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm
體 重	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg
胸 圍	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm
坐 高	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm
比 體 重							
比 胸 圍							
比 坐 高							
榮 養							
習 性	形 態						
	疾 病						
	胸 廓						
眼	視 力	左	()	()	()	()	()
		右	()	()	()	()	()
	屈 折 異 常	左					
		右					
	色 神						
	眼 疾						
耳	聽 力						
		耳 疾					
鼻 及 咽 頭							
皮 膚							
齒	開 齒	處 置	()	()	()	()	()
		未 處 置	()	()	()	()	()
牙	其ノ他ノ齒疾						
其ノ他ノ疾	病 覺 評						
概 評	人ニ對スル						
本 注 意 事 項							
備 考							
檢 査 醫 印							

注 意 事 項

- 一 用紙ノ大サハ日本標準規格ニ依ル紙ノ仕上ゲ寸法A列第四號ニシテ 縦二九・七「センチメートル」横二一・〇「センチメートル」トス
- 二 縦ノ區劃ハ全年ノ數ヨリ一欄多クシ尙不足ヲ生ジタルトキハ符號ヲ以テ之ヲ補フコト
- 三 年齢ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿六年一日以上滿七年迄ノ者ヲ七年トシ其ノ他之ニ準ズルコト
- 四 轉校先ノ學校名ハ適宜學校名ノ欄ノ餘白ニ記入スルコト
- 五 疾病其ノ他ノ爲檢査ヲ受ケザル場合ハ當該區劃ニ其ノ旨ヲ記入スルコト
- 六 本人ニ對スル注意事項欄ニハ日常衛生上注意スベキ具體的事項ヲ記入スルコト
- 七 檢査項目中異常ナキ場合ニモ其ノ旨ヲ記入シ空欄ヲ殘サザルコト
- 八 比體重ノ欄ニハ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ニ、比胸圍ノ欄ニハ身長ヲ以テ胸圍ヲ除シタル商ニ、比坐高ノ欄ニハ身長ヲ以テ坐高ヲ除シタル商ニ夫々百ヲ乗ジタル數ヲ記入シ孰レモ四捨五入法ニ依リ小数點以下一位ニ止ムルコト
- 九 眼齒ヲ乳齒ト永久齒ニ分ツ場合ニハ乳齒ニ就テハ括弧内ニ記入スル

コト

- 一〇 其ノ他ノ齒疾ニ就キ檢査ヲ行ハザル場合ハ該當欄ニ斜線ヲ引クコト
- 一一 弱視失明アル場合ニハ視力欄括弧ノ右ニ記入スルコト

第二號様式

年度(校名)		身 體 檢 査 統 計 表 (男女)									
年	齡	年	年	年	年	年	年	年	年	年	計
身長	總平均										
	平均										
體重	總平均										
	平均										
胸圍	總平均										
	平均										
坐高	總平均										
	平均										
要者	注意者										
	正										
育往	異常アル者										
	力アリエス										
弱	異常アル者										
	視(兩眼)										
屈折異常	近視										
	遠視										
眼疾	トホーム										
	其他者										
耳疾	トホーム										
	其他者										
鼻及咽頭	トホーム										
	其他者										
皮膚齒牙	トホーム										
	其他者										
其ノ他ノ疾病及異常	トホーム										
	其他者										
評	査										
備	考										

注 意 事 項

- 一、用紙ノ大サハ日本標準規格ニ依ル紙ノ仕上寸法B列第四號ニシテ 幅三六・四「センチメートル」、 横二五・七「センチメートル」 トス
- 二、本表ハ男女別ニ調製スルコト
- 三、身長、胸圍、坐高ニ係ル身長、體重ニ係ル體重ノ各欄ニハ孰レモ同一年間ニ於ケル各検査人員ノ身長、胸圍、坐高又ハ體重ノ各合計ヲ 補フ平均ノ各欄ニハ其ノ検査人員ヲ以テ總長又ハ總重ヲ除シタル商 ヲ補フコト
- 四、屈視(兩眼)ハ兩眼ノ視力〇・三ニ達セザル者ニツキ記入スルコト
- 五、國民學校初等科第二學年(國民學校ニ準ズベキ各種學校ニ在リテハ 之ニ相當スル學年)以下ノ兒童及幼稚園ノ幼兒ニ在リテハ屈視(兩 眼)、屈折異常、色辨別能力ハ之ヲ本表ニ計入スルヲ要セズ
- 六、顯著アル者ニシテ特ニ處置ノ完了セルモノハ括弧内ニ其ノ數ヲ記入 スルコト
- 七、其ノ他ノ疾病及異常欄ニ於ケル疾病及異常ノ分類ハ成ルベク規程第 五條ノ十四項病名ニ據リ尙不足ヲ生ジタルトキハ符號ヲ以テ之ヲ補 フコト
- 八、前項ノ外本表ニ記入スベキ項目ノ一部ヲ缺キタル者ハ之ヲ表中ニ計 入セザルコト

九、外國人ニ係ルモノハ之ヲ計入セザルコト

- 一〇、備考ノ欄ニハ表中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ 必要ト認メタル事項ヲ記載スルコト
- 一一、本表ノ成績ニ關シ學校醫、學校齒科醫ニ於テ學校衛生上意見アル トキハ之ヲ表末ニ附記スルコト

●道府縣學校身體檢查集計表調製方法

(昭和十五年四月十五日)
文部省 訓令第十二號

北海道 府 縣

- 昭和十六年四月第一八號改正
- 學校身體檢查規程第九條第二項ノ規定ニ依ル道府縣學校身體檢查集計表 調製方法左ノ通り
- 道府縣學校身體檢查集計表調製方法
- 一 師範學校
 - 二 中學校
 - 三 高等女學校
 - 四 工業學校
 - 五 農業學校
 - 六 商業學校
 - 七 商船學校

- 八 水産學校
- 九 職業學校
- 十 青年學校
- 十一 盲學校
- 十二 聾啞學校
- 十三 國民學校

第二條 前條第二號乃至第十三號ノ各學校ニ準ズベキ各種學校ハ夫々ノ學校種別中ニ包括シ、其ノ他ノモノハ之ヲ一括シ道府縣學校身體検査集計表ヲ編製スヘシ

●學校職員身體検査規程

(昭和十四年四月十九日
文部省令第十七號)

昭和十六年四月第三四號改正
學校職員身體検査規程左ノ通定ム

- 第一條 學校職員身體検査ハ學校職員ノ健康ヲ保全シ、生徒兒童ノ衛生ヲ完ラセシムル爲本令ニ依リ之ヲ施行スベシ
- 第二條 本令ニ於テ學校職員ト稱スルハ學校長、教員、舍監、書記及其ノ他學校ニ勤務スル者ヲ謂フ
- 第三條 身體検査ハ之ヲ分テ普通身體検査、特別身體検査ノ二種トス
- 第四條 普通身體検査ハ學校長ニ於テ學校職員ヲシテ毎年四月ヨリ六月末

日迄ニ之ヲ行ハシムベシ

學校種別ナキトキ又ハ學校職員身體検査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ職

師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齒牙ノ検査ハ學校齒科醫ヲシテ

之ヲ行ハシムベシ

學校職員、學校看護婦其ノ他適當ナル者ヲシテ身體検査ノ一部ヲ補助

セシムルコトヲ得

第五條 普通身體検査ハ左ノ項目ニ就キ之ヲ施行スベシ

身長、體重、胸圍、榮養、運動機能、眼、耳、齒牙、呼吸器、循環器

神經系、言語、皮膚、其ノ他ノ疾病及異常

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得

第六條 前條ノ身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ之ヲ施行スベシ

一 身長、體重、胸圍、榮養、眼、耳、齒牙、皮膚、其ノ他ノ疾病及

異常ハ學校職員身體検査規程第五條ニ準據シテ之ヲ施行スベシ

二 呼吸器、循環器、神經系、言語ニ就テハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査ス

ベシ

呼吸器ニ就テハ特ニ結核ニ注意シ、之ニ關シ必要ナル諸検査ハ成ル

ベク之ヲ實施スベシ

三 運動機能ハ男子ニ在リテハ懸垂屈臂及幅跳、女子ニ在リテハ臂立

伏臥臂屈伸及立幅跳ニ就キ検査スベシ但シ男子ニ在リテハ年齢四十

年、女子ニ在リテハ年齢三十五年ヲ超ユル者及本項ノ検査ニ適セザ

ル疾病異常ヲ有スル者ハ運動機能ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第七條 普通身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ第一號様式ノ學校

在等ヲ實施スベシ

第十三條 特別身體検査ノ成績ハ地方長官ニ於テ之ヲ取據メ検査人員、

要保護者ノ數及病類別ノ表ヲ作製シ毎年三月末日迄ニ文部大臣ニ報告

スベシ

前項ノ要保護者ノ數ハ特別身體検査ノ結果生徒兒童ノ衛生上特ニ考慮

ヲ要スベキ疾病若ハ其ノ疑アル症狀ヲ有シ特ニ保護ノ必要アリト認ム

ル者ノ數ヲ記載スルモノトス

第十四條 地方長官ハ本令ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 職員普通身體検査票ニ記入シ、本人在職中ニ於テ使用スベシ他校ヨリ轉任シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校長ヨリ其ノ者ノ身體検査票官ノ交付ヲ受クベシ
- 學校職員普通身體検査票ハ學校長ニ於テ之ヲ保管スベシ
- 第八條 普通身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人ニ通知シ治療、矯正、保養等ヲ要スルモノアルトキハ其ノ旨本人ニ注意ヲ與ヘ適當ナル處置ヲ講ズベシ
- 第九條 普通身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ第二號様式ノ學校職員普通身體検査報告書ヲ編製シ其ノ年七月末日迄ニ地方長官ニ報告スベシ
- 地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取據メ且第三號様式ノ學校職員普通身體検査統計表ヲ編製添附シ其ノ年九月末日迄ニ文部大臣ニ報告スベシ
- 第十條 病氣其ノ他ノ事由ニ依リ普通身體検査ヲ受ケザル者ニ對シテハ其ノ事由止ミタル後直ニ之ヲ施行スベシ
- 第十一條 特別身體検査ハ地方長官ニ於テ學校衛生技師又ハ地方長官ノ指定シタル醫師ヲシテ之ヲ行ハシムベシ
- 前項ノ検査ハ學校職員ガ少クトモ三箇年ニ一回受檢スベキ方法ニ依リ之ヲ行フモノトス
- 必要アルトキハ第一項ノ身體検査ハ臨時ニ之ヲ施行スルコトヲ得
- 第十二條 特別身體検査ハ呼吸器其ノ他ニ就キ生徒兒童ノ衛生上特ニ考慮ヲ要スベキ疾病ニ就キ之ヲ行ヒ、必要アルトキハ「エツクス」線検査「ツベルチン」皮内反陽検査、赤血球沈降速度測定、細菌學的検査

第二號様式

昭和	年度	専任教員普通身体検査報告書	
氏名			
職名			
男女別			
年齢			
身長			
体重			
胸圍			
比体重			
比胸圍			
検査			
運動機能			
立幅跳			
立伏屈伸			
眼力	左		
	右		
屈折異常	左		
	右		
色	神		
眼疾			
耳	耳		
	力疾		
齒	齒		
	未		
牙	其他/歯疾		
呼吸器			
循環器			
神経系			
皮膚			
其他疾病及異常			
胸氣缺勤日数			
本人=對スル注意事項			
備考			

注意事項

- 一、用紙ノ大サハ日本標準規格ニ依ル紙ノ仕上寸法A列第三番ニシテ、縦四二〇〇「センチメートル」、横二九〇七「センチメートル」トス
- 二、縦ノ區劃ハ三十個トシテ、尙不足ヲ生ジタルトキハ別表ヲ使用スルコト
- 三、氏名ノ欄ニハ身體検査ヲ行ハザル者（休職者ヲ含ム）ノ氏名ヲモ記入シ備考欄ニ其ノ旨記入スルコト

第一號様式

専任教員普通身体検査表		昭和													
氏名	職名	昭和		昭和		昭和		昭和		昭和		昭和		昭和	
		年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月
身長		cm		cm		cm		cm		cm		cm		cm	
体重		kg		kg		kg		kg		kg		kg		kg	
胸圍		cm		cm		cm		cm		cm		cm		cm	
比体重															
比胸圍															
検査															
運動機能															
立幅跳															
立伏屈伸															
眼力	左														
	右														
屈折異常	左														
	右														
色	神														
眼疾															
耳	耳														
	力疾														
齒	齒														
	未														
牙	其他/歯疾														
呼吸器															
循環器															
神経系															
皮膚															
其他疾病及異常															
胸氣缺勤日数															
本人=對スル注意事項															
備考															

注意事項

- 一、用紙ノ大サハ日本標準規格ニ依ル紙ノ仕上寸法B列第四番ニシテ縦三六〇四「センチメートル」、横二五〇七「センチメートル」トス
- 二、縦ノ區劃ハ十個トシ、尙不足ヲ生ジタルトキハ別表ヲ使用スルコト
- 三、年齢ハ四月一日ノ計算ニ依リ滿十八年一日以上滿十九年迄ノ者ヲ十九年トシ其ノ他之ニ準ズルコト
- 四、職名ノ欄ニハ専任校長、教諭、助教諭、調理学、舎監、書記、炊夫、船仕、小使等ノ別ヲ記入スルコト
- 五、比体重ノ欄ニハ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ニ百ヲ乗ジタル數ヲ記入シ四捨五入法ニ依リ小數點以下一位ニ止ムルコト
- 六、比胸圍ノ欄ニハ身長ヲ以テ胸圍ヲ除シタル商ニ百ヲ乗ジタル數ヲ記入シ四捨五入法ニ依リ小數點以下一位ニ止ムルコト
- 七、屈折異常、色神、眼疾、耳疾、其ノ他ノ齒疾、呼吸器、循環器、神経系、皮膚其ノ他ノ疾病及異常ノ各欄ニハ夫々疾病及異常名ヲ記入シ、疾病及異常ナキトキハ別表ヲ引クコト
- 八、其ノ他ノ齒疾ヲ就テ検査ヲ行ハザル場合ハ該當欄ニ斜線ヲ引クコト
- 九、胸氣缺勤日数ノ欄ニハ前年度ニ於ケル胸氣缺勤ノ延日數ヲ記入スルコト
- 十、本人ニ對スル注意事項ノ欄ニハ保體上注意スベキ事項ヲ記入スルコト

第三號様式

昭和 年度		學校職員普通身障検査統計表										(男女)				
學 校 種 別	種 別	師範校	中學校	高等女學校	高等學校	實業學校	青年學校	盲學校	聾學校	盲人學校	各種學校	幼 稚 園	合 計	男	女	
一、可 疑 症	眼 疾															
	近 視															
	遠 視															
	老 眼															
	斜 視															
	弱 視															
	眼 疾 計															
	耳 疾															
	聾 啞															
	耳 疾 計															
二、障 害 症	結核性疾患															
	肺結核															
	肺外結核															
	結核性疾患計															
	梅毒															
	淋病															
	皮膚梅毒															
	梅毒計															
	結核性疾患計															
	梅毒計															
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																
梅毒計																
結核性疾患計																

學校ニ於ケル體操及武道ハ從來ノ學校體操及武道要目及小學校武道指導要目ニ基キ地方ノ情況ニ適切ナル體操編目ヲ定メ之ヲ實施スルコト
一〇、國民學校令施行規則第二十六條中廢修スルコト能ハザル教材トハ教師其ノ他教授要目ニ依リ必ズ課スベキモノナルコトヲ規定セラレタル教材例ハ體操科體操中ノ體操、教職、遊藝競技及衛生ノ如キモノヲ謂フコト

一一、映畫及放送ヲ授業ノ上ニ利用スルハ教育ノ能率ヲ一層大ナラシムルモノアルベキヲ以テ今般新ニ文部大臣ノ檢定ヲ受ケタル映畫及文部大臣ノ指定シタル種目ノ放送ハ之ヲ教育ノ上ニ利用シ得ルコトヲ認メタル處之ガ利用ニ關シテハ設備及取扱等ニ付特ニ注意セシメ所期ノ效果ヲ擧グルニ力メシムルコト

一二、國民學校ノ學級數ハ二十四學級以下トシ特別ノ事情アル場合例外ヲ認ムルコトハ從前ノ規定ト同様ナリ然レドモ現ニ著シク多數ノ學級ヲ有スル學校ニ對シテハ財政其ノ他ノ關係ヲ考慮シ大體四十八學級程度迄減少セシムル體裁ヲ加フルコト

一三、一學級ノ兒童數ハ初等科ニ在リテハ六十人、高等科ニ在リテハ五十人トシ特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ制限ニ依ラザルコトヲ得ルコトトナリタルモ昭和十七年四月以降ニ於テ右ノ制限ニ依ラザルニ依ルコトトセリ從テ昭和十七年四月以降ニ於テ右ノ制限ニ依ラザルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムベキモノナルヲ以テ之ガ認可ヲ爲ス場合ハ財政其ノ他ノ關係ヲ考慮シテ大體各々十人迄ヲ増スコトヲ標準トシテ取扱フコト

一四、小學校令第三十六條第一項ノ規定ニ依リ家庭其ノ他ニ於テ尋常小

學校ノ教科ヲ修メテアラル兒童ニシテ昭和十六年四月一日以降國民學校令第十一條ニ規定スル學校ニ就學スルモノ以外ノ者ハ總テ國民學校ニ就學セシムベキニ付之ガ就學旨趣ニ關シ特ニ規定スルコト

一五、市又ハ市町村學校組合ノ設置スル國民學校ノ職員ノ進退ニ關シテハ市長又ハ市町村學校組合管理員(以下單ニ市長ト稱ス)ヨリ地方長官ニ具狀シ得ルコトトナシ從來ノ小學校長及教員ノ任用ハ市長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フノ規定ヲ廢シタルハ主トシテ國民學校指導ノ地位ノ向上ニ伴ヒ法令整備上ノ必要ニ出テタルモノニシテ當該職員ノ進退ニ關シテハ原則トシテ市長ヨリ具狀セシムル趣旨ナルコト

一六、國民學校令第五十五條第二項ノ規定ニ依リ國民學校指導ニ任セラレタル者ノ勤務命令ハ道府縣令又ハ告示ヲ以テ之ニ關スル規定ヲ設ケルコト

一七、國民學校ニ新ニ教頭ヲ置キ得ルコトトシタルモ之ヲ置ク學校ハ凡六學級以上ノモノヲ標準トシテ之ヲ取扱フコト

一八、准指導及助導ノ進退、懲戒處分、俸給處置其ノ他諸給與並ニ其ノ支給方法ニ關シテハ從前ノ規定ヲ斟酌シテ適當ニ之ヲ定メ現ニ准教員及代用教員ノ職ニ在ル者ノ身分上ノ取扱ニ付テハ其ノ經過規定ヲ設ケルコト

一九、國民學校ニ新ニ養護指導ヲ置クコトヲ得ルコトトシタルモ之ニ依リ學校看護婦ヲ置クコトヲ得ズトシタルニアラザルヲ以テ學校看護婦ハ從來通り取扱支ナキコト

二〇、國民學校職員ノ慰勞金、助料、療給料、住宅料等ノ規則ハ之ヲ設ケザルコトトナリタルヲ以テ此等ニ關スル規程ハ公立學校職員俸給令

第十八條ノ規定ニ基キ地方長官之ヲ定ムベキモノナルニ依リ從前ノ例ヲ參照シ適當ナル規程ヲ設ケルコト

二一、國民學校職員ノ服務ニ關シテハ國民學校令施行規則中ニ特ニ規定シタル事項以外ノ事項ハ總テ官吏服務規程ニ從フベキモノナルニ付之ヲ關係者ニ周知セシムルコト

二二、國民學校職員ノ懲戒處分ハ明治四十年勅令第七十七號ニ依ルベキモノナルヲ以テ之ガ取扱ニ付注意スルコト尙判任官ノ待遇ヲ受ケタル職員ノ懲戒處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ職名、氏名、處分ノ程度及其ノ事由ヲ直ニ文部大臣ニ報告スルコト

二三、小學校專科正教員(手工)免許狀ハ國民學校專科指導(工作)免許狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノトシテ取扱フコト

二四、青年學校教員ニ對シ指導及准指導ノ無試験檢定ヲ行フ場合ハ國民學校令施行規則第九十七條第一項第七號ニ依リ之ヲ取扱フコト

二五、專科指導ノ試験檢定ノ科目ニ體操、武道ヲ加ヘタルモ體操科ノ授業ハ本科指導及初等科指導之ヲ擔任スルヲ本則トスルモノナルヲ以テ體操、武道ノ專科指導ヲ置ク學校ニ在リテハ之ヲ其ノ指導ニノミ擔任セシムルコトヲ本科指導及初等科指導ニモ之ヲ擔任セシメ以テ專門的授業ニ備セシメザル體裁スルコト

二六、國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護指導免許狀ノ發給處分ヲ行ハントスル場合其ノ事件ガ刑事事件ニシテ裁判所ニ要關スル間ハ其ノ處分ハ之ヲ行ハザルコト

二七、國民學校ニ於ケル授業料額ハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一月二十圓以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一月十圓以下ヲ徵收

スルコトヲ得ルヲ原則ト定メラレタリ然レドモ現ニ此ノ範圍ヲ超ニテ徵收シ居ル場合ハ當分ノ内其ノ範圍内ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ徵收スルコトヲ得ルコトトセリ依テ地方長官ニ於テ其ノ認可ヲ爲ストキハ其ノ期限ヲ一年宛トシ毎年漸次減減セシメ義務教育年限延長實施ノ年度ニ至ラテハ總テ國民學校令施行規則第一百二十二條、第一百三條及第一百五條ノ規定ニ依ラシムルコト

二八、傳染病預防ノ必要ニ因リ國民學校ノ閉鎖ニ關スル規定ハ國民學校令中ニ之ヲ設ケラザルニ付將來其ノ必要アル場合ハ學校傳染病預防規程ニ依リ處置セシムルコト

二九、國民學校令第十八條第六項ノ規定ニ依リ新ニ國民學校教員檢定委員會官制ヲ制定セラルルコトトナリタルニ依リ從前ノ規定ニ依ル小學校教員檢定委員會ノ職員ハ廢職トナルヲ以テ國民學校教員檢定委員會ノ職員ハ新ニ之ヲ任命スルコト

三〇、小學校教員試驗檢定出願中ノ者ニ付テハ來ル四月一日以降ニ於テ改メテ國民學校教員檢定額ヲ提出セシムルコト

三一、國民學校令施行規則施行ノ際現ニ存スル市町村立高等小學校ニ關シテハ國民學校令第二十九條ノ規定ニ依リ其ノ校數及位置ヲ定メタルモノトシテ之ヲ取扱フコト

●國民學校藝能科音樂ニ於ケル
音名唱法ニ關スル件

(昭和十六年五月三日)
兵學第一〇七五號一學務部長通牒

各國民學校長宛

從來小學校ノ唱歌教授ニ於テハ「移動唱法」「固定唱法」其ノ他ノ音名唱法ヲ採用セラレ居リタル處、今般國民學校藝能科音樂ニ於テハ「日本音名唱法」(イロハニホヘト)ヲ採用シ、第四學年ヨリハ「移動唱法」ヲ併用シ得ルコトニ決定致シタルニ付、今後藝能科音樂授業ニ際シテハ右ノ趣旨ヲ徹底致サレ度依命此段及通牒候也

●實業專門學校卒業程度檢定規程

(昭和十六年五月八日)
文部省令第五十四號

實業專門學校卒業程度檢定規程左ノ通定ム

- 第一條 實業ニ從事シ又ハ從事セントスル者ノ爲實業專門學校卒業程度檢定ヲ行フ
- 第二條 實業專門學校卒業程度檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付修業年限三年ノ實業專門學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ
 - 一、中學校若ハ修業年限四年以上ノ高等女學校卒業者
 - 二、專門學校入學者檢定規程第十一條ニ依リ指定ヲ受ケタル者

- 三、實業學校卒業程度檢定規程ニ據ル試験檢定ニ合格シタル者
- 四、專門學校入學者檢定規程ニ據ル試験檢定ニ合格シタル者
- 五、前各號ニ該當スル者ノ外一般專門學校ノ入學ニ關シ無試験檢定ノ指定ヲ受ケタル者

- 第三條 檢定ハ毎年一回以上之ヲ行ヒ其ノ檢定ノ期日、場所、出願期限檢定ヲ爲スベキ學校ノ種別、學科、學科目ハ豫メ之ヲ告示ス
- 第四條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ文部大臣ニ出願スベシ
 - 一、履歷書(第二號書式)
 - 二、戶籍抄本
 - 三、寫眞(手札形トシ半身脱帽ニテ出願前六月以内ニ撮影シ臺紙ニ貼附シ裏面ニ撮影年月日、本籍地、現住所、氏名ヲ記載シタルモノ)
 - 四、出身學校卒業證明書又ハ試験檢定合格證明書
 - 五、第七條ノ證明書ヲ有スル者ハ其ノ寫
- 第五條 檢定ヲ受ケントスル者ハ手数料トシテ一學科ニ付金拾圓ヲ納付スベシ
- 第六條 檢定ニ合格シタル者ニハ合格證書(第三號書式)ヲ付與ス
- 第七條 檢定ヲ受ケタル者ニシテ之ニ合格セザルモ受檢學科目一科目又ハ數科目ニ付實業專門學校卒業程度ノ學力アリト認めタルトキハ其ノ證明書(第四號書式)ヲ交付ス
- 前項ノ證明書ヲ有スル者ニシテ當該學科ニ付檢定ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試験ヲ免除ス
- 第八條 不正ノ方法ニ依リ檢定ヲ受ケントシタル者又ハ檢定ニ關スル規

程ニ違反シタル者ハ其ノ檢定ヲ受ケルコトヲ得ズ
檢定後前項ノ事實發覺シタルトキハ既ニ交付シタル合格證書又ハ證明書ハ其ノ效力ヲ失フ

第九條 合格證書ヲ有スル者氏名ヲ變更シ又ハ合格證書ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ書換若ハ再交付ヲ出願スルコトヲ得、第七條ノ證明書ニ付亦同シ

前項ニ依リ合格證書又ハ證明書ノ書換若ハ再交付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金壹圓ヲ納付スベシ
第十條 手数料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ
既納ノ手数料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セズ

附 則

附則本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(文部省所定用紙)

受檢 願書
本 籍
收 入
印 紙
現住所

氏 名
年 月 日 生

學校ノ種別 何
學 科 何
免除學科目 何

私權實業專門學校卒業程度檢定規程ニ依リ檢定相受度書類ヲ具シ此段相關候也

年 月 日

氏 名 印

文部大臣宛

(記載注意)

- 一、免除學科目ニハ其ノ免除學科目ノ種類ヲ記載スベシ
- 二、出願者氏名ノ漢字ニハ振假名ヲ付スベシ

第二號書式(用紙美濃紙)

本 籍
履 歷 書
現住所

氏 名
年 月 日 生

學 業

- 一、年月日 何學校何學科第何學年ニ入學、年 月卒業
- 一、年月日 何年何月施行實業專門學校卒業程度ノ檢定ニ於テ何學校何學科何學科目合格證明書受領(證明書番號何 號)

業 務
一、年月日 何官職拜命若ハ何業ニ從事 月 日何事由ニ依リ退官若

ハ廢業

賞 罰

- 一、年月日 何事由ニ依リ何賞若ハ何罰ヲ受
- 一、年月日 何事由ニ依リ何ト改氏名等

(記載注意)

- 一、業務ハ現在若ハ最近ノ經歷ニ限リ記載スベシ。
- 二、實績ハ經歷上特ニ重要ナル事項ニ限リ記載スベシ
- 三、身上ニ關スル事項ハ本籍氏名ノ變更等身上ノ異動ヲ詳記スベシ

第三號書式
昭和 年 第 號
合格證書
本籍

氏 名
年月日生
右ハ實業專門學校卒業程度檢定規程ニ依リ何學校何學科檢定ニ合格シタルコトヲ證ス
年 月 日
文 部 省 印

第四號書式
昭和 年 何學校第 號
證明書
本籍

氏 名
年月日生
右ハ實業專門學校卒業程度檢定規程ニ依リ何學校何學科檢定ニ於テ左記學科目ニ付キ合格點ヲ得タルコトヲ證明ス
年 月 日
文 部 省 印

檢定施行年月 合格點ヲ得タル學科目

●國民學校令施行規則第五十三條ノ規定ニ依ル學級又ハ學校ノ編制ニ關スル規程

(昭和十六年五月八日 文部省令第五十五號)

- 第一條 本令ニ於テ養護學級又ハ養護學校ト稱スルハ國民學校令施行規則第五十三條ノ規定ニ依リ編制セルモノヲ謂フ
- 第二條 養護學級又ハ養護學校ノ一學級ノ兒童數ハ三十人以下トス
- 第三條 養護學級又ハ養護學校ニ在リテハ成ルベク身體虛弱、精神薄弱、弱視、難聽、吃音、肢體不自由等ノ別ニ學級又ハ學校ヲ編制スベシ
- 第四條 養護學級ヲ編制シタル學校又ハ養護學校ニ於テハ養護訓導ヲ置クベシ
- 第五條 地方長官ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ養護學級ノ編制ヲ命ズルコトヲ得
- 第六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 特別ノ事情アル場合ハ當分ノ内養護訓導ヲ置カズ養護訓導ノ實務ヲ有セザル者ヲシテ衛生養護ノ實務ニ從事セシムルコトヲ得 (參照)
- 昭和十六年三月十日 文部省令第四號國民學校令施行規則抄錄
- 第五十三條 國民學校ニ於テハ身體虛弱精神薄弱其ノ他心身ニ異常アル兒童ニシテ特別養護ノ必要アリト認ムルモノノ爲ニ特ニ學級又ハ學校ヲ編制スルコトヲ得
- 前項ノ學級又ハ學校ノ編制ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

昭和十六年六月一日 納本
昭和十六年五月二十三日 印刷
昭和十六年六月十日 發行

編輯者
發行者
財團 兵庫縣教育會
法人

右代表者
姫路市町ノ坪 森 棟 二

印刷者
神戸市湊區菊水町二丁目 森 下 藤 市

發行所

神戸市神戸區山本通五丁目四四

財團 兵庫縣教育會
法人

電話 (元町) ④④三〇三七番
電話 (元町) ④④三八三番
電話 (神戶) 九八二八三番





